

目ニ御知ラセ願度キ旨ヲ述ヘタリ「ト」書翰寫ハ郵送スヘ
キモ右不取敢經濟聯盟ヘ御傳ヲ請フ
米ヘ暗送セリ

271 昭和10年11月27日 広田外務大臣より
在ニューヨーク沢田総領事宛(電報)

日本からの答礼視察団は将来的な懸案として
持ち越したいとの回答について

本省 11月27日後8時発

第一一〇號

貴電第二〇四號ニ關シ

經濟聯盟トモ篤ト相談シタル處「トーマス」ノ斡旋ハ多ト
スル所ナルモ先方希望ノ渡米時期ノ關係上年末ヲ控ヘタル
此際目星シキ本邦側實業家ニ於テ都合付キカナル事情アリ
就テハ本件ハ將來改メテ好機ヲ捕ヘテ考慮スルコトトシ度
キニ付右ノ次第「ト」ニ申傳ヘラレタシ
米ヘ暗送アリタシ

五 諸外国との通商問題

272 昭和10年1月21日 重光外務次官より
津島大藏次官 吉野(信次)商工次官 宛

オランダの對外通商政策に関する武富公使の
報告送付について

通一普通合第二八八號

昭和十年一月二十一日

外務次官 重光 葵

大藏次官 津島 壽一殿
商工次官 吉野 信次殿

和蘭ノ對外通商政策ニ關スル件

本件ニ關シ今般在蘭武富公使ヨリ別紙寫ノ通報告アリタル
ニ付何等御參考迄右茲ニ別添送付ス

(別 紙)

昭和九年十二月十一日

在蘭

特命全權公使 武富 敏彦(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

蘭國ノ對外經濟政策ニ關スル件

本件ニ關シ左記ノ通り報告申進ス

「目下議會ニ於テ審議繼續中ナル明年度蘭國政府豫算案ニ
關聯シテ第二院議員ヨリ提出セラレタル蘭國政府ノ對外通
商政策ニ關スル質疑ニ對シ最近經濟大臣ハ左記要領ノ應答
ヲナセル趣ナリ

本年和蘭政府力締結シタル國際通商約定ハ大別シテ纏マリ
タル形ヲ取レル通商條約ト其他ノ通商取極トナス前者ニ屬
スルモノハ「ウルグワイ」國スペイン國及ポルトガル國ト
和蘭國ノ間ニ夫々締結セラレタル通商條約ニシテ何レノ條
約ニ於テモ關稅率ニ關シ最惠國待遇ヲ再ヒ約セシメ得タル
ヲ以テ蘭國重要輸出品ニ對スル不利ハ除去セラレタリ殊ニ
「ポルトガル」トノ條約ニ於テ其第十九條ニ依リ蘭國船舶
ニヨリ輸送セラルル貨物ニ對スル國旗ニヨル差別撤回セラ

レタリ後者ニ屬スル通商取極中アルゼンチン國トノ間ノ暫定取極ハ最惠國約款ヲ有シ居ルヲ以テ右ニヨリ和蘭國ハ英國ガアルゼンチン國ヨリ得タル多數輸入品ニ對スル稅率ノ低減ニ均霑スルモノナリ又波蘭國トノ間ノ稅率協定伊太利國トノ間ノ通商協定及チエツコスロヴァキア國トノ通商條約ニ對スル補足協定ニ於テ夫々稅率ノ低減ヲ得タリ

尙白耳義、佛蘭西、西班牙及チエツコスロヴァキア國トノ間ニ夫々割當ニ關スル協定ヲ取結ビ以テ之等ノ國ニ對スル蘭國ノ輸出ヲ現在額ニ又ハ夫レ以上ニ増加センコトヲ期セリ又奧地利國トノ間ニ於テモ割當協定ヲ締結セントシ目下商議中ナリ

丁抹國トノ取極ハ前記諸協定ト多少趣ヲ異ニシ全國ノ爲替管理制ヲ考慮ニ容レテ締結セラレタルモノニシテ右取極ニ依レバ和蘭國ハ其輸出品ニ對シ一定ノ爲替額ヲ得而テ丁抹國ハ右爲替額ニ相當スル和蘭國ヨリノ輸入ニ付品目ヲ選擇スルノ權利ヲ留保セリ尙英國トモ暫定取極ヲ取結ビ割當ニ關シ相互ニ保證ヲ約シタリ而テ和蘭國政府ハ之等ノ諸國ト通商協定ヲ締結スルニ當リ蘭領東印度ノ利益ヲモ屢々考慮ニ容レタリ蘭領東印度ハ其貿易關係ニ於テ他國ガ椰子油コ

而シテ一九三四年ニ於ケル蘭國ノ之等諸國ニ對スル外交ハ敍上通商約定ノ締結ヲ中心トシテ働キタルノ觀ヲ呈セリ

三、以上ノ諸約定ハ批准條項ヲ有スルモノ多數ナルモ迅速ナル實施ヲ必要トスル關係上殆ト其全部ハ條文中ニ將又附屬議定書ニ於テ調印ノ直後又ハ其ノ若干日後ヨリノ暫定實施ヲ約シ居レリ

273 昭和10年1月22日 在シドニー村井(倉松)總領事より
広田外務大臣宛(電報)

今次オーストラリアとの通商交渉において重要案件となる輸入禁止制限問題への対応策について

別電 一月二十二日着在シドニー村井總領事より広田
外務大臣宛会商第三号
右対応策

シドニー 発
本省 1月22日後着

會商第二號(極秘)

左記ニ付何分ノ儀至急御回電ヲ請フ

プラ珈琲煙草等ノ蘭印物產ノ輸入ニ關シ與ヘタル利益ニ對シ多クノ場合全等ノ利益ヲ該國ニ與ヘ得サル事情ニ在ルヲ以テ本國ハ之レカ爲本國ト其國ノ輸出關係ニ於テ將又輸入關係ニ於テ犧牲ヲ拂ヒタルコト往々アリタリ如斯措置ハ本國ト海外植民地トノ連衡ヲ必要トスルノ思想ニ基キタルモノニシテ右思想故本國物產ノ蘭印ヘノ輸入増加ガ注目セラ

ルナリ云々

三、經濟大臣ガ以上ノ如ク列舉シタル條約又ハ協定ノ外ニ和蘭國ハ土耳其國トノ間ニ割當ニ關シ又獨逸國トノ間ニ獨逸國ノ對蘭印貿易ニ關シ夫々協定ヲ取結ヒタリ敍上ノ諸通商約定ノ外ニ十二月五日附往信ヲ以テ申進タル如ク和蘭國ハ土耳其智利獨逸ノ各國ト「ソリアリング」協定ヲ締結シ又ウルグアイ國及アルゼンチン國ニ爲替制限措置ニ關スル最惠國待遇ヲ約セシメ以テ之等ノ國ニ對スル蘭國物產ノ輸出現狀維持又ハ増加ヲ企圖セリ依是觀之和蘭國政府ハ諸外國ノ關稅牆壁、輸入制限及爲替障害ヲ除去又ハ緩和スルコトニ頗ル懸命ニシテ過去十一ヶ月間ニ締結セラレタル通商關係約定ハ其數及種類ニ於テ未タ曾テ全國力經驗シタルコトナキ程多數多岐ニ亘リ居ル趣ナリ

二(イ)濠洲政府最近ノ態度ハ友好的ニシテ本邦品ニ對シ俄ニ輸入割當制度ヲ適用スルカ如キコト無シト思考スルモ各國ト互惠條約締結ノ方針ヲ採用シタル折柄相手國ニ利益ヲ與フル爲割當制度ヲ實施シ之カ爲我方力不利ナル立場ニ置カルルノ虞無シトセス(昭和九年十二月十八日附公第二二二號參照殊ニ英濠間關係ニ於テ其ノ慮大ナリ)二月末首相通商條約大臣「ガレット」ヲ帶同渡英通商問題ヲ協議ノ筈)若シ右ノ如キコトアリトセハ今次ノ條約ニ於テ稅率ニ付有利ナル條件ヲ獲得スルモ其ノ效果無シ

(ロ)他方我方ニ於テ輸入制限問題ニ觸ルルコトヲ避クルモ先方ヨリ羊毛等ノ輸入ニ付制限ヲ爲ササルコトヲ要求シ來ルコトハ想像シ得ル處ニシテ(二十日「サン」紙ハ濠洲側ハ羊毛、小麥、金屬及「タロウ」ノ自由輸入ノ保障並ニ南阿及南米諸國トノ條約ニ依ル濠洲ノ貿易ヲ害セサルノ約束ヲ要求スヘシト傳フ)輸入禁止制限問題ハ必然今次交渉中ノ重要案トナルヘシ

(ハ)尙又最惠國條款ノアル場合擅ニ割當制度ヲ實施スルコトヲ得ストハ我方力從來諸外國ニ對シ主張シ來レル處ニシテ濠洲側ニ對シテノミ異ナル解釋ヲ採用スル時ハ他國

トノ關係ニ於テ不利益ナル結果ヲ來シ大局上面白カラサルヘシ

(二)就テハ先方ヨリ前記(ロ)ノ如キ提案アリタル場合別電第三號ノ如キ案ヲ提出シ折衝ヲ試ミルコトト致度キ處右御差支無キヤ

ニ、英特惠ハ條約ニ明記スルトセサルトニ拘ラス事實上最惠國條款ノ例外トシテ之ヲ認ムルノ外無キ處特惠ノ「マージン」ヲ不當ニ大ナラシメサル爲何等カノ保障ヲ取付ケ置クコト望マシト思考セラルルニ付適當ナル機會ヲ捉ヘ「特惠ノ「マージン」ハ日本國出產者ニ對シ公正ナル競争ノ充分ナル機會ヲ與フル標準ヲ超エサルヘシ」トノ原則承認方ヲ要求スルコト然ルヘキヤニ思考ス(「オタワ」協定第十條參照)

(別電)

シドニー 發
本省 1月22日後着

會商第三號(極秘)

一、日本政府ハ附屬B表ニ掲クル物品ニ付又濠洲政府ハ附屬

會商第二號(極秘)

貴電第二號ニ關シ

一、貴案ハ豫テ本省ニ於テモ考慮中ナリシ處ニシテ至極妙案ト思考スル處元來日濠貿易關係ハ日印關係ニ比シ交渉上我方力餘程強キ立場ニアル次第ナルニ付テハ貴電第三號一ノ案ニ左ノ修正ヲ加ヘタルモノヲ以テ進マレタシ

(a)禁止制限抑制ノ品目ヲA B兩表ニ限定セス日佛條約第六條第一項ヲ修正シ「、、、、通商ヲ妨ケサル意嚮ナルヲ以テ若シ或種物品ニ關シ輸入制限云々」トシ貴案ノ但書以下ヲ削除ス

第二項トシテ「右協議開始後三ヶ月内ニ満足ニ纏ラサル時ハ協議ヲ申出テタル國ハ條約第九條ノ規定ニ拘ラス三月ノ豫告ヲ以テ本條約ヲ廢棄スルコトヲ得」トシ以テ貴案ヨリモ制限措置ノ實施ノ機會ヲ少ナカラシメ度シ

(b)最モ我方力著敷入超國ナル關係上第三項トシテ「制限措置ヲトラントスル方カ他方ニ對シ貿易上入超ヲ示シ居ル場合ニ於テハ制限措置ヲトラントスル年ノ前年ノ入超額ノ範圍内ニ於テハ前二項ノ規定ニ拘ラス且其ノ

A表ニ掲クル物品ニ付(A及Bハ第六條ノ表、場合ニ依リテハ別電作成ノコト)夫々輸入制限ヲ爲ササル意嚮ナルコトヲ聲明シ若シ右物品ニ關シ輸入制限ヲ爲スノ必要ヲ生シタル時ハ其ノ實施ニ先立チ相手國ト協議スヘシ但シ右協議ノ妥結ニ至ラサル時又ハ自國ノ緊切ナル利益ヲ保護スル爲緊急ノ必要アル場合ニハ豫メ協議セスシテ輸入制限ヲ實施スルコトヲ得ルモノトス

ニ、前項但書ノ輸入制限措置ニ依リ自國ノ利益力著シク阻害セラレタリト認ムル時ハ條約第九條ノ規定ニ拘ラスXノ豫告ヲ以テ本條約ヲ廢棄スルコトヲ得

三、日佛條約第六條ニ列擧ノ場合ニ付前二項ノ規定ハ適用無キモノトス

274

昭和10年1月25日

広田外務大臣より
在シドニー村井總領事宛(電報)

今次オーストラリアとの通商交渉において重要案件となる輸入禁止制限問題への対応策修正について

本省 1月25日後8時發

品目ノ如何ヲ問ハス禁止又ハ制限ヲ何時ニテモ實行スルコトヲ得」ノ趣旨ヲ附加スルコトトシタシ

貴電第三號ノ三ヲ第四項トス

(c)前記(b)ノ制限ハ條約草案第三條ノ例外トスルコト

(d)以上ハ條約文中ノ一條トスルモ將又附屬文書トスルモ差支ナシ

ニ、貴電第二號ニノ特惠ニ付イテハ濠洲側ハ我商品ニ若干ノ稅率引下ヲ行フ限り特惠ノ開キハ差シテ影響ナキモノト考ヘ居ルニ付我方ヨリハ本問題ニ觸レサルコトトシ度シ若シ先方力強イテ特惠確認ヲ求メタル際ハ貴案ニ加フルニ隣國(滿洲國、支那、露西亞)ニ對スル我方ノ特惠ヲ確認セシムルコトトシタシ

275

昭和10年1月25日

広田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

対中南米貿易の調整にあたっては対米貿易との間に三角的に調整する方向で模索中について

第一八號

本省 1月25日後8時發

「客年中ノ中南米ニ對スル我總輸出額ハ約一億四百萬圓（其大部分ハ綿織物）ニシテ我國輸出市場トシテ益々重要性ヲ加ヘツ、アル處最近中南米諸國中本邦品輸入抑制ヲ企テ又ハ貿易均衡ヲ目的トシ條約廢棄（祕露、「コロンビヤ」、玖馬）ヲナスモノ續出ノ形勢ニアリ

ニ右ハ現下ノ世界的風潮及ビ自國貨幣制度爲替相場ノ安定擁護等ノ必要ニモ出ルコト勿論ニシテ本邦トシテモ事情ノ許ス限り對手國ノ希望ニ對應スル様努メツ、アル次第ナルモノ一面米國トノ互惠協定ノ影響又ハ米國人當業者ノ策動ニ出ル場合モ少カラザルヤニ認メラル

ニ元來米國互惠政策ノ目的ガ他國通商ノ排撃ニ存セザルベキハ勿論ナルベク又事實問題トシテ前述ノ如ク此方面ニ對スル本邦輸出ノ大宗タル綿製品ノ輸入減退ハ米棉ノ本邦輸入ヲ減少セシムルコト、ナルノミナラズ根本ニ於テ日本品ノ輸出減退ハ日本ノ購買力減少圖爲替ノ低落ヲ誘致シ米國輸出貿易ニモ惡影響ヲ及ホスベキハ明白ナル事理ナリト思考ス

四抑モ實際上ノ能否又ハ難易ニ頓着セズ二國間ノ輸出入均衡ヲ計ラントスルカ如キ企劃力結局國際貿易ヲ衰微セシメ

在墨公使、在玖公使へ轉電シ墨ヲシテ巴奈馬へ轉電セシメラレタシ

276 昭和10年2月4日 在シドニー村井總領事より
広田外務大臣宛（電報）

オーストラリアとの通商会談開始について

キャンベラ 2月4日後発
本省 2月4日後着

會商第七號

往電第四號ニ關シ

二月一日第一回會議ヲ開催濠洲側副總理「ページ」關稅大臣「ホワイト」通商條約大臣「ガレッツチン」其ノ他係官出席挨拶ノ交換後「ガレッツチン」以外ノ大臣退場先方ヨリ本邦側關稅率低減要求品目表ニ對スル回答（別電會商第八號）^{（電報）}及濠洲側要求案（別電會商第九號）^{（電報）}ノ提案アリ我方ノ研究ノ爲解散ス二日第二回會議開催先方回答ニ關スル實議及條約案及交換公文案ニ付意見ヲ交換セリ但シ第一條及第二條ハ後日ニ讓ルコトトス

世界經濟ノ回復ヲ益々困難ナラシムベキハ帝國政府ノ常ニ主張スル所ナルモ實際問題トシテ對本邦輸入超過各國ヨリ頻リニ輸出入均衡ヲ要求セラレツ、アル我國トシテハ焦眉ノ急務トシテ對本邦輸出超過國ニ對シ本邦ヨリノ輸出増進ヲ求メサルヲ得サル立場トナリ現ニ濠洲、加奈陀、獨逸等ニ對シ夫レ夫レ工作ヲ用ヒツ、アリ

五從テ米國ニ對シテモ日米貿易ノ現狀ニ鑑ミ對米輸出増進ヲ求ムベキ地位ニアリ客年在紐育商務官發本大臣宛電報第六九號其他ノ本邦品輸入阻止運動ニ對シテハ頗ル不滿ヲ感ジ居リ各方面ニ種々議論ヲ生シツ、アル次第ナルガ右日米輸出入ノ現勢及ビ米國對中南米貿易及ビ金融上ノ地位勢力ニ鑑ミ此際日米及ビ日中南米輸出入ヲ三角形的二見テ何等カ調整ノ途ナキヤノ點ヲモ考慮シ居ル次第ナリ

六國務卿ハ互惠主義及三角調整主義ニ對シ累次意見ヲ開陳シ居リ日米兩國經濟關係ヲ一層緊密ナラシメ以テ兩國親善ノ増進ヲ計ラントスル點ニ於テ帝國政府ト希望ヲ一ニシ居ルコトト確信セララル次第ニモ顧ミ以上ノ諸點ニ關スル貴任國政府ノ意嚮ヲ徵セラレ何分ノ儀御回電アリタシ在伯大使ニ轉電シ南米各公使へ轉電セシメラレタシ

277 昭和10年2月4日 在シドニー村井總領事より
広田外務大臣宛（電報）

オーストラリア側との第一回および第二回通商

会談に対する見解と今後の交渉方針について

別電 二月四日発在シドニー村井總領事より広田外務

大臣宛會商第一二號

右交渉方針

キャンベラ 2月4日後発
本省 2月4日後着

會商第一一號（大至急）

今回ノ通商條約商議ニ關スル方針ハ稅率引下ニ依リ五千萬圓程度ノ對濠貿易「バランス」ノ整調ヲ主眼トスル處由來稅率ノ變更ハ何レノ國ニ於テモ利害錯綜シ容易ノ業ニアラサルニ我方提案ノ如キ廣汎ナル稅率ノ引下ヲ而モ外國ノ要求ニ應シ行フカ如キハ常識的ニ考ヘテ不可能ノコトナリト存ス如何ニ貿易均衡論ヲ云々スルモ元來之ハ權利トシテ主張シ得ルコトニアラサレハ何等ノ力モナク飽ク迄モ我主張ヲ貫カントセハ結局輸入制限ノ威嚇ヲ以テスル外ナキモ當洲側ニテモ羊毛カ日本ノ主要工業ノ原料品トシテ其ノ輸入

制限力困難ナルコトハヨク承知シ居り容易ニ斯ル威嚇ヲ利カシ得ルモノニアラス

ニ我方ノ方針ハ單ナル希望トシテハ素ヨリ不可ナキニ付先方ノ腹ヲ探ル意味合ニテ提出シタルモ其ノ實現性ニ至リテハ初メヨリ殆ト無之モノナルハ上述ノ通ナリ案ノ定既報ノ如ク當洲側ノ回答ハ我方ノ稅率引下ニ關スル要求ノ大分ヲ拒否シ來レリ勿論今後ノ折衝ニ依リ多少先方ノ讓歩ヲ増加セシメ得ルコト位ハ出來得ヘキモ貴案ニ近キ讓歩ヲ期待スルコトハ絕對ニ不可能ナリト思考ススル結果ハ獨リ大規模ナル英國品ノ驅逐ニ依リテノミ實現シ得ヘキコトニシテ「オタワ」協定其ノ他英國ト密接ノ關係アル當洲ニ之ヲ期待スルコトハ無理ナリ

三 既報ノ如ク當洲側ヨリハ我方ノ要求セサリシ品目ニ付讓歩ヲ申出來リ居ルニ付篤ト御研究願ヒ度キモ之ニ加フルニ先方讓歩ハ當初ノ我方希望ニ比シ頗ル不満足ノモノナルコトハ爭ハレス然レトモ貿易均衡論ヲ離レテ見レハ此ノ程度ノ讓歩モ決シテ少ナルモノニアラス御承知ノ如ク我對濠輸出ハ急速ニ發展致シ居り稅率ノ引下ヲ見サレトモ引上サヘナクハ何等ノ懸念ナキ狀態ニシテ現ニ曩ニ本官ヨリ當地

カ(文理上ノ理窟ハ別トシ實際上ハ我方ノミ制限ノ自由ヲ有スルコトナル)濠洲ハ何ヲ苦ンテ日本ト條約ヲ結フノ勞ヲ取ルノ要アラシヤ別言セハ第三項ハ濠洲側ニ對シ條約締結ヲ根本的ニ無意義ナラシムルモノナリ故ニ本官トシテハ斯ル無理解ナル提議ハ單ニ提出スル丈ニテモ快トセス況ンヤ飽迄其ノ貫徹ヲ期セラルルニ於テハ商議決裂ノ外ナシト存ス或ハ第三項ノ如キ輸入制限ノ權利留保ハ貿易均衡論ノ喧シキ今(同)ノ趨勢ニ鑑ミ必要ナリトノ見解モ之アルヤニ思考セラルル處右ハ本官ノ大イニ疑問トスル處ナリ政府カ自ラノ計算ヲ以テ貿易均衡ヲ強要セラルル點ヨリ羊毛ヲ購入シ之ヲ當業者ニ押賣ニテモスル積リナラハ或ハ入超國タル濠洲ヨリノ羊毛輸入ヲ法律的ニ制限スル必要モ之アラシモ斯ルコトハ今日ノ狀態ニ於テ實行至難ナルヘク若シ現ニ行ハルルカ如ク當業者ヲシテ自發的ニ(多少政府ノ援助獎勵等ハアランモ)之ヲ購入セシムル方法ヲ採ルニ於テハ濠洲ヨリノ羊毛輸入ハ自然ニ減少スヘク

特ニ法律ヲ以テ之ニ制限ヲ加フルノ必要毫モ存セス若シ夫レ貿易均衡論ノ流行ト共ニ日本ノ國際支拂關係不利ニ陥ル場合アルヘキヲ慮リ之ニ備フル爲ナリト言フ者有ランカ

當業者ノ意見ヲ徵シタル際モ何等ノ申出ナク異口同音ニ稅(率)ノ引上サヘナクハ結構ナリト言フ位ナリシカ本邦ニ於テモ大体同様ナル趣(尤モ數種ノ特殊商品ニ付稅率引下ノ陳情アルト承知シ居レリ)ナルニ鑑ミ今回ノ讓歩其ノモノハ貿易不均衡調整ノ上ヨリハ大ナル價值ナシトスルモ貿易助長ノ點ヨリ見レハ相當ノ價值アリ條約成立ニ依リ人氣轉換ノ效丈ケニテモ鮮少ナラサルヘシト存ス

四⁽²⁾ 次ニ先方ノ我方ニ對スル要求ヲ見ルニ大体ニ於テ適當ノ要求トハ思ハレス其ノ中最モ重要ナルハ羊毛ニ關スル事項ニシテ右ハ貴電第二號輸入制限抑止案ニ關聯スル問題ナリ先方ノ希望ハ貴案第一項及第二項ニ頗ル近キニ付之丈ナラハ妥協ノ望アルモ第三項ニ依レハ我方ハ入超額ノ範圍迄ハト云フニ羊毛(一般商品ニ關係スルモ羊毛カ眼目ナル事ハ申ス迄モ無キニ付大体論ニ止ム)ノ輸入ヲ制限シ得ル事トナル處夙ニ御氣附アルヘキ通り濠洲カ日本ト條約ヲ結ヒ些少ナリトモ讓歩ノ決心ヲ爲セル動機ハ素ヨリ單純ニハアラサルヘキモ濠洲繁榮ノ基本タル羊毛カ日本ニ於テ輸入制限ヲ受クル事無キヤノ危惧其ノ核心ヲ爲スト云フモ過言ニ非ス然ルニ今我方ノミ勝手ニ右制限ヲ實行シ得ルコトセン

之亦大イニ疑問ノ餘地アリ尤モ金本位維持國ニ於テハ國際支拂ノ不均衡ハ金ノ流出ヲ促シ金本位維持ヲ危殆ナラシムル場合アルヘク其ノ際急速ニ金ノ流出ヲ阻止セントセハ輸入禁止ハ其ノ一手段タルコト最近歐洲ノ金本位維持國ノ例ニ見テ明カナルモ斯ル場合トテモ輸入制限ハ國家經濟ニ比較的重要ナラサル例ヘハ奢侈品ノ如キヲ制限スヘク重要産業ノ原料ノ輸入ヲ阻止シテ支拂關係ノ整調ヲ計ラントスルカ如キハ愚策ナリト言ハサルヘカラス而モ今日ノ我國ハ此ノ金本位ヲモ離脱シ居レリ從テ國際支拂關係不利トナラハ政府カ干涉ヲ試ミサル限リ(其ノ干涉ニモ限度アルヘシ)邦貨ノ爲替相場下落シ自然ニ輸入制限ノ效果ヲ生スヘク人爲的ニ輸入制限ヲ加フルノ必要比較的小シ假ニ其ノ必要アリトスルモ前述ノ通奢侈品ノ如キモノニ制限ヲ加ヘ濫リニ工業原料品ノ如キヲ阻止スヘキニ非サルハ言フ迄モナシ

尙貴電第三項ハ貿易均衡論ヨリ見レハ一理アルニ似タルモ元來貿易均衡論ハ卑見ニ依レハ世界不況ノ齎セル一時的ノ變態現象ニ過キス景氣恢復モ已ニ緒ニ就キ此ノ變態現象モ下り坂ニ掛リ居ル今日將來益々自由交易ニ依存セサルヘカ

ラサル我國トシテハ極力之カ排擠ニ努ムルコト寧ロ必要ナ
ラスヤト思考ス

五以上之ヲ要スルニ貿易均衡回復ノ御方針ハ本來無理ナル
註文ニシテ貫徹ノ見込ナク又既往ノ交渉ニ依リ其ノ然ルコ
トヲ實證セラレ又輸入制限抑止ニ關スル貴案第三項ハ濠洲
側要望ノ殆ト全部ヲ拒否スルニ等シク會議決裂ニ導クコト
火ヲ賭ルヨリ明カナルニ加ヘ實際上モ政策上モ我方ニトリ
寧ロ有害無益ノ權利留保ナリ此ノ際等主張ヲ拋棄セラル
ルニアラスムハ局面打開ノ途ナシト存ス

右卑見幸ニ御採納ヲ得ハ別電第一二號ノ方針ニ依リ更ニ濠
洲側對案ノ審議ヲ進メ出來得ル限り之ヲ有利ナラシムルニ
努力スヘキモ若シ飽迄モ當初ノ御方針ヲ以テ進マルル御考
ナラハ小細工ヲ施スモ詮ナキニ付先方ノ回答ヲ一蹴シ原案
ヲ固執スル態度ニテ進ムノ外ナカルヘキカ本官トシテハ之
ニ依リ何等有利ノ發展ヲ期待シ得サルモノナルコト前續述
ノ通ナリ

六以上論議ヲ主トシタルカ之ヲ一般ノ空氣ヨリ觀ルニ先方
ノ態度頗ル眞摯ニシテ眞ニ出來得ル限りノ讓歩ヲ爲シ我國
トノ關係ヲ良好ナラシメムコトヲ(脱?)明カニ看取シ得故

(別電)

キャンベラ 2月4日後発
本省 2月4日後着

會商第一二號(至急)

左記大体ノ方針ニテ折衝スルコトト致度キ處右ニ關スル御
意見至急御回電ヲ請フ

一我方要求ノ重點ヲ左記ニ置クコト

(イ)最惠國待遇獲得(先方ニテ研究中ナルモ大体承認ノ見

込)

(ロ)爲替「ダンピング」税賦課ノ防止

(ハ)輸入制限措置採用ノ防止

(ニ)重要輸出品ニ對スル税率上ノ保障

右四項目ニ付満足ナル結果ヲ得ラルルニ於テハ現行税率ノ
下ニ在リテモ本邦對濠輸出ハ年々伸展ヲ示シツツアル次第
ニモ有之將來濠洲ノ購買力増進ト相俟チテ顯著ナル發展ヲ
示スコト疑ナシト確信ス

右各項目ニ關シテハ別電^{編注}第一三號乃至第一五號御参照相成
度シ

三「オタワ」協定ト牴觸スル案ハ凡テ之ヲ放棄スルコト

ニ先方ノ回答ハ此ノ空氣ヨリ觀テモ大ナル駭引ヲ包藏スル
モノト思考セラレス若シ我方ニ於テ原案若ハ第二案ヲ固執
シ會議ヲ長引カシムルニ於テハ其ノ間面白カラサル空氣ヲ
醸成シ當業者策動ノ機會ヲ多カラシメ幾多ノ支障ヲ生シ好
結果ヲ齎シ難シト思考ス

七「ガレット」ハ英國ノ肉類割當問題喧シクナリ急ニ首相
ニ隨行シ本月中旬渡英ノ筈ニテ(六月迄歸濠セス「ムア」
モ隨行)(脱?)トナレハ商議中止トナル虞頗ル大ナル處同
大臣ハ日本側ニ好感ヲ有スル人ニテ其ノ出發前大綱丈ケニ
テモ取纏メタキ希望ヲ有シ居リ我方ノ妥當ナル要求ハ之ヲ
容ルル様折角閣議ニテモ盡力シ居ル模様ナルカ渡英後ニ於
テハ英國側ノ影響ヲ受ケ其ノ態度硬化ノ虞モアリ旁々此ノ
點ヨリ觀ルモ先方ニ應諾ノ餘地ナシト認メラルル要求ハ此
ノ際之ヲ棄ツルコトトシ他方我方輸出貿易ノ進展ニ必要ナ
ル保障ノ獲得ニ努メ成ルヘク速ニ大綱丈ケニテモ妥結ニ到
ル様努力スルコト我方ニトリ有利ナリト思考セラル
就テハ出來得ル限り速ニ大体ノ御方針御再考ノ上結果御回
電アリタシ

「オタワ」協定附屬書F第二部及第三部ニ依リ同附屬書第
一部ノ原則以上ニ讓歩シ得ルモノニ付濠洲側ニモ好意的
考慮ヲ加フル用意アリ已ニ今次ノ回答ニテモ一部分右ニ依
リ讓歩ヲナシ居レリ第二部及第三部ニ依リ讓歩ノ餘地アル
モノニ付今後ノ折衝ニ於テ更ニ讓歩ヲ求ムルコト勿論ナリ
「オタワ」協定第一六條第二項ノ規定ハ我方ヨリ引用シ先
方ノ考慮ヲ求メタルカ先方ハ右規定ハ「オタワ」協定ノ根
本原則ヲ覆スカ如キコトヲ豫想シ居ルモノニ非ス單ニ細目
ニ付協定ノ上變更シ得ルノ餘地ヲ存スル趣旨ヲ以テ入レタ
ルモノニシテ實際問題トシテ右ニ依リ日本案ヲ容レ得ルカ
如キ變更ヲナスコトヲ持出スモ英國政府ノ同意セサルコト
ハ明カナリトナシ居レリ

三追テ第二條其ノ他ノ問題ニ付テハ先方ト折衝後更ニ電報
スヘキモ「ガレット」渡英ノ時期切迫ノ事情モアリ當分ノ
内通商問題ニ主力ヲ注クコトトナルヘシ

編注 別電第13号から15号は省略した。

278

昭和10年2月5日 在シドニー村井総領事より
 広田外務大臣宛(電報)

オーストラリア側が我が方関税引下げ要求を受入れ難い事情について

シドニー 2月5日発
 本省 2月5日後着

會商第一〇號

一⁽¹⁾ 本邦關稅輕減案ニ付豫テ「アボット」「オタワ」協定ノ關係上應諾シ難キモノ多キ旨申込ノ次第アリタルニ付我方ヨリハ客年貴信第八九號附屬書關稅事項ニ關スル事項二ノ(二)記載ノ諸點ヲ指摘シ「オタワ」協定ノ下ニ在リテモ我要求ヲ入ルルノ途アルコト並ニ貿易均衡論ノ勢ヲ得ツツアル今日ノ狀勢ニ鑑ミ濠洲側ノ好意アル考慮ヲ要求セサルヘカラルサルコトヲ主張シ置キタルニモ拘ラス濠洲カ我方要求品目ノ大部分ヲ容認セサルハ甚タ遺憾トスル處ナリ

ニ 右ニ付折衝ヲ重ネ能フ限り我方ニ有利ナル様努力スヘキコト勿論ナルカ濠洲側カ我方要求ヲ容レ難シトスル理由凡ソ左ノ如シ

僅少ナリ濠洲ノ羊毛ハ日本ノ羊毛工業ニ取リテモ利益ヲ與ヘ居ルモノナリ

(ホ)通商條約ハ議會ノ協贊ヲ求ムル必要アリ「オタワ」協定ノ根本原則並國內産業保護ノ必要ヲ無視セル協定ハ到底議會ノ協贊ヲ得ル見込無ク政府トシテ之ニ同意スルコト能ハス

三 濠洲側トシテハ右事情ニ依リ我方要求ヲ容レ難カリシ爲他ニ適當ナル對償ヲ與ヘントシ自ラ進ンテ別電第八號ノ如キ引下案ヲ提議シ來レルモノナリ我方原案ト先方提案トノ間ニ多大ノ懸隔アル爲日本政府ニ請訓ノ上審議スルコトトシ一應本問題ノ討議ヲ差控フルコトトナシタリ

往電第一一號ニ(極秘扱)ヲ追加セラレタシ

279

昭和10年2月6日 在シドニー村井総領事より
 広田外務大臣宛(電報)

オーストラリア側通商交渉担当大臣渡英による交渉中断見込みとその対応策について

シドニー 2月6日後発
 本省 2月6日後着

(イ)英本國トハ政治上、財政上、經濟上緊要ノ關係ヲ有スルノミナラス(一九三二、三三年ニ於ケル濠洲ノ對英貿易輸出五千三百九十六萬磅輸入二千三百五十四萬磅ニシテ本邦ニ對スルト同様多額ノ輸出超過ナリ)「オタワ」協定ノ拘束モアルヲ以テ同協定ノ根本原則ト抵觸スル稅率輕減ヲ約束シ難シ

(ロ)英特惠ヲ引下ケ日本品引下ノ途アリト主張セラルルモ濠洲ニモ各種工業アリ現ニ失業率二割ニモ達シ居ル現狀ナリ濠洲産業ヲ犠牲ニシテ日本側要求ヲ容レ難シ

(ハ)濠洲政府財政ハ改善シタルモ各州政府ハ依前赤字續キナリ聯(邦)政府ハ濠洲全体ノ財政ヲ顧念スルノ要アリ關稅收入並ニ「プライメイジ」ハ重要財源ニシテ此ノ點ヨリモ日本側要求受諾ニ困難アリ

(ニ)日本側ハ片貿易ヲ高調セラルルモ日本ノ對濠輸出ハ近年激増シツツアリ濠洲全体ノ輸入ハ近年減少シタルヲ以テ各國別比率ニシテ見レハ其ノ増加率ハ更ニ大ナリ濠洲ノ景氣回復シ購買力増進スルニ連レ日本品輸入額ノ更ニ顯著ナル増加ヲ示スヘキコトハ確信スル所ナリ

翻テ濠洲品ノ對日輸出ハ羊毛ト小麦ヲ除ケハ其ノ金額

會商第二一號

往電會商第一一號ニ關シ

首相及「ガレット」ノ出發期日迫リ居ル爲商議ハ來週ニテ一時中止トナリ其ノ後ハ細目ノ點ハ兎ニ角トシ大綱ニ關スルコトハ審議ノ續(行)不可能トナル見込ナリ、冒頭往電第七ノ事情モアリ出來得ル限り大綱丈ニテモ取纏メ日印會商ノ例ニ倣ヒ議事録ヲ作成シ置クコト我方ニトリ有利ナリト思考ス右ニ關シ何分ノ儀御回電相成度シ尙議事録内容ニ關シテハ一々御訓令ヲ仰ク暇ナシト思考セラルル處往電第七號乃至第一八號ニ對スル御回訓ノ範圍内ニテ取纏メ得タルモノヲ記載スルコト勿論ナリ準備ノ都合モアルニ付右事情ヲ御含ノ上御回訓ハ一部分丈ニテモ隨時至急電報相成度シ

280

昭和10年2月8日 在シドニー村井総領事宛(電報)
 広田外務大臣より

オーストラリア側通商交渉担当大臣渡英後も交渉繼續方訓令

會商第四號

本省 2月8日後8時発

440

441

貴電會商第二一號ニ關シ

(一)來週初メニハ我方態度決定ノ上同電ノ見込ナルモ「ガレット」出發期日迄ニ議事録作成ニ漕キ着ケ得ルコトハ困難ナリト思考ス元來我方ハ既ニ客年交渉ニ入り得ル標準備シタルニ拘ラス先方ノ都合ニ依リ大綱ノ商議中止ヲ餘儀ナクセラレタル経緯ニ鑑カミ「ガレット」出發後ト雖先方ニ於テ商議ヲ繼續シ得ルノ方法ヲ講スヘキハ當然ノ筋合ト思考ス

(二)本件商議ニ對シテハ相當慎重ナル態度ヲ以テ臨ムノ要アルハ申迄モナキ儀ナルガ態々商議ヲ開キタル以上單ニ本邦商品ノ或ル物ニ對シ僅少ノ稅率引下ヲ得ル位ノ程度ニ止メズ内外ヲ首肯セシムルニ足ルタケノ實質的利益ヲ獲得シタキ意嚮ニシテ貿易均衡ニ對スル貴見ノ次第ハ充分諒承シ居ルモ輸出超過國ヨリ頻リニ片貿易調整ヲ迫ラレ居ル外本邦商品カ英領始メ世界至ル所ニ於テ制限セラレ居ル今日無理カラヌ國內輿論ノ傾向ニモ鑑カミ少クトモ我國ニ不利ナル片貿易關係ニ在ル國ニ對シテハ輸出促進ノ爲相當ノ要求ヲ爲スノ已ムヲ得サル立場ニアルハ「レーサム」來朝當時ノ會談ニ徴スルモ先方ニ於テ充分了知

281

昭和10年2月9日 広田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

我が國の対米貿易を対中南米貿易と三角的に
調整する案に対し在京米國大使は賛意を表し
本國に報告するとの内話について

本省 2月9日後3時發

第三二號

往電第一八號ニ關シ

七日來栖通商局長「ネヴィル」參事官ニ面會ノ際右往電ノ趣旨ヲ委細説明シ置タル處八日在本邦米國大使ハ同局長ニ對シ前日參事官ニ對スル御話ノ次第ハ甚ダ興味深ク拜聽セリ自分ニ於テモ全然感ヲ同ウスルニ付委細ヲ盡シ書面ヲ以テ國務省當局ニ報告方取計置ケリト内話セル趣ナリ

前電通り轉電アリタシ

282

昭和10年2月12日 在トルコ本(重志)大使館商務書記官より
広田外務大臣宛

我が方連盟脱退確定後シリア向け邦品輸出に

シ居リ且ツ之カ爲本邦ガ「アルセンチン」南阿等ニテ新納等承知ノ方法ニヨリ羊毛買附ヲナシ居ル事情ヲモ稽カヘ濠洲トシテモ今回ノ交渉ニ入レル次第ナルニ付右本邦ノ立場ハ極力且ツ「タクトフリー」ニ先方ニ印象セシメ置ク様致度シ

(三)去リナカラ先方カ易々ト當方ノ要求ヲ受諾スヘシトハ考ヘ居ラサルコト勿論ニシテ相當ノ波瀾曲折有ルヘキヲ覺悟シ居レル次第ナリ

(四)就テハ貴官ハ右御含ミノ上不取敢「ガ」ニ對シ我方ハ圓滿ナル妥結ニ達セムカ爲メ先方提案ヲ慎重考究中ニ付近ク回答ヲ示シ得ヘキ處其ノ際ハ「ガ」ノ不在中ト雖先方當局ニ於テ商議ヲ繼續シ得ル様萬遺漏ナキヲ期シ置カレ度キ旨竝ニ此ノ種商議ノ大綱ヲ僅カ一二週間ニテ纏ムルコトノ不可能ナル旨ヲモ説示セラレ且遠路態々我方ヨリ數名ノ部員ヲ派遣シ居ルカ如キ事情ヲモ參酌シ今次商議ノ圓滿ナル進捗方ニ關シ先方ノ努力ヲ期待スル旨卒直ニ申入レラレ度シ

あたつては最高稅率適用との風説につき有力
な邦品取扱商人より照会について

付記 一月三十一日付在ルーマニア公使館水野(伊

太郎)書記官より來栖(三郎)通商局長宛私信

我が方連盟脱退確定後邦品に最高稅率適用を
見越したシリア邦品取扱業者等の動向につ
いて

商普通第三三一號 (3月7日接受)

昭和十年二月十二日

在イスタンブール商務書記官 本 重志(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

シリア國邦品輸入稅ニ關スル件

シリア國邦品輸入商中ニハ本年三月帝國ノ國際聯盟脱退ト共ニシリア國向邦品ハ最高輸入稅率ヲ賦課セラルヘシトノ懸念ヲ有シ客年秋以來邦品ノ註文ヲ差控ヘ居ルモノ有之趣ハ曩ニ報告シ置キタル通りナルカ本件ニ關シテハ最近ベイルウト、アレツポ兩市ニ於ケル有力ナル邦品取扱商ヨリ再度照會ニ接シツ、アリ來信寫參通御參考迄茲ニ送付ス

附屬書類 AKRAS FRERES, GEORGES CASSIR,

LORENZO G. MANASCI 來簡寫

本信寫送付先 在佛大使館
在亞歷山總領事館

GEORGES CASSIR

Beyrouth le 15 Novembre 1934

Bureau du Secrétaire Commercial
à l'Ambassade du Japon,

Istanbul, Turquie.

Messieurs,

J'ai l'honneur de vous informer que jusqu'à
maintenant les marchandises importées des pays
faisant partie de la Société des Nations ont été
soumises au droit de douane de 25 1/2 %.

Comme le Japon et l'Allemagne ont quitté la
Société des Nations, les marchandises importées de
ces deux pays lors de l'expiration du délai, pour le
Japon en Mars 1935 et pour l'Allemagne en octobre
1935, devront payer les taxes de douane doubles,

c.à.d. 50 % au lieu de 25 % etc.

Ayant des relations assez importantes avec le
Japon, je me suis permis de vous écrire pour vous
demander de vous occuper sérieusement avec cette
question avant l'expiration du délai, en faisant les
démarches nécessaires auprès de votre gouvernement
et le gouvernement français, pour vous assurer le
même taux de droit de douane pour les transactions
effectuées après la date d'expiration de votre contrat
avec la Société des Nations, car autrement les
fabriques japonaises ne pourront pas continuer leurs
affaires d'exportation.

Je vous serais obligé de me faire savoir votre
opinion à ce sujet, et en vous remerciant je vous
présente, Messieurs, mes salutations distinguées.

LORENZO G. MANASCI

Alep, le February 9th, 1935

S. Moto Esq.,

Commercial Secretary at
the Japanese Embassy,

Istanbul, Turkey.

Dear Mr. Moto,

I am glad to inform you that our business relations
with Japan are developing quite satisfactorily.

We receive from time to time offers from Japanese
concerns some of which writing us under your
suggestions. In fact we recently received a letter from
Messrs. G.M.M.P. & Kaneko, Kobe which I understand
to be an important export firm. I am writing to them
by this mail and hope that we will arrive to establish
an excellent business movement in the near future.

The only shadow for further business development
between Japan and this country is now the perspective
of the application of the maximum tariff of duties
toward the end of coming March.

Every body here was necessarily obliged to nearly
stop all business activity with your country, pending

the final decision of customs' authorities in regard the

entry duty matter. In this instance I would very much
appreciate the courtesy of conveying to me, at your
earliest convenience, anything definite which you
might be able to know on this important affair.

I avail myself of this opportunity to express to you
my earnest thanks and appreciation for all the support
which you have not ceased to give my Firm. The
continuation of your kindness in this line will always
be very much appreciated.

With kindest regards,

I remain, Dear Mr. Moto,

Yours very sincerely,

Signed

AKRAS FRERES

Alep, le 9 Février 1935

B.P. 199

Monsieur l'Attaché Commercial de

l'Ambassade du Japon en Turquie,
Istanbul.

Monsieur l'Attaché,
Nous avons l'honneur de venir par la présente vous demander encore un petit renseignement.

Nous vous prions de bien vouloir nous faire savoir si possible votre opinion sur la question du Japon et de la Société des Nations. Est-ce que le Japon n'a pas l'intention de retourner à la S.D.N. C'est ce que nous voudrions savoir.

Car, comme vous le savez certainement, tous les produits provenant de pays ne faisant pas partie de la S.D.N. acquittent le double des droits des douane payés pour des produits analogues mais en provenance de pays faisant partie de la S.D.N. Donc si le Japon se retire de la S.D.N. à la date du 27 Mars prochain les produits japonais doivent payer comme droits de douane le double de ce que les importateurs syriens payent actuellement. Et comme nous avons

des commandes au Japon qui vont arriver après le 27 Mars 1935, nous aimerons être fixés à ce sujet pour savoir à quoi nous en tenir sur cette question.

Nous espérons donc que vous voudriez nous dire votre opinion sur cette question et dans l'attente du plaisir de vous lire à ce sujet et avec nos remerciements anticipés, nous vous présentons, Monsieur l'Attaché, l'assurance de notre haute considération.

Signé: Akras Frères.

(付記)

水野書記官ヨリ來栖通商局長宛一月三十一日附書翰拜啓陳者時下益々御清穆奉賀候却説小官事イラックヲ經テシリア各都市ヲ巡歴、目下當地ニ有之候
パレスティンニ關シテハ別ニ差迫リタル事情ナキニ付キシリアニ關シ一言申上候

シリアニ於ケル本邦商品取扱業者ハ何レモ一般ニ三月二十七日(?)ノ帝國ノ聯盟脫退日以後ハ我國產品ニ對

シ最高稅率ガ課セラルルモノト信ジ居リ從テ遅クトモ三月中旬迄ニ到着スル商品ヲ最後トシテ註文ヲ差控ヘ居リ頗ル不安ヲ以テ今後ノ成行ヲ注視シ居レリ

現在ノ事態此ノ儘持續スルトキハ一月下旬以後ハ本邦トノ取引中絶スヘシト言ハレ居レリ

ニ萬一我國產品ニ普通稅率ノ二倍ニ相當スル最高稅率ガ適用セラルルガ如キコトアリトスレバ、我が輸出品ノ大宗タル綿織物(約全輸出ノ八割見當)ハ採算不可能トナルヲ以テ、或種ノ雜貨ヲ除キ對シリア輸出ハ殆ド杜絶ノ運命ヲ見ルニ至ルベキ處アリ

三、シリア高級委員部當局者ハ帝國ノ聯盟脫退ノ事實ニ依リ(特別ナル協定成立セザル限り)本邦產品ハ「自動的ニ」最高稅率ノ適用ヲ受クルモノト解釋シ居ル模様ナリ(聯盟加入前ノ獨逸商品ハ最高稅率ノ適用ヲ受ケ居タル由)四、尙或者ノ内報ニ依レバ高級委員部關稅局ニ於テハ我國ノ聯盟國待遇喪失ノ機會ニ日本商品輸入制限ノ手段(割當量ノ設置ノ如キ)ヲ講ズベク目下準備中ナリトノ事ナリ右等ノ事情ハ本省ニ於テモ夙ニ御承知ノ上右ニ對スル對策ヲ講ゼラレ居ル事ハ勿論ナリト存候モ、事態頗ル切迫シ居

ルヤニ認メラルルヲ以テ右不取敢御報告申進候
乍末筆閣下ノ御健康ヲ祈上候 敬具

283 昭和10年2月13日 広田外務大臣より
在シドニー村井総領事宛

オーストラリアとの通商条約案の訂正について

通一機密第一〇號
昭和十年二月十三日

外務大臣 廣田 弘毅

在シドニー

總領事 村井 倉松殿

日濠間通商條約締結ニ關スル件

本件ニ關シテハ曩ニ客年十月二十日附通一機密第八八號公信ヲ以テ申進置キタル處右附屬第二號條約案中更ニ具體的ノ規定タラシムル方適當ト思考セラルル點アルヲ以テ左記次第ニ依リ訂正致度ニ付御了知相成度シ

記

(A)新條文案挿入順序

一、別添甲號ヲ以テ舊案第二條ニ代フルコト

三 舊案第三條ヲ其ノ儘第九條トシ別添乙號ヲ第三條トスルコト

三 別添丙號ヲ以テ舊案第五條ニ代ヘ舊第五條ヲ第六條トシ舊第六條ヲ削除スルコト

四 別添丁號ヲ以テ第七條トスルコト

五 別添戊號ヲ以テ第八條トシ舊案第七條ヲ削除ス

六 從テ舊案第八條ハ之ヲ其ノ儘第十條トシ舊案第九條ハ其ノ儘之ヲ第十一條トスルコト

(B)新條文案説明

一 舊案文第二條六行目 and, on condition of reciprocity, the acquisition and possession of every description of property movable or immovable; ハ兩締約國臣民カ一切ノ動産及不動産ノ獲得及所有ニ關シ相互主義ノ條件ニ依リ最惠國待遇ヲ享受スヘシトノ意味ニ解セラルル懸念アル處右ニテハ我方ノ目的トスル所ニ副ハサルニ付同字句ヲ削除スルコトセリ而シテ十一行目 whichever is more favourable; ノ次ニ日英通商條約第一條第四項ノ例ニ倣ヒ家屋等ノ所有、賃借並ニ土地ノ賃借ニ關スル規定ヲ挿入スルコトトシ且

其ノ次ニ前記動産及不動産ニ關スル規定ヲ最惠國待遇ト切放シ挿入スルコトトシタルカ右ハ斯クシテ濠洲側カ不動産ノ取得所有ニ關シ本邦人ニ制限措置ヲ加ヘ又ハ加フルコトアル場合我方ニ於テモ濠洲人ニ對シ最惠國待遇ノ規定アルニ拘ハラス同様ノ制限ヲ加ヘ得ルノ自由ヲ留保シ置カンカ爲ナリ

尙舊案文第二條末段ニ於ケル會社規定ハ之ヲ削除シ之ニ關シテハ別ニ獨立ノ第三條ヲ設ケテ規定スルコトトセリ

三 新第三條案文ハ大体日澳通商條約第十五條ニ倣ヒタルモノナルカ同第十五條ト異ル點ハ左ノ二點ナリ

(イ) 右第三條第二「パラグラフ」中 the capacity to acquire property ヲ追加セルコト

(ロ) 右第三條ハ日澳條約第十五條第三「パラグラフ」ニ相當スヘキ「パラグラフ」ヲ含ミ居ラサルコト

何トナレハ會社ノ是等權能ニ關シ最惠國待遇ヲ約スルコトハ今後ノ我產業政策上支障アルヘキコトノ虞アルヲ以テ最惠國待遇ニ觸レサルコトトセル次第ナリ

三 舊案文ニ於テハ其ノ第三條ニ於テ最惠國待遇ニ關スル

簡單ナル總括の規定ヲ設ケ同規定ヲシテ關稅率航海其他一切ノ事項ニ關スル最惠國待遇保障ノ具體の規定ニ充當セントシタル次第ナルモ右ハ是迄ノ解釋上多少無理アリ且右ニテハA表及B表ニ掲載セラレタル商品以外ノモノニ對スル待遇ニ關シ將來問題ヲ生スルノ惧アルカ故ニ新第五條ヲ設ケタル次第ニシテ舊第三條ハ之ヲ其ノ儘第九條トシ從前ノ通商條約中總括的最惠國約款ニ關スル條項ト同一程度ノ意味ヲ有セシムルニ止メムトス

四 新第七條ハ舊第六條ト殆ント同様ナルカ其ノ相違點ハ左ノ二點ナリ

(イ) 第二「パラグラフ」中 from whatever place arriving ヲ挿入シタルコト

(ロ) 末尾ニ同第七條ノ規定カ本條約第五條ニ於テ規定セラレタル締約國ノ一方ノ權利ヲ阻害スルモノニアラサル旨ヲ追加セルコト

五 舊案第七條ニ於テハ通商航海ノ自由、開港地往來ノ自由ニ關スル内國待遇ニ關シ明確ニ規定スル所ナカリシカ右ハ此ノ際明瞭ニナシ置ク方可然ト思考セラルル

ニ付新案第八條ニ於テハ之ニ關スル規定ヲ設クルコトトシ其ノ第一「パラグラフ」ヲ日英通商條約第六條ヨリ採リ第三「パラグラフ」以下ハ大体日獨通商條約第十九條ニ倣ヒタリ

尙濠洲船舶ノ定義ニ付キテハ御交渉ノ際之ヲ明確ニセラルルコトト致度シ

(別 添)

甲號

Article 2.

The nationals of Japan and of the Commonwealth of Australia shall have full liberty to enter, travel, sojourn and reside in the territories of each other; they shall enjoy in such territories the most-favoured-nation treatment in all that relates to or is necessary for the pursuit of the callings, professions, commerce, and industries; they shall be placed, in matters of taxes, fees, charges and contributions of any kind whatever, on the same footing as native subjects or the nationals

of the most favoured nation whichever is more favourable; they shall be permitted to own or hire and occupy houses, manufactories, warehouses, shops, and premises, which may be necessary for them, and to lease land for residential, commercial, industrial, and other lawful purposes, in the same manner as native subjects or the nationals of the most favoured nation; they shall, on condition of reciprocity, be at full liberty to acquire and possess every description of property, movable or immovable, which the laws of the country permit or shall permit the subjects or citizens of any other country to acquire and possess, subject always to the conditions and limitations prescribed in such laws.

乙號

Article 3.

Limited liability and other companies and associations, commercial, industrial, and financial,

nation.

丙號

Article 5.

Articles, the produce or manufacture of the territories of Japan or of the Commonwealth of Australia, upon importation into the territories of the other, from whatever place arriving, shall not be subjected to duties or charges other or higher than those imposed on like articles, the produce or manufacture of any other country.

丁號

Article 7.

The articles, the produce or manufacture of the territories of Japan, enumerated in the Schedule A annexed to the present Treaty, shall not, upon importation into the territories of the Commonwealth of Australia, from whatever place arriving, be

including insurance companies, already or hereafter to be organized in accordance with the laws of either Japan or the Commonwealth of Australia, and registered in the territories of such country, are authorised, in the territories of the other, to exercise their rights and appear in the Courts either as plaintiffs or defendants, subject to the laws of such other country.

The admission of these companies and associations to the exercise of commerce, industry, and the capacity to acquire property in the territories of the other country shall, in all respects, be governed by the laws and regulations valid in the territories of such other country.

The said companies and associations shall also enjoy in the territories of the other country the same treatment in regard to the imposition of taxes, fees, charges or contributions, as is accorded to the like companies and associations of the most favoured

subjected to higher customs duties than those specified in that Schedule.

Articles, the produce or manufacture of the territories of Japan, from whatever place arriving, shall, so far as the primage duties or any kind of additional duties are concerned, be accorded the same treatment as is or may be accorded to similar articles, the produce or manufacture of the territories of the British Commonwealth of Nations.

The articles, the produce or manufacture of the territories of the Commonwealth of Australia, enumerated in the Schedule B annexed to the present Treaty, shall not, upon importation into the territories of Japan, from whatever place arriving, be subjected to higher customs duties than those specified in that Schedule.

Nothing contained in the present article shall be deemed to affect the rights of Japan and of the Commonwealth of Australia under Article 5 of the

present Treaty.

戊號

Article 8.

The nationals of each of the two countries shall have liberty freely to come with their ships and cargoes to all places, ports, and rivers in the territories of the other, which are or may be opened to foreign commerce, and, conforming themselves to the laws of the country to which they thus come, shall enjoy the same rights, privileges, liberties, favours, immunities, and exemptions in matters of commerce and navigation as are or may be enjoyed by native subjects.

The coasting trade of Japan and of the Commonwealth of Australia is excepted from the provisions of the present Treaty, and shall be regulated according to the laws of the two countries respectively.

It is, however, understood that, in this respect,

each of the two countries shall have the right to demand that her vessels should enjoy the same rights and privileges as are or may be accorded in the other country to the vessels of any third country, in so far as the country that makes or may make such demand, shall accord to the vessels of the other country similar rights and privileges.

The vessels of either of the two countries may, nevertheless, proceed from one port to another in the territories of the other country, either for the purpose of landing the whole or part of their passengers or cargoes brought from abroad, or of taking on board the whole or part of their passengers or cargoes destined abroad. They may also convey from one port to another in the territories of the other country their passengers holding through tickets to or from places abroad, and carry their cargoes consigned on through bills of lading issued or destined abroad.



284

昭和10年2月14日 在ブラジル沢田大使より
広田外務大臣宛(電報)

実業団派遣に対するブラジルの関心は予想以上につきできる限り同国側物資買付等の商談を期待するとの意見具申

付記 昭和九年九月十日発広田外務大臣より在ブラジ

ル林(久治郎)大使宛電報第一二七号

本邦実業視察団ブラジル派遣について

リオデジャネイロ 2月14日後発

本省 2月15日前着

第三九號

在米大使宛貴電第一八號ニ關シ

日本ト兩米トノ通商ヲ三角關係ニ置カントノ御趣旨ハ結構ノコトト存スルモ之カ實現ハ仲々容易ノ業ニ非サルヘシト察セラルル處差當リ伯刺西爾ハ目下財政的ニ甚タシク行詰リ最近迄大臣ヲ債權國ニ特派シ種々工面ヲ重ネ居ル程ニテ之カ救済ノ一策トシテ何トカ輸出増進ヲ計ラサルヘカラサル立場ニ在リ屢次往電ノ通伯刺西爾側ニ於テ我實業團ノ來伯ニ對シ當方豫想以上ノ關心ヲ有シ居ルモ畢竟將來前記ノ

趣旨ヨリ右來伯ノ機會ニ何等カノ話合ヲ遂ケ度シトノ底意ヲ有スルナラント認ム而シテ我方トシテモ當面ノ移民問題ハ素ヨリ日伯貿易乃至兩國親善關係増進ノ見地ヨリスルモ出來得ル限り此ノ際先ツ伯刺西爾ノ物資ヲ買付クル様心掛クルコト肝要ニシテ實業團來伯ニ際シテハ例ヘハ棉花等ニ付何等引合得ル商談アラハ滯伯中直ニ或ル程度迄之ヲ纏メ幾分ニテモ伯刺西爾側ノ切望ニ應シ得ルコトモナラハ萬事ニ好都合ナルヘシト信スルニ付實業團一行ニ於テモ右ノ趣旨ヲ體シ本邦關係各方面トノ打合セヲ遂ケ充分ナル準備ヲ整ヘ出發スル様致度右特ニ御配慮ヲ請フ

(付記)

本省 昭和9年9月10日後4時10分發

第一二七號

往電第九三號三後段及貴電第一八六號ニ關シ

貿易企業等ノ方面ヨリ間接ニ移民問題解決ニ資スル爲本邦實業視察團ヲ伯國ニ派遣スルノ案ハ當方ニ於テモ豫テ攻究中ナリシカ最近我關係方面ニ於テモ漸ク右實現ノ機運熟シ來レルヤニ認メラル、ニ付此際我實業團體代表ノ名義ヲ以

テ有力ナル實業家ヲ派遣シ棉花其他ノ専門家ニ、三ヲ同行セシメ更ニ在伯邦人中ヨリ適當ナルモノ一、二ヲ加ヘテ伯國一般經濟界ノ視察並伯國側實業家等トノ懇談ヲ行ヒ以テ棉作其他企業上ノ援助乃至彼我貿易増進ノ具体策ヲ講セシムルコト一案ト思考スル處責任國ノ政情其ノ他諸般ノ情勢ヨリ見テ目下右實行ニ適スル時機ナリヤ貴見同電アリタシサンパウロヘ轉電アリタシ

285

昭和10年2月16日

広田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

我が國の対米、対中南米貿易を三角的に調整する案についてはなるべく速やかに米國当局との協議を開始すべき旨訓令

本省 2月16日後5時発

第四五號

往電第一八號ニ關シ

本件懇談ニ付テハ適當ノ機會ヲ待チ居ラルル次第ト存ゼラルル處右往電中ニハ別段具體的提案ヲ包含シ居ルモノニ非ザルモ右ハ米國側ノ意向ヲ知りタル上必要ニ應ジ具體的提

案ヲ考慮セントスルモノニシテ右ニ關シテハ既ニ在本邦米國大使館附商務官モ協力ヲ約シ居ル次第ニシテ先ツ米國政府ノ意嚮ヲ求メントスルモノナルニツキ貴官ハ右事情御含ノ上成ルベク速ニ好機ヲ捉ヘ先方ノ意向御確メ相成リ結果同電アリタシ

286

昭和10年2月18日

在モンバサ茂垣(長作)領事より
広田外務大臣宛

コンゴ盆地条約改廢運動対策としてウガンダ棉買付助成につき意見具申

機密第一六號

昭和十年二月十八日

在モンバサ

領事 茂垣 長作(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

「コンゴ」盆地條約改廢運動対策トシテ

「ウガンダ」棉買付助成ニ關スル件

英領東阿並ニ白領「コンゴ」方面對本邦輸出貿易ハ目下益々躍進ヲ示シツ、アルトコロ大体右ハ本邦産業ノ実力ニ

ヨルモノナルガ一面又「コンゴ」盆地條約ニ基ク均等待遇保証ニ負フ結果トモ言フヘク左レバ盆地條約ニシテ万一廃棄ヲ見ル曉ニハ今日迄獲得セル本邦商品ノ地盤モ將來顛落ノ憂目ヲ見ストハ何人モ保証シ得ザルトコロトス世界的風潮トモ言フベキ日貨排撃ノ狂瀾裡ニアリテ此処東中阿地方ノミハ邦品活動上現在殘サレタル唯一市場タル觀ヲ呈シツ、アルコト一ツニ前顯條約ノ庇護ニヨルモノト言フモ過言ニ非ザルベシ勿論東阿地方トテモ邦貨進出上全然無風帶ヲ以テ目スヘカラサルコト昨年、一昨年ト兩度ニ亘リ行ハレタル関稅引上ニヨリテ之ヲ知ルヘク前顯關稅改正ノ眞意ハ言フ迄モ無ク邦品防圧ニアリタルモ表面ノ理由ハ歲入増加ニアリテ決シテ差別待遇ヲ目的トスルニアラズトノ建前ナリシヲ以テ日貨排斥措置トシテハ實質上左マデ重圧ヲ加フルニ至ラズ現ニ益々躍進ノ歩ミヲ續ケツ、アル有様ナリ

前顯條約關係ノ齎セル事態ハ英國側ニ深刻ナル苦惱ヲ與ヘツ、アルコト想像以上トス昨年五月「ランシヤン」声明ニヨル割當制度實施ニ關シ英國政府ハ植民地ニ臨ムニ可ナリノ強行策ヲ以テシツ、アリタルガ之レガ東阿植民地ヘノ適

用ハ日英通商條約委任統治條項「コンゴ」盆地條約等ニ妨ゲラレ流石ノ英國モ手ヲ下スニ由ナク僅カニ前述ノ如ク關稅改正ニヨリテ一部ノ目的ヲ達セルニ過キススノ如ク現行條約ノ下ニ於テ受ケツ、アル二重三重ノ拘束ハ英國産業ニ取リテハ正ニ進退兩難ノ窮地ニ陥リツ、アルモノニテ自然之レヨリ脱却セントスル其ノ努力ニハ極メテ「デスペレート」ノトコロアリ右ハ當業者方面ニ於ケル執拗ナル運動之ヲ説明シツ、アリト云フベシ事態斯ノ如シ愈々改訂期モ目睫ニ迫レル盆地條約ノ運命ハ俄ニ樂觀ヲ許サザルモノアリト見ルヲ至當トスヘシ盆地條約改廢ニ關スル現地ノ輿論ハ其後何等ノ變化ヲ示サス大体ニ於テ平靜ヲ示シツ、アリ客年五月「ランシヤン」声明當時ニ於テ割當制度實施ニ關スル報道以外特ニ論評ヲ試ミタル新聞尠ク其後ニ於テモ既報ノ如ク割當ヲ論シ條約ヲ是非セルモノ極メテ寥々言論機関ニ現レタル四、五論說モ多クハ英本國ノ利己的立場ニ對シ一種ノ警告ヲ與ヘ割當制度ハ英本國ノミノ利益ヲ主眼トセス植民地ノ福祉トモ一致セシムル様修正スベキ点ヲ高調セルニ止マル當業者方面ノ賛否亦取り立て、言フヘキ變化モ無ク今日ニ及ヘルトコロ昨今條約改訂期ノ切迫ト共ニ又

復「バサー」方面ニ於テハ割當実施云々ノ流言蜚語盛ンニ行ハル、ニ至リ歐人方面ニ於テモ本件ニ関シ賭事スラ行ハレツ、アリト傳ヘラル（註、本風説ハ「モンバサ」ノミナラス孟買方面ニ於テモ喧傳セラレツ、アル趣ニテ在孟買邦商等ヨリモ當館ニ対シ眞否問合セアリ其後風説ノ出所ヲ探及セルトコロ意外ニモ火元ハ在本邦ニ、三商社力賣込策ニ之レヲ利用シタルモノナルコト畧ホ確メ得タリ現下ノ如キ重大ナル轉換期ニ此種商人ノ輕舉ハ大局上全ク有害ト思考スルニ付何分ノ御取締方御手配アリタシ）

客年十月頃在倫敦「イーストアフリカンボート」ハ「コンゴ」盆地條約ニ関シ重ネテ東阿聯合商業會議所ニ何分ノ申入ヲナセリト「ロイテル」報道アリタルヲ以テ十一月「モンバサ」ニ開催セラレタル聯合商議ノ年次總會ニ於テ或ハ問題化スヘク懸念セラレタルカ予期ニ反シ本件ハ總會ノ日程ニスラ上ラズ全會議ハ頗ル平穩無事ニ終了セリ御承知ノ如ク盆地條約ノ改廃ニ関シテハ東阿ノ輿論ハ一致シ居ラズ即チ「モンバサ」商議ヲ中心トスル條約存續派ト「ナイロビ」商議ヲ急先鋒トスル廃棄派トノ対立關係ヲ呈シツ、アルカ両者共最早議論ハ盡セリトナシ居ルモノ、如ク

意見ヲ異ニスル以上「コントロヴァーシヤル」ノ問題ヲ總會ノ日程ニ上スハ不賢明ノ措置トナセル爲カ又ハ両者共英本国ヨリノ勸奨ニ基キ大乗の見地ヨリ或ハ暗々裡ニ握手セル結果カトモ觀察セラレサルニ非ス此ノ点ニ関シ茲ニ注意スヘキハ歐人側ノ所謂條約存續論者トス英國的立場ヨリセハ彼等モ亦共通ノ利害ト感情トヲ有スルコト勿論ニシテ唯存續論者ノ主張スルトコロハ一ツニ「モンバサ」港ノ繁榮ニ出資スルモノナリ自然日貨進出防止ニ關聯スル條約廢棄派ノ議論ニハ多分ノ共鳴ト同情アリ又英本国ノ利益ノ爲ニハ区々タル地方的利害ハ或程度迄犧牲ニスルモ致仕方無シトナス一種ノ諦メモアリ且又日本商品ヲ取扱フコトソレ自身遠慮スヘキ筋合トナス如キ「センチメンタリテイ」ニ支配セラレ日本品擁護ト思ハル、カ如キ言動ハ極力避クルヲ賢明トスル氣分可ナリニ濃厚ト看取セラレ我方ヨリ見レハ是等存續論者ハ甚タ頼ミ甲斐無キ者ノミニテ當地有力者トノ意見交換ニヨリテ得タル印象ハ右觀察ヲ遺憾ナカラ肯定スルモノノミニナリ結局英本国ニシテ最後ノ決定ニ到達セル曉假令「モンバサ」ノ主張ニ背反スル場合ト雖モ恐ラク声ヲ潜メテ聽從スヘシト觀察セラル、次第二テ客年以來現

地輿論ノ平靜ナル理由ハ大体前述ノ事情ニモヨルモノナリ盆地條約ノ廢棄改訂等ニ関シ東阿植民地各政府ハ既ニ英國政府ヨリ何等カノ内訓ヲ承ケ居ルモノト想像スルカ本件ニ関シテハ探究ノ方法ナキヲ遺憾トス本年一月十五日ヨリ全十八日ノ四日ニ亘リ「ウガンダ」保護領首府「エンテベ」市ニ東阿總督會議開催セラレタリ同會議招集ハ何レカト云ヘハ突然ノ發表ニ屬シ而モ會議ノ内容一切秘密ニ附セラレタルニ加ヘ英領東阿總督會議ハ從來東阿三州ト「サンジバ」ニ限ラレタルモノナルカ這般ノ會議ハ北部「ローデシア」「ナイアサランド」總督ヲモ加ヘタル謂ハ、歴史的大會議ニシテ「コンゴ」盆地條約關係ノ英領植民地全部ヲ網羅セルヲ以テ時節柄右ニ関スル植民地總督ノ最終的大評定トモ觀察セラレ神經ヲ過敏ナラシメタル次第ナルカ一月十八日午後發表ノ「コムミュニケ」ニヨレハ（一）英帝國航空路改善（二）刑事行政ニ関スル「ブツシュ」報告（三）鉄道運賃錢道財政ニ関スル「ギロブ」報告等ノ審議ニ止マレル趣ナルカ「コムミュニケ」ニ公表ナキ問題ノ審議モアリ得ル次第ニテ本官トシテハ條約問題審議ニ上リタルモノトノ前顯觀察ヲ今尚持シツ、アリ

他方條約參加国相互間ニ内々意見ノ交換行ハレ又ハ現ニ進行中ト思考スルカ盆地條約ニ關スル限り英白二国ノ動向ハ夫々植民地ニ有スル經濟的利害ノ大ナル二見極メテ重要視スヘク是等両国ノ態度ハ條約ノ將來ニ決定的「インフルエンス」ヲ有スルモノトシテ注意スヘキモノナルカ是等ハ一ツニ外交的活動ノ範圍ニ屬スヘキモノナルヲ以テ現地ニ於ケル差當リノ措置ハ貿易尻調整努力ニアリ而シテ右ハ現在ノトコロ「ウガンダ」棉「ケニヤ」（マカザ）曹達ノ買付ニ集注スル外ナキコト屢次具申ノ通リトス曹達ニ関シテハ一時大イニ悲觀セラレタルカ本邦内地曹達工業躍進ノ結果買付寧口順調本年六月迄ニ一万吨積取手配濟ニテ最近更ニ三千屯見當追加ノ見込ニ付本品ニ關スル限り當分人爲的措置ヲ必要トセス然ルトコロ棉花ハ全ク予想外ノ情勢ニアルコト既電ノ通リトス

棉花ニ関シテハ今ヤ全ク本邦向輸出杜絶ニ陥リツ、アル次第ニテ盆地條約改廢問題ニ直面シ眞ニ寒心ニ堪ヘス左ニ重複ノ嫌ヒアルカ「ウガンダ」棉市況御參考迄

（一）「ウガンダ」棉本季生產高 一月十五日付「ウガンダ」政府農務局公表ノ予想ニヨレハ本季生產高

二十五万俵ナルカ現地ニアル本邦商社（日本棉花、東洋棉花、江商ノ三社）ノ予想ハ二十二万俵乃至二十三万俵前季ニ比シ約二割五分方ノ減收ナリ（前季輸出二十七万九千八百六十六俵）

(二)実棉市場出廻 本年一月七日開市前「ウガンダ」全般ニ亘ル操棉工場「プール」成立（前季ハ「ブカンダ」州不参加）向フ五ヶ年間に有効ニ繼續セラル、筈ナリ其結果「プール」買上値段協定ノ爲土人耕作者ハ実棉ヲ賣リ惜ミ自然出廻リ遅々トシテ不埒

(三)相場 埃及並ニ米棉相場弱含ミナルニ反シ印度棉「ブローチ」相場ハ不作ノ結果独リ昂騰ヲ示シ自然印度棉「ブローチ」相場ヲ基準トシテ建値サル、「ウガンダ」棉ハ甚ダシク他國棉ニ比シ割高トナリ現在本邦ヨリノ指値ト地元相場ノ開キ一擔五圓乃至六圓即チ一俵ニ付日本着値十五乃至十八圓ノ開キヲ示シツ、アリ

(四)本邦紡績ノ外棉輸入現状 本邦紡績ニ於テハ「ウガンダ」棉ト大体品質及用途上之ニ相應スル埃及棉（本品ハ例年ノ輸入四、五万俵見當ノトコロ本年ハ既ニ七、八万俵ノ買付ヲ了セル趣ナリ）及米国加州棉ノ買付高既ニ相應ノ額

コトアルヘキ不利情勢ヲ未然ニ防止スル意味ニ於テ現在南阿羊毛買付以上ニ国策的措置ヲ要求シツ、アリ東中阿对本邦輸出貿易ノ消長ハ一ツニ盆地條約ノ運命ニヨリテ決セラレヘキモノニテ本件條約存続工作トシテハ勿論多々アルヘキモ東阿ニ於テ本邦ノ需要スル唯一商品タル棉花買付ニヨル貿易尻ノ改善ハ是非トモ実現シ置カサルヘカラス右ハ謂ハ、基礎的工作ト思考スル次第ニシテ本件ニ関シテハ東阿对本邦輸出品ノ大宗ヲ以テ目スヘキハ原棉ト不離ノ關係ニアル綿布綿製品タル事実ニ甚大ノ考量ヲ加フヘキモノト信ス南阿羊毛ニ就テハ大体南阿向本邦輸出品ハ原毛トハ無關係商品ナルトコロニ買付助成上一大困難アリタリト見ラル、カ此ノ点ニ関シテハ東阿ノ問題ハ關係方面ノ支持期待上前者ヨリ稍安易ノ点アリ紡績聯合會ト云ヘ綿絲布輸出組合聯合會ト云ヘ一大実力ヲ有スル團體ノ背後ニ控ヘ居ル事実等ニ見大局ノ打算上當然協力ヲ期待シ得ルモノト思考ス右ハ往電補足旁々申進ム本件可然御措置相成度

本信寫送付先 在英、白、佛各大使、在英大使館商務參事官、在葡公使、在「アレキサンドリア」總領事、在「ケ

ニ上リ法外ニ割高ノ「ウガンダ」棉ハ買付ノ必要ヲ見サル有様ナリト聞ク

(五)印度紡績ト「ウガンダ」棉 近來業績頗ル良好ト傳ヘラル、印度紡績ノ一部ニ於テハ「ウガンダ」棉割高ノ爲埃及及米棉ヲ相應ニ輸入シツ、アリトモ傳ヘラル、モ永年ニ亘リ使用慣レノ「ウ」棉ニ対シテハ引續キ買進ムヘク期待セラル

要スルニ相場關係カ一大障碍タリ事態此儘ニ推移セハ本季輸出ハ全ク杜絶ノ外無シ

右ノ次第ニテ折角彼我貿易尻改善上有効ノ役割ヲ演シ日貨排斥阻止上微妙ノ支柱ヲ以テ目サレタル「ウ」棉買付全然不能ニ陥リ又復盆地條約廢棄論者ニ口実ヲ與フルノ情勢トナレルハ甚ダ遺憾ナリ

南阿羊毛買付助成ト「ウガンダ」棉花買付

相應波瀾重疊ヲ經タル南阿羊毛買付助成問題モ昨今漸ク纏リタルヤノ趣ニテ同慶ノ至リナルカ「ウガンダ」棉買付助成亦南阿ノ問題ニ劣ラザル重要性ヲ有ス邦品防圧阻止ノ方面ヨリ見レハ東阿ハ條約問題懸案中ハ事南阿ノ如ク焦眉ノ急ヲ告ケ居ラルモ今や重大ナル轉換期ニ立ツ、近ク來ル

「ブタウン」領事

287 昭和10年2月19日 在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛（電報）

対米貿易および対中南米貿易を三角的ないしは多角的に調整する案を米國務長官に説明し
協力方要請について

ワシントン 2月19日後発
本 省 2月20日後着

第九七號

貴電第一八號ニ關シ（中南米貿易ニ關シ懇談方ノ件）

本件ニ關シテハ十四日國務長官ト會見ノ際本件ノ趣旨ヲ話シ置キタルカ十九日更ニ同長官ニ會見右貴電ノ要旨ヲ覺書トナシタルモノヲ持參シ貴電第三二號ニモ言及セル上右覺書ニ説明ヲ加ヘツツ讀聞カセタル處同長官ハ劈頭ニ於テ御申込ミノ御趣旨ハ若シ忌憚ナキ批評ヲ許サルニ於テハ自分ハ之ニ「ユウモアー」ヲ感スルヲ禁スル能ハス何トナレハ通商ノ問題ハ豫々御話シタル通自分ノ最モ注意シ居ル處ニシテ其ノ方針ハ「モンテビデオ」會議以來一貫シテ變

セサル所ナリ即チ第一爲替ノ安定ハ今日ノ如キ爲替不安定ノ狀況ニテハ國際通商ノ進展期待シ得ヘカサルコト言フ迄モナシ第二通商障壁ノ撤廢ハ今日ノ如ク列國カ國家主義的立場ヲ採リ國際貿易ノ見地ヲ忘ルルニ於テハ到底不況問題ノ解決ヲ見ルコト能ハス列國カ三角乃至多角貿易ヲ顧ミサル爲世界貿易額ハ二百五十億弗ノ減少ヲ見ツツアリ從テ列國ハ通商ノ障得タル高率關稅其ノ他ノ障壁ヲ撤廢乃至輕減スルノ必要アルコト之ナリ（尙第三トシテ其ノ解決ハ將來ニ待タルヘカサルモ戰債問題モ亦本問題ニ重要ナル關係アルコトヲ附加シタリ）米國政府カ列國ト所謂互惠條約ヲ交渉シ居ルモ全ク右精神ヨリ出ツルモノニシテ例ヘハ最近締結セル米伯條約ニ於テモ米國ハ犧牲ヲ供シテ伯刺西爾側ノ關稅ヲ低下セシメ而モ右低下ニ依ル利益ハ米國ニ於テ獨占スルコト無ク無條件最惠國條款ニ依リ列國ヲシテ均霑セシムルモノナリ即チ米國トシテハ右ノ如キ方法ニ依リ關稅低下ノ緒ヲ開キ以テ一般的通商自由ノ回復ヲ計ラント試ミツツアルモノニシテ從テ互惠條約ノ交渉ニ當リテハ日本若ハ其ノ他ノ特定國ノ不利ヲ計リタルコトナキノミナラス其ノ國名スラ持出シタルコトナキ次第ナリ

トヲ希望スト述ヘ尙書物ニシテ回答スヘキヤト質ネタルニ付本使ハ其ノ方好都合ナリト答ヘタル處然ラハ唯今御話シタル要領ヲ口授シ御送付スヘシト述ヘタリ更ニ本使ヨリ先般新聞紙ニ米國側カ主唱シテ經濟會議ヲ開催セントスルヤノ報道アリタルカ右ハ唯今御話ノ御趣旨ヲ實行センカ爲列國ヲ召集セントスルノ趣旨ナリヤト問ヘルニ對シ右新聞記事ハ誤解ニ基クモノニシテ目下ノ處スル會議ヲ開催セントスル意思ヲ有セスト答ヘタリ
伯、亞、智、秘、政馬、墨、「コロンビア」ニ轉電シ在米各領事ヘ暗送セリ
墨ヨリ巴奈馬ニ轉電アリ度シ

288

昭和10年2月26日 広田外務大臣より
在シドニー村井總領事宛（電報）

オーストラリアとの今後の通商交渉における
輸入禁止制限問題および英連邦特惠関税問題
の交渉大綱について

別電一 二月二十六日発広田外務大臣より在シドニー村

井總領事宛会商第九号

御申越⁽²⁾ノ米國綿業者ノ策動ト云フカ如キハ何等米國政府ノ紋上ノ方針ニ影響ヲ及ホシタルコトナク事實之等綿業者ハ執拗ニ陳情抗議等ニ依リ政府ニ迫リ其ノ保護ヲ受ケント試ミツツアルモ一切之ヲ撥ネツケ居リ現ニ最近ニモ獨乙ニ對スル求償的輸出ヲ計畫シ政府ノ好意的考慮ヲ求メ來レルモ自分ハ全然之ヲ受容レサリシ爲目下頻リニ自分ヲ非難譏謗シ居レリ米國政府トシテハ列國特ニ其ノ中優越ノ地位ニアル英、佛、獨、日、等ノ諸國カ米國政府ノ根本思想ニ同意セラレ其ノ方針ニテ進マルルト同時ニ其ノ思想ヲ世界ニ宣布スルコトニ協力セラレンコト切望ニ堪ヘス唯一言附加スルノ要アルハ玖馬トノ關係ニテ同國ニ對シテハ米國ハ重大ナル責任ヲ有スル爲通商關係ニ於テモ稍他國ト其ノ趣ヲ異ニスル處アルハ諒トセラレタシト述ヘタルニ付本使ハ右說明ニ對シ謝意ヲ表スルト共ニ然ラハ日本ノ希望シ居ル三角乃至多角貿易ニ依ル調節ノ趣旨ニ付テハ日米兩國ハ全然同一見解ニ立ツモノト思考シ差支ナシト存スルニ付テハ日本政府ノ意ノ存スル處御諒解ノ上機會アル毎ニ御盡力ヲ煩度シト述ヘタル處同長官ハ其ノ點ハ常ニ留意致スヘキモ日本側ニ於テモ米國政府ノ根本思想ノ宣傳ニ御協力セラレンコ

右大綱

二月二十六日発広田外務大臣より在シドニー村

井總領事宛会商第一〇号

右大綱の説明

本省 2月26日発

會商第八號

往電會商第六號ニ關シ

貴電第八號乃至第一八號ノ諸點ニ關シ關係省ト協議シタル處協定品目ニ關スル事項ハ猶關係省ニ於テ研究中ナルガ差當り品目以外ノ大綱主トシテ輸入ノ禁止又ハ制限、「オタワ」協定トノ關係及小麥羊毛問題ニ關シ別電會商第九號（別電會商第一〇號說明参照）ノ通決定セルニ付右ニ依リ先方ト話ヲ進メラレタシ尤モ右大綱ハ通商事項ニ關スルモノノミナルガ我提案第一條第二條ノ如キ事項モ貴電會商第二六號ニ依リ可然時期ニ於テ順次話ヲ進メラレタシ

（別電一）

本省 2月26日後7時20分発

會商第九號

一、我商品ニ對スル課税ノ其ノ他（輸入ノ禁止及制限ヲ含ム）ニ關スル最惠國待遇ノ獲得ハ絕對ニ之ヲ必要トス但シ英特惠ニ均霑セムトスル意思ナキモ此ノ點ハ文書ニ現ハササルコト

三、(イ)爲替補償税ニ關シテハ日印通商協定第三條ノ規定ニ則ルヘシ但シ適當ノ期日ヲ基準トシ其ノ時ヨリ著シク邦貨低落シ且右カ一定期間繼續シタル場合ニハ之ヲ課シ得ルコトトスルモ其ノ實施ニ關シテハ彼我豫メ協議ヲ必要トスルコト

右低落ノ限度及繼續期間ノ決定ニ付テハ先方ト御交渉ノ上請訓セラレタシ

(ロ)右補償税賦課ノ場合ニハ本邦ニ於ケル物價ノ騰貴其ノ他邦貨低落ノ影響ヲ緩和スヘキ事項ヲ參酌スヘク且之カ形式ヲ双務的トスルコトモ亦日印條約第三條ニ則ルヘキコト

(ハ)前記(イ)ノ場合ニ於テモ國內産業保護ニ關係ナキモノハ之ヲ除外スルコト

三、(イ)輸入制限措置防止方ニ關シテハ若シ一方カ輸入制限又ハ禁止ヲ行ハントスル場合ハ相手國ト協議スヘキ義務

(ハ)先方申出ノ特別税ハ本邦品ニ對シ廢止セシムルコト

(ハ)先方ヨリ自發的ニ關税引下方ヲ申出タル品目ニ付テハ我方ニ取り重要性少キモノ多キ様認メラルルニ付當方希望品目ヲ抽出ノ上追テ回答スヘキコト

五、(イ)先方要求品目ニ關シテハ目下研究中ニ付追テ回答スヘキコト

(ロ)羊毛無税据置ハ受諾シ難キコト

(ハ)牛肉ノ本邦輸入ニ關シテハ他國トノ間ニ何等取極ナシ税率協定ノ形式ニ關シテハ更ニ固定ヲ主張スルコト

七、「プライメーヂ」税ノ撤廢ヲ要求スヘキ我商品ハ研究中ナルカ追テ電報スヘキコト

八、硫黄輸入許可制度（貴電會商第一六號）ニ付テハ先ツ本邦產硫黄ニ對シ優遇ヲナサントスルニ至レル動機ヲ確メラレ回電アリタシ

(別電二)

會商第一〇號

本省 2月26日午後7時30分發

別電會商第九號ニ對シ必要ナル説明左ノ通り

ヲ有スル旨ヲ規定シ且協議三ヶ月ニシテ纏ラサル時ハ右制限又ハ禁止ヲ行ハムトスル一方ハ一ヶ月内ニ一ヶ月ノ豫告ヲ以テ右制限又ハ禁止ヲ行フヘキコトヲ相手國ニ通告スヘク相手國ハ右通告ノ日附ヨリ一ヶ月内ニ前記制限又ハ禁止ノ實施ト同時ニ第二、條ノ規定ニ拘ラス之ヲ失効セシムルコトヲ通告シ得ルコトトスルコト但シ日佛第六條等ノ除外例ニ關スル規定ト同様ノ規定ヲ挿入スルコト

(ロ)輸出小麥粉ノ原料タル小麥以外ノ小麥ニ對シテハ右(イ)ノ例外トシ協議ヲ俟タス直ニ之カ輸入ヲ制限又ハ禁止シ得ルコトトスルコト

四、(イ)本邦品ニ對スル税率引下ヲ「オタワ」協定ニ反セサル範圍ニ於テ極限迄實行セシムルコト

(ロ)我提案ニ對スル先方承諾品目ノ税率輕減程度僅小ナルニ付右(イ)ニ依リ極限迄引下ケシムルコト

(ハ)我方要求品目中先方ノ研究中ニ屬スル品目ニ付テハ受諾方ヲ督促スルコト

(二)先方ノ拒絕セシ品目中再要求スヘキモノハ追テ申出ツヘキニ付之カ交渉方留保シ置クコト

甲、三、(イ)ハ先方ヲシテ出來得ル限り我商品ニ對スル制限ヲ爲サシメサルト共ニ他方協議期間ヲ設ケテ相手方ノ希望ヲ參酌スルノ機會ヲ與ヘ以テ貴電第九號ノ一小麦及羊毛ニ關スル先方ノ希望ニ副ハムトノ趣旨ニテ立案セルモノナリ尙輸入ノ禁止制限ニ關シ最惠國待遇ヲ保障セムトスルハ別電會商第九號ニノ通ナリ

乙、三、(ロ)ニ關シテハ濠洲ヨリ輸入セラルル小麦ノ $\frac{2}{3}$ 以上ハ輸出小麥粉ノ原料ナルヲ以テ事實上ハ殆ムド先方ニ影響ナキモノトス、輸出小麥粉ノ原料タル小麦ハ輸入ノ際關税ヲ支拂ヒ小麦粉トシテ輸出ノ際戻税ヲ受ク

丙、四、(イ)ハ貴電會商第一〇號先方ノ主張ヲ斟酌シテ讓歩セルモノナリ就テハ協定品目ニ關シテハ「オタワ」協定ニ反セサル程度ニ於テ極度迄讓歩セシメラレタシ

丁、五、(ロ)羊毛ハ本邦二產セサルヲ以テ之ニ保護關税ヲ課スルノ意ナキモ兎モ角棉花ト共ニ金額ニ於テ我輸入品中ノ大宗ナルニ付財政上ノ見地ヨリ無税ノ拘束ヲ受クルコトヲ不可トスル次第ナリ

戊、五、(二)關シ關東州產生牛ニハ特惠關税アリ今次ノ會商ニハ關係ナキ事項ナルモ御參考マデ

己、六ニ關シ濠洲ハ「ニュージールランド」ニ對シ少クトモ六ヶ月ノ稅率据置ヲ約シ居ルト同様ナレハ我方ニ於テ飽ク迄主張スレハ條約期間内ノ固定ニハ同意スヘシ

289

昭和10年2月26日 広田外務大臣より
在ブラジル沢田大使、在メキシコ堀
(義貴)公使、在チリ矢野(真)公使他宛

我が方と貿易不均衡にある中南米諸国の有力
者に対し邦品輸入防遏措置などは本件は正を
もたらさない旨適宜説明方訓令

付記 二月十二日付広田外務大臣より岡田内閣総理大

臣宛公信米二普通第六四号

中米諸国との通商關係維持・増進のためメキ
シコ公使をして中米五カ国兼任について

通二機密合第二九二號

昭和拾年貳月廿六日

外務大臣 廣田 弘毅

在ブラジル國特命全權大使 澤田 節藏殿

在メキシコ國特命全權公使 堀 義貴殿

在アルゼンティン國臨時代理公使 山崎 次郎殿

一、本邦ニ於テハ近時ノ中南米諸國ノ本邦品防遏措置ニ直面シ已ムヲ得ズ對手國產物買付方ヲ考慮シ居ルハ事實ナルモ是等諸國側ニ於テ右ヲ以テ我方ニ對スル懸引ト爲シ邦品ヲ壓迫セバ我方が必然的ニ當該國產物ヲ買進ムベシト考ヘ居ル様ノコトアルニ於テハ右ハ大ナル誤解ニシテ我方が如何ニ努ムルモ國內ニ需要ナキ產物ノ買進ミ不能ナルハ自明ノ理ニシテ況ンヤ是等諸國ノ如ク殆ド產物ヲ均シクシ且種類ニ乏シキ國ガ一樣ニ同一ノ要求ヲ爲スモノニ應ジ得ザルハ當然ナリ

二、假ニ一步ヲ譲リ右ノ措置ガ之等諸國側トシテ貿易均衡ヲ計ル上ニ於テ已ムヲ得ザルモノトスルモ自ラ我方ノ需要喚起乃至市場調査ニ付努力ヲ拂フコトナク單ニ我方ニノミ買進ミノ義務ヲ強フルガ如キハ餘リニ勝手ナルコトト言ハザルヲ得ズ

三、元來廉價ノ本邦品輸入ハ當該國一般消費階級ノ福祉ニ副フコト大ナルモノアルノミナラズ右ハ直接當該政府ノ關稅收入ノ増加ヲ齎ス(我商品ノ大宗タル綿布ノ如キハ多クノ國ニ於テ從量稅ヲ採用シ居ルヲ以テ斯ル國ニ於テハ商品低廉ナルガ爲自然輸入量ノ増加ヲ見ル場合關稅額モ

在チリ國特命全權公使 矢野 眞殿

在ペルー國臨時代理公使 春日 廓明殿

在コロンビア國特命全權公使 岩手 嘉雄殿

在キューバ國臨時代理公使 渡邊 知雄殿

在パナマ領事代理 齋田 從義殿

中南米諸國貿易調整ニ關スル件

本邦ノ中南米諸國トノ通商關係ハ本邦品ノ之等諸國ニ對スル目醒シキ進出ニ件ヒ最近ニ於テ著シキ狀勢ノ變化ヲ見ルニ至リ之等諸國中本邦ニ對スル關係力輸入超過ニ在ルモノハ其ノ程度ノ隔絶的ナル關係モアリテ殆ド一樣ニ何等カノ手段ヲ講ジテ邦品ノ輸入ヲ禁遏スルコトニ依リ出來得ル限り其ノ輸出入ノ均衡ニ近ヅケントシツツアル次第ハ夙ニ御承悉ノ通りナリ右ノ趨勢ニ對シテハ我方トシテ既に各國個別的ニ夫々適當對策ヲ講ジツツアル次第ナルモ一般の之等諸國ノ態度ニ對シテハ大畧左記各項ノ趣旨ヲ以テ先方ノ深甚ナル注意ヲ喚起シ置クコト適切ナリト思考セラル就テハ貴官ハ責任國政府乃至有力者ト御接觸ノ機會ニ於テ努メテ之等諸點ニ付篤ト懇談的ニ説得ヲ試ミラルル様致度尙結果其ノ都度御電報又ハ御回報相成度

夫レ丈ケ增收ヲ見ル次第ナリ) 所以ナルニ拘ハラズ前記一ノ誤解又ハ本邦品ニ對スル競爭國ノ宣傳ニ誤ラレ邦品防遏ノ措置ニ出ヅルガ如キハ自國民衆ノ爲將又自己ノ財政上ノ見地ヨリ甚ダ取ラザル所ナルコト言フヲ俟タズ

四、他面邦品ヲ防遏シ其ノ代リニ邦貨ニ比シ高價ナル第三國品ヲ購入スルコトニ依リ當該第三國ガ夫レ丈ケ自國產物ヲ買進ムベシト考フルハ前記ノ如ク中南米諸國產物ノ性質種類ニ徴シ早計ト言ハザルヲ得ズ

五、又全体トシテ出超國ナルニ拘ラズ偶々本邦トノ「バランス」ガ不利ナリトテ直チニ我ニ對シ通商障礙ヲ設クルガ如キハ公正ナル措置ト言フコトヲ得ザルヤ明ナリ

六、購買力ノ減退セル一般民衆ノ良質廉價ナル邦品ニ對スル憧憬ハ世界共通ノ事實ニシテ當該國力法規下ニ邦品ノ輸入ヲ阻止セントスルモ必スヤ非合法的輸入ヲ誘致シ所期ノ目的ヲ達成シ得サルハ過去ノ例ニ顧ミ明ナル所ニシテ其ノ結果ハ前記三ノ通關稅收入ヲ失ヒ國際關係ヲ惡化スル外何等得ル所無シ

本信送付先

中南米各大公使及在パナマ領事

本信寫送付先

在亞商務書記官、在伯國聖州各領事

(付記)

米二普通第六四號

昭和十年二月十二日

外務大臣 廣田 弘毅

内閣總理大臣 岡田 啓介殿

在墨西哥帝國公使ノ在「サルヴァドル」、「グアテマラ」、「ホンデユラス」、「ニカラグア」及「コスタ、リカ」

五國公使兼任ニ關スル件

今般在墨西哥帝國公使ヲシテ「サルヴァドル」、「グアテマラ」、「ホンデユラス」、「ニカラグア」及「コスタ、リカ」各國駐劄公使ヲ兼任セシメ度ク別紙理由書ヲ具シ此段及請議候也

(別紙)

理由書

中央亞米利加ニ國ヲ爲ス「グアテマラ」、「サルヴァドル」、「ホンデユラス」、「ニカラグア」及「コスタ、リカ」ノ五

外一般通商政策上好箇ノ市場タルヲ失ハス然ルニ之等諸國モ自國產品ノ輸出先國側トノ關係保持ノ必要上或ハ伸縮的差別關稅ノ設置或ハ爲替管理制ノ採用等已ムヲ得サル事態ニ達着シツツアリ其ノ結果我國ノ如ク是等諸國產品ノ輸入皆無ナル國ノ商品ハ甚タ數不利ナル取扱ヲ受セントスルニ至リ現ニ「サルヴァドル」國ハ客年七月伸縮關稅法ヲ公布シ爲ニ同國向我商品ハ同年八月二十九萬圓ノ輸出ヲ見タルヲ最後トシ爾來殆ト輸出杜絶ノ情勢ニ在リサレハ此際此方面ニ於ケル我商權ノ擁護及擴張ノ爲何等措置ヲ講スルコト緊要トナレリ。

翻テ中米五ヶ國ニ對スル諸外國ノ外交關係ヲ見ルニ世界主要國ニシテ尠クトモ中米ノ一國ニ公使ヲ駐劄セシメサルモノハナク米國ハ特ニ五ヶ國ニ對シ各別ニ公使ヲ派遣シ英國ハ「グアテマラ」ニ公使ヲ駐劄セシメ隣邦「サルヴァドル」、「ホンデユラス」及「ニカラグア」ノ三國ヲ兼任セシメ「コスタ、リカ」ハ在「パナマ」公使ノ兼轄下ニ置キ獨佛ノ兩國ハ何レモ在「グアテマラ」公使ヲシテ他ノ四ヶ國ヲ兼任セシメ居レリ又和蘭、**チエツコ**、**デンマーク**等ハ在墨公使ヲシテ中米五ヶ國ヲ兼任セシメ居レリ然ルニ我國ニ在テハ

共和國ハ十九世紀ノ初頭西班牙ヨリ分離獨立シテ建國セル中米聯邦ノ各一部タリシ地方ニシテ人種言語風習ヲ等シクスルハ素ヨリ政治經濟等ノ形態ヲモ軌ヲ一ニシ天產資源ニ至ル迄相類似シ大體同様ノ貿易ヲ營ミツツアリ今之等諸國ノ主要產物ニ就テ觀ルニ概ネ珈琲若ハ**バナナ**ノ一カ又ハ其兩者カ總輸出額ノ九割餘ヲ占メ珈琲ハ主トシテ獨、英、**バナナ**ハ北米ヲ輸出先トス然ルニ是等諸國ニ於ケル工業ニ至テハ何等掲クヘキモノ無ク未タ純然タル農產國ノ域ニ在リテ殆ント總テノ加工製造品ハ他國ヨリノ輸入ニ俟チツツアリ

我國ノ是等中米諸國トノ通商關係ヲ見ルニ我方ヘノ輸入ハ目下殆ト皆無ナルモ我方ヨリノ輸出ハ最近逐年増加ノ趨勢ニアリ現ニ「サルヴァドル」國ヘノ我輸出額ハ昭和七年ノ三十九萬圓、同八年ノ六十八萬圓ヨリ同九年ニハ一躍二百二十九萬圓ニ増加シ居リ又「グアテマラ」、「ホンデユラス」兩國ヘモ昭和九年度ニ於テ夫々二百二十八萬圓及百十萬圓ノ輸出ヲ見タリ素ヨリ別表^(附)掲記ノ通中米諸國全般ノ現勢ニ照ラシ是等地方ハ我商品ノ大市場トハ稱シ難シト雖モ尙我販路地トシテ開拓ノ餘地充分アルノミナラス我對

從來本邦人ノ渡航在留スル者殆ント皆無ニシテ通商關係亦謂フニ足ラス實際上彼我ノ關係疏遠ナリシ爲特ニ正式外交關係ヲ設定スルニ至ラサリシ處近時中米地方ニ對スル商權ノ伸張前顯ノ通ナルノミナラス汎ク我國運ノ伸展ト共ニ中米五ヶ國トノ國交關係モ漸ク親善ヲ加ヘントシ特ニ「サルヴァドル」國ノ如キハ既ニ數年前ヨリ我國ニ總領事ヲ派遣シ又一昨年移民法ヲ改正シ以テ我國民ニ對シ從來ノ蒙古人種ナル名目ニ依ル入國禁止取扱ヲ是正スル處アリ更ニ客年他國ニ先ンシテ滿洲國ヲ承認スル等我國ニ對シ好意表明ノ態度ニ出テツツアリ又「ニカラグア」ハ先般東京ニ於テ開催セラレタル萬國赤十字會議ニ特ニ副大統領ヲ代表トシテ參列セシメ續テ總領事ヲ新ニ東京ニ駐派セシメタリ依テ此際尠クトモ右兩國ニ對シテハ正式ニ外交關係ヲ開始セシコト機宜ノ策ト認メラルル處右以外ノ諸國ニ對シテモ我商權ノ進出著シキモノアルハ前顯ノ通ニシテ之カ維持伸張上右二國ニ對スルト同様正式ノ外交關係ヲ設定シ置クコト得策ナルハ論ナキノミナラス由來中米五ヶ國ハ動モスレハ相互ニ相拮抗セントスル微妙ナル間柄ニ在レハ我國カ初メテ外交關係ヲ開始セントスルニ當リテハ此ノ間ノ事情ヲ考慮セ

サルヘカラス就テハ前顯諸外國ノ例ニ倣ヒ中米五ヶ國ニ對シ同時二同一ノ措置ニ出ツルヲ可トス而シテ從來我國ト中米諸國トノ間ニハ條約ノ締結ヲ見サリシ處「サルヴァドル」及「コスタ、リカ」二國トハ目下通商條約ノ締結方商議中ナルモ我方ニ於テ正式ノ外交機關ヲ有セサル等ノ爲不便多ク其ノ遅々タルヲ免レサルニ鑑ミ右促進ノ爲ニモ外交關係ノ開始ハ愈々急務ト爲レリ以上ノ理由ニ依リ鈔クトモ中米五ヶ國中ノ一國ニ公使館ヲ開設シ隣邦諸國ヲ兼轄セシメ以テ彼我ノ國交ヲ益々緊密ナラシムルト共ニ我通商上ノ利益ノ擁護及擴張ヲ期スルコト最モ機宜ニ適シタル儀ト思量セラルルモ右ハ豫算其ノ他ノ都合ニ依リ即急實現困難ナルヘキヲ慮リ差向ノ便法トシテ明年度豫算ニ在マサトラン領事館ノ「サン、サルヴァドル」移轉費ヲ計上シ愈々右開館ノ上ハ在ハバナ領事ノ例ニ倣ヒ對外的ニハ代理公使トシテ本件五ヶ國ヲ兼轄セシムルコトトシタキ處之方爲ニハ先以テ最寄地方駐節ノ公使ヲシテ之等ノ諸國ヲ兼任セシメ在「サン、サルヴァドル」領事ヲシテ右公使ノ代理タラシムル必要モアリ旁々此際從來在亞公使力「ウルグアイ」國（中米諸國同様未タ我國トハ無條約ノ關係ニアリ）及「パラグア

イ」國ヲ又最近在祕公使力「エクアドル」國ヲ兼任スルニ至レルノ例ニ倣ヒ中米五國トハ地理的ニ近接シ居リ且ツ歴史的ニモ關係深キ墨西哥國駐節ノ帝國公使ヲシテ頭記中米五ヶ國ヲ兼任セシムルコトトシ右兼任ニ關シ予メ關係五國ノ意嚮ヲ夫々問合セタル處何レモ在墨公使ノ兼任ニ差支ナキ旨及堀公使ヲ右各國駐節公使ト認ムルコトニ異存ナキ旨回答シ來リタルニ付テハ同公使ノ之等諸國駐節公使兼任方至急取計フコトト致度

~~~~~

290 昭和10年3月1日 在ニューヨーク沢田總領事より  
広田外務大臣宛（電報）

訪伯經濟使節団に対する米國綿業關係者等各  
方面の反応について

付記 昭和九年十二月二十一日發広田外務大臣より在  
ブラジル内山臨時代理大使宛電報第一八三號  
訪伯經濟使節団派遣に関する件

ニューヨーク 3月1日後發  
本 省 3月1日後着

第五〇號

往電第四五號日米協議會ニ於テ極東視察團員披露ノ際「トーマス」ハ再三ノ勸誘ニ拘ラス綿業代表ノ參加ナキハ特ニ遺憾ニ堪ヘサルヲ述フルト共ニ右ハ日本カ近ク伯刺西爾ニ經濟使節ヲ送り米棉ノ代リニ伯刺西爾棉ヲ買ハントスルヤノ噂傳ハリ居ル爲當國綿業者力氣ヲ腐ラシ居ルニ原因スルカ如キ旨附言シタルカ會議後「ト」ハ本官ニ對シ日本ハ伯刺西爾ニ何等「ローン」ヲ提供アリヤ又咖啡ト日本品トノ「バター」、アレシメン」ヲ申出タルヤヲ尋ネタルヲ以テ右ハ何等根據ナキ浮説ナルヲ答ヘタルニ「ト」ハ遣伯使節ニ於テ何等スル話ヲ始ムル手筈ナリヤ其ノ使命ノ大筋ニテモ伺フヲ得ハ不安ヲ抱ク方面ヲ緩和スル爲有益ナルヘキ旨ヲ述ヘタルニ依リ同使節派遣ハ全然民間ノ企ナルニ依リ使命ノ詳細ハ承知セサルモ何等判明セハ御知ラセスヘキ旨答ヘ置キタリ

就テハ客年在伯大使宛電第一八三號「ハ」國當局ヘノ申入ニモ鑑ミ當方面ニテハ如何ナル程度ヲ話シ然ルヘキヤ折返シ御電示アリタシ

尙中南米ニ對シ第三國ノ進出ニ付當國各方面ニ於テ神經ヲ尖ラシ居ル様認ムルニ付遣伯使節一行當國通過ニ當リ新聞

方面其ノ他トノ接觸ニ際シ右ノ點特ニ留意スル様一行ニ對シ充分注意シ置キ相成度シ

在伯大使ニ轉電シ客年在伯大使宛電第一八二號、第一八三號ト共ニ在米大使在米各領事ヘ暗送セリ

（付記）

本省 昭和9年12月21日後7時30分發

第一八三號  
往電第一八二號ニ關シ

先般來拓務省及民間關係方面ト協議ノ結果對伯經濟使節ハ表面政府ト關係ナク日本商工會議所ヨリ之ヲ派遣スルコトトナレリ

「從テ一行ノ使命ハ伯國ノ一般經濟狀態ヲ觀察シ同國生産品中如何ナルモノヲ將來日本ヘ輸出シ得ヘキカ棉作其ノ他同國ノ産業ニシテ我方ヨリ技術的乃至資本的協力ヲ與ヘ得ヘキモノアリヤ又今後日本品輸出増進ノ見込アリヤ等ヲ始メ彼我經濟關係ヲ一層緊密ナラシムヘキ具體案ヲ見出スト共ニ伯國朝野ノ有力者トノ懇談ニ依リ日本經濟界ノ實情ヲ理解セシメ延テ兩國親善關係ノ増進ニ資セムトスルニアリ

從テ移民問題其ノ他政治的問題ニハ直接關係セサル筈ナリ

(欄外記入)

三一行ノ顔觸ハ目下關係方面ニ於テ詮衡中ナルカ團長格トシテ川崎造船所社長平生飢三郎氏ハ既ニ渡伯ヲ承諾シ居リ(夫人同伴)其ノ他東京方面ヨリ一二名、紡績聯合會及棉花同業組合ヨリ一二名ノ實業家參加ノ筈ニテ隨員等ヲ加ヘ一行ハ七、八名トナル見込ナリ

三一行ハ二月中旬日本出發米國經由渡伯ノ豫定ニテ貴地着ハ三月下旬トナル見込ナリ伯國滞在期間ハ五六週間ノ豫定ニシテ日程終了ノ上ハ一應解散ノコトトシ事情許スニ於テハ一行中或者ハ「ウルグアイ」亞爾然丁等ヲモ視察スルコトトナルヘシ

就テハ不取敢右ノ次第伯國當局ニ内報セラルルト共ニ至急伯國滞在中ノ假日程ヲ作成電報アリ度シ

尙平生氏ハ海外移住組合聯合會理事長ノ職ニアル關係上日程終了後ブラ拓關係ノ事業ヲ視察スルコトアルヘキモ前記經濟使節ニハ勿論實業家トシテ參加スル次第ナルニ付其ノ邊伯國側ニ於テ誤解ナキ様必要ニ應シ適宜説明シ置カレ度シ

必要ニ出テタル措置ナルコト並ニ(二)外米輸入制限ノ緩和ハ今尙全ク不可能ナル實情ニ在ルコトヲ説明シタル後(三)日本ハ日暹兩國ノ親善増進及兩國通商維持發達ヲ特ニ重要視スルカ故ニ出來得ル限り速ニ可能ノ限度ニ於テ暹米輸入制限ヲ緩和シ得ルニ至ランコトヲ希望シ此ノ目的ヲ以テ切實考慮ヲ重ネ來レルコト並ニ(四)日本政府カ日暹關係ヲ重ンスルカ故ニ國內事情ヨリ見テハ殆ト不可能事トモ言フヘキ暹米輸入制限緩和ヲ實行セルニ拘ラス萬一ニモ暹羅側カ通商上其ノ他ニ於テ日本ニ不利益ナル措置ヲ執ルカ如キコトアラハ極端ニ日本國民ヲ失望セシメ政府ノ立場ハ非常ナル窮境ニ陥ルヘキコトヲ述ヘテ制限緩和ヲ實行ニ先チ此ノ點ニ付テ貴總理ニ於テ保障ヲ與ヘラレ得ヘキヤト率直ニ所見ヲ叩キタル上懇談ヲ重ネタル處其ノ際總理ノ語リタル所ヲ要約スレハ左ノ通ナリ

一暹羅政府ハ日暹親善ヲ阻害スヘキ措置ヲ執ルカ如キ意思毫モ之無シ尤モ國民經濟維持ノ爲必要ナル通商政策上ノコトハ自ラ別問題ナリ

二財政上ノ必要ニ依ル關稅改正ハ之ヲ實施スルコトナキニアラサルヘキモ暹羅ハ今尙條約上ノ拘束ノ爲思フ様ニ行

參考トシテ「サンパウロ」及亞爾然丁ヘ轉電アリ度シ

(欄外記入)

平生氏ハ移民會社ノ關係ニテ行クモノニアラサル點特ニ注意ヲ要スベシ  
重光

291 昭和10年3月2日 在タイ矢田部公使より  
広田外務大臣宛電報

タイ碎米輸入制限緩和に対するタイ側の日タイ通商保障条件などに関する總理兼外務參議の談話について

バンコク 3月2日後発  
本省 3月2日後着

第六八號(極秘)

貴電第四二號ニ關シ(暹羅碎米輸入許可一件)

一昨日以來總理兼外務參議ニ面會ヲ求メ居タルカ漸ク今日朝面會先ツ在日公使ヨリハ未タ報告ニ接セサル旨確メタル上(一)日本ノ暹米輸入制限カ農村救済ノ爲萬已ムヲ得サル

カス關稅引上モ廣範圍ニ互リテ生活必需品ニ及フコト能ハサルヘシ勿論特ニ日本品ヲ目的トスル關稅障壁等ヲ設クル意嚮ナキコト

三(2)將來抜打的ニ日暹通商上ニ障礙ヲ及ボスカ如キ措置ヲ執ルコトナカルヘク兩國ノ利害調和ニ付テハ充分能ク貴公使トモ打合スヘキコト

四日暹兩國ハ唇齒輔車ノ關係ヲ維持シ種々ノ點ニ於テ相互扶助ヲ以テ旨トスルヲ要ス日本ノ暹米輸入制限ハ農民救済上寔ニ餘儀ナキ必要ニ出テタルハ能ク了解シ居リ自分トシテハ暹羅カ日本ノ窮狀救済ニ貢獻スルコトヲ得レハ寧口満足ニスラ感スル程ナリ勿論之ト同時ニ暹羅カ今日以上深刻ナル經濟的困却ニ際會スルコトアラハ日本ハ直ニ進ンテ救済ノ措置ヲ執ルモノナルヘキヲ信シテ疑ハス暹羅ノ對日報復手段ノ如キ乃至ハ對日「ボーイコット」ノ如キハ予トシテハ考ヘ得ヘカラサル所ナリ(此ノ點ハ貴公使限リト御承知アリ度シ今日商業上ノ實權ヲ掌握スル華僑カ何カノ機會ニ政府ヲ慫慂セシムル目的ヲ以テ此ノ方針ヲ逆用スルアラソコトヲ慮ル)

之ヲ要スルニ總理ハ貴電第四二號二項末段ノ保障ヲ與フル

コトニハ「レラクタント」ノ態度ヲ持シタルモ同時ニ特ニ日本ヲ目的トスル抜打的措置ヲ執ルコトナカルヘキ旨言明シタルモノニシテ今日ノ場合之以上ノコトヲ期待スルハ困難ナルヘシト思考ス

右會談ニ當リ本使ハ御來示ノ數量ヲ開示スルコトハ態ト差控ヘ制限緩和實行ハ暹羅側ノ態度次第ナルコトヲ仄メカシ且小麥輸入制限法案提出ノ事實ヲ利用シ日本トシテハ暹羅ニ關係ナキ小麥ノ輸入ヲ制限シテ迄モ暹羅米ノ輸入制限緩和ヲ考慮シツツアル程ナリト傳ヘタリ御含ミ迄

尙本件絕對極秘扱ノ旨申入レタルニ對シテ總理ハ經濟參議ニ丈ハ話シテ差支ナキヤト反問シ居タルヨリ察スレハ在日公使ヨリ未タ報告ニ接シ居ラサルコトハ事實ナルヘシ

292 昭和10年3月7日 在タイ矢田部公使より  
広田外務大臣宛(電報)

#### タイ碎米輸入許可數量の開示につき訓令

バンコク 3月7日後発  
本省 3月7日後着

第七七號(極秘)

首ヲ縦ニ振リ了承ノ意ヲ現シタリ就テハ此ノ際進ンテ許可數量ヲ開示シ置クヘキヤ否ヤ小麥法案通過本件緩和實行ノ時期見込ト共ニ御同電ヲ請フ

293 昭和10年3月9日 広田外務大臣より  
在タイ矢田部公使宛(電報)

#### 外部に洩らさない諒解の上タイ碎米輸入許可數量の開示につき訓令

本省 3月9日後4時30分発

第五〇號

貴電第七七號ニ關シ

一 暹羅側ヨリ外部ニ洩ササル諒解ニテ許可數量開示セラレ差支ナシ但シ右ハ本邦側當業者ノ輸入許可申請ニ對シ農林省ニ於テ右數量内ニ於テ適宜之カ輸入ヲ許可スルモノニテ大体議會終了後順次許可セラル、コト、ナルヘシ

二 尙八日衆議院委員會ニ於ケル暹羅碎米輸入問題ニ關スル質問ニ對シ關係局長ヨリ目下共同研究中ナル旨答辯シタルニ關シ本日朝日、日々等ハ外務農林兩省間既ニ本件輸入禁止緩和ノ諒解成立セル旨ヲ報スルト共ニ日々ハ數量

五日定例会見ニ於テ外務參議ニ對シ(顧問「バンバイ」殿下下席)一日會見再議言明ノ次第ヲ本國政府ニ報告シタリトテ往電第六八號後段ノ(一)乃至(四)ノ要點ヲ反復シテ右二間違無カリシヤト念ヲ押シタルニ其ノ通ナリト答ヘタル上其ノ外ニ制限緩和方希望ヲ述ヘタル筈ナリト言ヒタリ其ノ際顧問ハ外務省ハ本件日本ノ措置ハ條約違反ナリトノ見解ヲ持シ居リ米人顧問ハ再三抗議提出ノ必要ヲ高調セルニ拘ラス友誼的解決ヲ希望スルカ故ニ之ヲ抑ヘ來リ今モ尙其ノ望ヲ棄テス若シ右希望無キニ於テハ結局抗議提出ノ嚴重手段ヲ執ラサルヲ得サルニ至ルヘシト言ヒ參議ハ今日現政府ノ親日色彩濃厚ナリト内外ニ見ラレ居リ事實夫レニ相違無キ次第ナル際米問題ニ關スル政府ノ弱腰ニ付テハ政府部内外ニ於テ非難多ク自分ハ甚タ苦シキ立場ニ在リ此ノ點御高察アリタシトテ制限緩和ノ希望(Pemitt some rice)ヲ反復セリ依テ條約解釋ニ付テハ日本政府ノ所見ハ貴見ト異ルモノアル處此ノ際右ト離レテ兩國親交増進ノ見地ヨリ御希望ノ次第ニ付テハ豫テ充分考慮シ居レリ尤モ本邦ノ實情ニ顧ミ全面的解禁ハ到底許サレス單ニ出來ルタケノ緩和ヲ爲シ得ルニ過キサルニ付御承知アリタシト述ヘタルニ兩人共

(三十五萬石)ヲモ掲ケ居レル外最近内地澱粉製造業者等ハ右輸入禁止緩和反對ノ運動ヲ開始シ居レリ

三 本件緩和方ニ關シテハ往電第四二號冒頭記載ノ通當方ニ於テ農林省ニ多大ノ壓力ヲ加ヘ承諾セシメタルモノナルモ農林當局ハ今尙右緩和方ヲ喜ハス右數量ノ漏洩ト云ヒ將又澱粉業者ノ反對陳情ト云ヒ農林當局ノ指金ニ基クヤニ認メラル、次第ナルヲ以テ本件力許可實行前暹羅側ヨリ洩ル、カ如キコトアラハ右ヲ口實ニ又々農林側ニ於テ種々ノ策動ニ出ツヘキニ付冒頭記載ノ通暹羅側ヨリハ外部ニ洩ラサル様特ニ念ヲ押シ置カレタシ

294 昭和10年3月11日 広田外務大臣より  
在米國齋藤大使、在ニューヨーク沢田總領事、在シカゴ仲内憲治領事代理他宛

#### 訪伯經濟使節團の編成・派遣について

米二機密合第三八一號

昭和拾年參月拾壹日

外務大臣 廣田 弘毅  
在米國特命全權大使 齋藤 博殿  
在紐育總領事 澤田 廉三殿

在「シカゴ」領事代理 仲内 憲治殿  
 在桑港總領事 富井 周殿  
 在「ロスアンゼルス」領事 堀 公一殿  
 在「ホノル」總領事 田村 貞治郎殿  
 在「ニューオールレアンス」領事代理 佐藤 由己殿  
 訪伯經濟使節派遣ニ關スル件

從來日伯兩國ノ關係ハ移民送出ヲ主トシ經濟關係ハ未タ必  
 スシモ緊密ナラサルニ鑑ミ豫テ之カ改善方攻究中ノ處客年  
 七月公布ノ伯國新憲法ハ外國移民入國制限及同化ニ關スル  
 條項ヲ規定スルニ至リ今後邦人ノ發展上不利ナル影響ヲ受  
 ケムトスルノ事態生シタル爲愈々此際日伯經濟關係ノ改善  
 ヲ計リ以テ兩國ノ親善關係ヲ増進シ間接ニ移民問題ノ解決  
 ニ資スルノ緊要ナルヲ認メ其ノ實行案トシテ有力ナル經濟  
 使節派遣方ニ付曩ニ在伯大使ノ意見ヲ徵シタルニ右ハ同大  
 使ニ於テ機宜ノ措置ト認ムルノミナラス伯國政府當局ニ於  
 テモ希望スル所ナルヲ確カメタリ

依テ今般關係省及民間方面トモ篤ト協議ノ結果別表ノ如ク  
 對伯移植民ニ關係深キ川崎造船所社長平生鈺三郎氏ヲ團長  
 トシ其ノ他東京及關西方面ノ實業家五名ヲ使節トシ之ニ隨

コト面白カラサルノミナラス他面伯國側ヲシテ本使節團ニ  
 過當ノ期待ヲ繋カシムルコトモ大局上不得策ナルニ鑑ミ一  
 行北米通過及滯伯中ハ此ノ點ニ關シ充分ニ言動ヲ注意セシ  
 ムル方針ニシテ一行ノ使命等ニ關シテハ外部ニ對シ「先般  
 來屢次ニ互リ伯國側ヨリ經濟視察團等ノ來朝アリ旁々伯國  
 一般經濟界ノ視察ヲ爲スニアル」趣旨ヲ表示セシムルト共  
 ニ他面伯國官民ニ對シ我方ニ於テ恰カモ伯國物資ヲ大量購  
 入シ乃至ハ互惠協定等ノ交渉ヲ開カントスルモノナルヤノ  
 印象ヲ與ヘサル様一行ニ注意シ置キタル次第ナルニ就テハ  
 右事情御含ミノ上貴地新聞社方面等ヨリ本使節ニ付質問ア  
 リタル場合ハ前記趣旨ヲ以テ適宜應酬セラレ度此段申進ス  
 追テ一行ニ對シテハ外務省囑託ノ名義ヲ與ヘ公用旅券ヲ發  
 給シ置キタルニ付御含ミアリ度尙一行ハ四月八日本邦出發  
 北米（桑港紐育）經由五月十七日「リオ・デ・ジャネイロ」  
 着約一ヶ月公式滞在ノ後伯國ニテ解散ノ豫定ナルカ一行貴  
 地立寄ノ際ハ便宜供與方可然御取計相成度右申添フ

本信送附先

在米大使、在紐育總領事

行者ヲ加ヘテ訪伯經濟使節團ヲ編成派遣スルコトセリ  
 本使節派遣ノ本來ノ目的ハ前記ノ如ク兩國間ノ經濟及親善  
 關係ヲ増進シ延テ移民問題ニ關スル伯國側空氣好轉ノ機運  
 ヲ促進セントスルニ在リト雖モ同國排日分子ニ於テハ移民  
 問題ヲ以テ國內問題ナリトシ外間ノ工作ヲ注視シツ、アル  
 爲メ同國政府當局トシテモ本問題ノ取扱ニハ多大ノ苦心ヲ  
 拂ヒ居ルヤニ觀取セラル、ニ就テハ本使節ハ移民問題等ノ  
 政治問題ニ直接關係ナキ經濟的ノモノトナシ且表面政府ト  
 關係ナク日本商工會議所ヨリ派遣ノ形式ヲ執ルコトセリ  
 從テ其ノ主タル使命ハ伯國ノ一般經濟狀態ヲ視察シ同國生  
 産品中如何ナルモノヲ將來本邦ニ輸出シ得ヘキカ棉作其ノ  
 他同國ノ産業ニシテ我方ヨリ技術的乃至資本的協力ヲ與ヘ  
 得ヘキモノアリヤ又今後本邦品輸出増進ノ見込アリヤ等ヲ  
 始メ彼我經濟關係ヲ一層緊密ナラシムヘキ具體案ヲ見出ス  
 ト共ニ伯國朝野ノ有力者トノ懇談ニ依リ日本經濟界ノ實情  
 ヲ理解セシメ延テ兩國親善關係ノ増進ニ資セムトスルニアリ  
 然ルニ近時中南米方面ニ對スル我方力商勢ノ著シキ進出ニ就  
 テハ米國方面ニ於テ相當注意ヲ惹キ居リ殊ニ伯國棉花ノ買  
 付等ニ關シ米國方面ニ誇大又ハ誤謬ノ風評等流布セラル、

在「シカゴ」總領事、在桑港總領事  
 在「ロスアンゼルス」領事、在「ホノル」總領事  
 在「ニューオールレアンス」領事代理

# （別表）

## 訪伯經濟使節團名簿

|    |     |         |                  |
|----|-----|---------|------------------|
| 團長 | 使節  | 平 生 鈺三郎 | 川崎造船所社長（夫人同伴）    |
|    | 使節  | 關 桂 三   | 大日本紡績聯合會代表       |
|    | 使節  | 伊 藤 竹之助 | 東洋紡績株式會社常務取締役    |
|    | 使節  | 渥 美 育 郎 | 日本棉花同業會代表        |
|    | 使節  | 岩 井 尊 人 | 伊藤忠商事株式會社事務取締役   |
|    | 使節  | 奧 野 勁   | 大阪商船株式會社取締役      |
|    | 事務長 | 山 崎 壯 重 | 三井物産株式會社社員       |
|    | 團醫  | 山 口 壽   | 三菱商事株式會社社員       |
|    | 隨員  | 順 義 雄   | 元領事              |
|    | 隨員  | 小 林 米 三 | 醫學博士、大阪帝國大學醫學部講師 |
|    | 隨員  | 中 井 俊 雄 | 日本棉花株式會社社員       |
|    |     |         | 阪神急行電鐵株式會社社員     |
|    |     |         | 東洋紡績株式會社社員       |

295 昭和10年3月12日 在米国齋藤大使より  
広田外務大臣宛

日米貿易を対中南米貿易も交え調整してゆく  
試みに關する日米間覺書の送付について

機密公第一三九號 (4月5日接受)

昭和十年三月十二日

在米

特命全權大使 齋藤 博(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

日米通商問題ニ關シ本使及國務長官ノ間ニ交換セル  
覺書「テキスト」送付ノ件

去ル二月十九日、米及中南米間通商調整問題ニ關シ本  
使國務長官「ハル」ト會談シ其際本使ヨリ本問題ニ關スル  
當方主張ヲ列舉セル覺書ヲ提出シ置キタル次第並其後三月  
十一日附ヲ以テ國務長官ヨリ右ニ對シ覺書ヲ以テ回答越シ  
タル次第ニ關シテハ夫々曩ニ電報ヲ以テ報告致シ置キタル  
處右當方及國務長官ノ覺書「テキスト」二部宛茲ニ送付ス  
ルニ付委細右ニ依リ御承知相成度

本信寫送付先 在米各領事及在中南米各公館長(附屬各

一部)

MEMORANDUM

1. During the year 1934, Japanese exports, the major portion of which was represented by cotton textiles to South and Central American countries, aggregated 104,000,000 yen. While thus the importance of those markets to Japan is increasing, there has occurred a trend in several countries in the area to limit the importation of Japanese goods or to abrogate commercial treaties with Japan for the purpose of attaining trade balance, as in the case of Peru, Colombia and Cuba.

2. Such policies of South and Central American countries are accounted for in view of the prevailing economic difficulties the world over, and the necessity of protecting the currency systems, the exchange rates, etc. of the respective countries. And the Japanese Government is endeavoring to meet the wishes of

those countries in so far as the circumstance permits. It is, in the meantime, thought possible that such attitudes of South and Central American countries toward Japanese imports have been influenced by the reciprocal agreements with the United States

or by the activities of American exporters. (The annexed newspaper report tends to strengthen such surmises.)

3. It is well understood that the reciprocal policy now adopted by the United States Government has not as its object an attack upon the trade of other countries. But, in point of fact, if Japanese exportation to South and Central American countries, notably of cotton textiles which constitute the main portion of it, were to become smaller, the natural result would be a diminution of the exportation of American raw cotton to Japan. Furthermore, a lessening in exportation of Japanese goods would, as a basic fact, bring about the impairment of the purchasing power of Japan

and the consequent depreciation of the exchange value of the yen, which would inevitably entail prejudicial effects upon the export trade of the United States.

4. It is the firm conviction of the Japanese Government that the attempt to balance the trade between any two given countries without any regard to the practical possibilities or difficulties would eventually cause the international trade to fall down and make the world's economic rehabilitation more than ever difficult of attainment. But, in view of the actual situation in which Japan is receiving insistent demands from countries with unfavorable balances of trade vis-à-vis Japan to arrange for an equilibrium of importation and exportation, Japan is placed in a position to request of the countries that enjoy favorable balances of trade vis-à-vis Japan to effect an increase in the importation of Japanese goods as a measure to meet the emergency of the case. With

this object in view Japan is actually carrying on negotiations with Australia, Canada and Germany, severally.

5. In the circumstances and in view of the present trend of the Japanese-American trade, Japan is in a position to request this country for an increase of Japanese exportation to the United States. Complaints are therefore expressed in various quarters as to the movements in the United States to stop or limit the importation to this country of such goods as rubber goods, electrical appliances, pencils, matches, fabrics and rugs of cotton, silk and rayon and so forth. Taking into consideration the present condition of the commerce between our two countries, the American trade relations with South and Central American countries and the financial position and influence of the United States, the Japanese Government is therefore wondering, as a means of coping with the situation, if there cannot be contrived some means

through which the Japanese-American trade and the Japanese-South-and-Central-American trade could be adjusted on the principle of the triangular trade.

6. It is confidently believed that the United States Government entertains the same desire as the Japanese Government to bring even closer the economic relations and to increase friendship and cordially between our two countries, as evidenced by repeated expressions of opinions by the United States Department of State on the subject of reciprocity and three-corner adjustment. The Japanese Government will therefore appreciate it greatly if the United States Government will kindly disclose its opinion on the point raised in the present memorandum.

#### MEMORANDUM

The memorandum given by the Ambassador to the Secretary of State on February 19, 1935, which

touched upon various aspects of Japanese-American trade relations has been given careful consideration, and the following observations are offered in regard to the points therein raised:

(1) This Government gladly reiterates that it shares fully the desire of the Japanese Government set forth in the memorandum to bring even closer the economic relations and to increase friendship and cordiality between our two countries. It believes that the principles upon which it is conducting its international commercial policies should serve that end by helping to initiate governmental action on the part of many countries which will permit a greater interchange of goods than at present.

(2) The negotiations in which it is engaged and those which it has in prospect are aimed to serve that purpose. To the greatest extent compatible with the purpose of developing trade and the

reasonable protection of its own industry, the American Government plans to generalize such concessions as it may make in these agreements, except to countries whose treatment of American trade may be deemed discriminatory and inequitable.

Whether or not any foreign government making concessions sought by the United States likewise extends these concessions to other countries is of course a matter for determination by that government. However, this occasion may be taken to state unequivocally that except in the case of Cuba, whose trade relations with this country have long been recognized as of a distinct order, this Government is in no way seeking and in no way encouraging exclusive or preferential concessions. On the contrary, it has been using every opportunity to try to combat the tendencies to which the Japanese Government calls attention.

(3) Consonant with this policy it has abstained from various trade arrangements which other governments have sought to make with it which provided for the direct interchange of goods through ways which while not perhaps violating the letter of treaties, would actually create somewhat preferential situations. In its avoidance of such agreements and of the various types of trade restrictions that have been adopted by many of the large trading countries of the world, it has sought to give evidence of its sincerity of purpose and its hope that other governments would likewise abstain from these practices.

(4) It agrees with the observations of the Japanese Government in regard to the maintenance of triangular trade. The advantages of such trade are apparent in the circle of commerce between Japan, the United States, and South and Central America, as described in the memorandum. Similar benefits are seen in

that triangular trade which exists between Japan, the United States, and various countries in the Pacific area, as, for example, British Malaya and Netherlands India, wherein American purchases create a fund of exchange which helps to pay for purchases from other countries, including Japan.

This triangular trade rests on arrangements made by the traders themselves within the circle of trade opportunity which American policy is calculated to increase and not decrease. It is not perceived how this triangular movement of trade could be organized by governmental agreement in conformity with the suggestion made at the end of the paragraph numbered five of the Japanese memorandum. It is the judgment of the American Government that any such attempt would probably have to include all the areas in which Japanese and American interests are affected by indirect trade relations and would involve what appear to be virtually insuperable difficulties of

method.

(5) It is the wish of the United States Government to lessen rather than to increase restrictions on the entry of foreign goods to the American markets. But it will of course be realized that this Government cannot be unmindful of the serious state of depression still prevalent in American industry nor of the effects upon the domestic recovery program of large and sudden increases in the imports of specific foreign commodities. It has occasionally been found necessary therefore to take steps under the provisions of existing legislation to seek certain safeguards against the destructive impact of suddenly increased imports. The Japanese memorandum cites certain instances of efforts to invoke such safeguards. The fact that action has been taken in but a few instances of relatively slight importance indicates the will and strong wish of this Government not to put any new obstacles in the way of trade between our two countries but rather the

contrary.

In these few instances this Government has sought to cooperate with the Japanese Government in informal voluntary action instead of resorting to formal restrictive action under legislation; and the limitations proposed have been designed to stabilize imports from Japan and not to reduce them.

(6) In all matters affecting the trade between the two countries this Government will be fully disposed at all times to seek a mutually beneficial solution by thorough and candid discussion.

Cordell Hull

Department of State,

Washington, March 11, 1935.

~~~~~

296

昭和10年3月28日 在米國齋藤大使、在サンフランシスコ富井総領事、在ロサンゼルス堀領事他宛

訪伯使節米國經由の際の応答方針および米國極東經濟使節団応答方針送付について

通一機密合第四八三號

昭和拾年參月廿八日

外務大臣 廣田 弘毅

在米國特命全權大使 齋藤 博殿

在桑港總領事 富井 周殿

在「ロスアンゼルス」領事 堀 公一殿

在「シアトル」領事 内山 清殿

在「ニューオルレアンス」領事代理 佐藤 由己殿

在「ホノルル」總領事 田村 貞治郎殿

在紐育總領事 澤田 廉三殿

在「ポートランド」領事 中村 豐一殿

在「シカゴ」領事代理 仲内 憲治殿

在紐育商務書記官 井上 豐次殿

訪伯使節米國經由ノ際ノ應答方針及米國極東經濟視察

團應答方針送付ノ件

三月末往電ヲ以テ申進置タル「訪伯使節米國經由ノ際ノ應答方針」及「米國極東經濟視察團應答方針」^(附)各一部玆ニ送付ス

本信送付先 在米大使、在米各總領事及領事、商務書記官

トハ重大ナル問題ナルノミナラス現ニ日米貿易ハ我方カ年々三億圓程度(一九三四年ハ三億七千萬圓)ノ入超トナリ居リ從テ假ニ日本カ近時各國ノ例ニ倣ヒ貿易均衡主義ニ立脚シ物々交換等ノ措置ニ出ツトセハ米國ハ尙多額ノ邦品ヲ購入セサルヘカラサル次第ナルヲ以テカカル顯著ナル片貿易狀態ノ下ニ於テ米國側カ邦品輸入ニ付云々スルハ寔ニ本末顛倒ナリ吾人ハ米國有識者カ日本品ノ輸入制限措置方ニ關スル議論ヲ聞カレタルトキハ前記我國ノ地位ト兩國間貿易ノ現狀ニ目ヲ蔽ハレサランコトヲ希望スルト共ニ本邦側カ多額ノ棉花ヲ買付ケ居ルニ應シ米國ニ於テモ今一層本邦生糸ノ輸入増加ヲ考慮セラルヘキヲ切望ス

三 本邦品ノ中南米市場進出

米國當業者筋ニ於テハ中南米市場ニ對スル本邦綿布及雜貨ノ輸出増進ヲ以テ米國ノ中南米輸出貿易ニ惡影響ヲ與フルモノトシテ危惧シ居ル趣ナル處萬一右地方ニ對スル本邦輸出阻止セラルルニ至ランカ本邦購買力就中米棉ノ買付ニモ影響シ延ヒテハ米國ノ對本邦輸出モ自然惡影響ヲ受クヘキコト明瞭ナリ而シテ一九三四年ニ於

(別 添)

訪伯經濟使節ノ米國通過中ニ於ケル應答方針

一 伯國棉花買付問題

從來本邦側ノ伯國棉花輸入ハ殆ド絶無ト云フモ過言ニ非ズ昭和九年ニ於テ始メテ米棉百七十三萬俵ニ對シ伯國棉七千八百俵ヲ買付ケ居ルニ過キササル狀態ナルヲ以テ假令多少伯國棉ノ買付ヲ増進シタリトスルモ米棉ノ買付ニ實質的影響ヲ與フルモノニ非ス

ニ 米國當業者中ニハ日本品ノ進出ニ關シ諸種ノ杞憂ヲ抱キ之カ輸入阻止運動ヲ試ムル者尠カラズ之カ爲曩ニ鉛筆及「ラグラグ」ニ關シテハ本邦側ニ於テ自制的ニ輸出數量ヲ制限スルコトナリ又現ニ鮪、燐寸、陶磁器、麥帽眞田、消ゴムニ關シ米國側ニ於テ輸入制限云々セラレ居ル處抑モ本邦ハ國土狹少資源皆無ナルヲ以テ其包攬スル多數ノ人口ヲ養フカ爲ニハ外國貿易ニ依ルノ外適當ノ道ナク米國ノ如キ廣大ナル土地ト無限ノ資源ヲ有シ産業モ九割迄ハ國內市場ヲ目標トナシ居ル國柄ト異リ貿易ハ實ニ國民生活ノ生命線ナルヲ以テ本邦輸出カ障礙ヲ受クルコ

ケル米國ノ「ラテン、アメリカ」諸國ヘノ輸出總額ハ約二億一千六百萬弗ニシテ一九三三年ヨリモ増加シ居リ本邦ヨリノ一九三四年ニ於ケル「ラテン、アメリカ」諸國ヘノ輸出總額ハ約三千萬弗ニ過ギズシテ米國ノ分ニ對シ僅ニ二割三分強ニ過キス吾人ハ米國當業者團體ニ於テ右相互關係ヲ認識セハ必スヤ中南米市場ヨリ邦品ヲ驅逐セントスルカ如キ論ニ耳ヲ藉スコトナカルヘキヲ確信ス

四 米滿貿易

滿洲國獨立以來同國ニ對スル米國輸出ハ左ノ如ク年々非常ノ躍進ヲ見ツツアリ

一九三二	二〇、〇六七、六〇四	國幣圓
一九三三	二六、六六二、七六八	〃
一九三四	三六、三三七、〇六六	〃

然ルニ由來滿洲國市場ニ對シテハ機會均等主義ニ關シ「センセイシヨナル」ノ議論報導セラルル傾向アルモ世界經濟の不況ノ深刻ナル今日ニ於テサハ滿洲國ハ關稅ニ付最惠國待遇ヲ列國ニ供與シ又關稅率モ高カラス且何等差別的輸入制限等ヲ實行シ居ラサル有様ニシテ斯ノ如キ公平且自由ナル貿易政策ヲ採用セル國家ハ東西國多シト

雖モ現在其例ヲ求ムルコト困難ナルヘク右ヲ「ホーレー」、スムート、アクト」以來ノ米國關稅政策ニ比スレハ蓋シ思半ニ過クルモノアルヘシ

五、米支貿易

米國及本邦ノ對支輸出額ヲ比較セバ左ノ如シ（單位國幣弗）

米ヨリ輸出 日ヨリ輸出

一九三二 四九、三五五（前半年ハ滿洲國ヲ含ム） 二三、二五五

一九三三 二九、四六八 二三、三〇九

一九三四 二七、七三三 二六、八八六

從來本邦ハ其對支輸出ニ於テ米國ヲ凌駕シ居タルモ一九三一―二年頃ヲ轉機トシテ本邦ノ對支輸出ハ下リ坂トナル一方米國ノ躍進目覺マシク最近ニ於テハ終ニ本邦輸出ハ米國ノ約二分ノ一トナレリ

故ニ若シ米國力中南米市場ニ對スル邦品ノ進出ヲ云々シ得トセハ極東市場ニ對スル米國輸出貿易ノ進展ニ關シ我方ニ於テモ當然之ヲ論議シ差支ナキ次第ナルモ本邦朝野ハ抑モ貿易ノ消長ハ經濟原則ニ伴フ自然ノ成行ニ從フヲ以テ本筋ナリト確信シ居ルカ爲此種言辭ヲ弄スルヲ潔ト

議員間ノ談話ニ關スル件

在「カイロ」商業會議所ニテハ去ル廿七日遣英經濟使節一行ノ送別茶話會ヲ開催セル処會議所議員ノ外大藏商工當局者モ多數出席シ盛會ヲ極メタルカ其ノ席上「ハーフズ、アフィフイ、パシヤ」ハ「使節ノ使命ハ英埃間ノ相互貿易發展ニ在リ之ニ對スル會議所員ノ意見ハ使節一行ニトリ多大ノ參考トナルヘキニ付腹藏ナク各自ノ意見ヲ述ヘラレタシト挨拶セリ仍テ商人達ハ各自ノ立場ヨリ夫々意見ヲ開陳シ且質問セルカ「ハーフズ、パシヤ」ノ之ニ對スル應答左ノ如シ

(一)「ハマウイ」（邦品取扱）

問、倫敦ニ埃及產品ノ恆久的陳列館ヲ設置セラレ必要ニ應シ他國ヘモ移動スルコトトシ埃及產品ノ紹介ニ努ムル様セラレタシ

答、貴見ニ全ク賛成ニシテ一行ト共ニ研究スヘシ

(二)「サービト、サービト」（埃及產品ノ輸出ト共ニ肥料農具等ノ輸入ヲナス）

問、埃及產品力英本國ノミナラス其ノ植民地ニモ充分及フ様セラレタシ

セス

註、二月初旬ニ於ケル對滿支爲替相場左ノ如シ

一、滿洲國

一〇〇國幣圓ニ對シ邦貨二三圓

一、支那

一〇〇國幣弗ニ對シ邦貨三五圓

297

昭和十年四月一日 在アレキサンドリア天城（篤治總領事より
広田外務大臣宛

エジプトからの遣英經濟使節送別会において
同使節の目的および対我が方貿易への影響等
につき聴取について

公機密第一八三號 （4月25日接受）

昭和十年四月一日

在アレキサンドリア

外務大臣 廣田 弘毅殿

總領事 天城 篤治（印）

「カイロ」商業會議所主催ノ遣英經濟使節送別茶話會席上ニ於ケル「ハーフズ、アフィフイ、パシヤ」ト同

答、本問題ハ當然英當局トノ交渉ノ議題トナルヘキモノニシテ英植民地中ニハ英本國ト全然別個ノ獨立セル組織下ニ在ルモノアルモ出來得ル限り努力致スヘシ

(三)「ジャン、ガドアン」

問、「パシヤ」ハ經濟使節ノ使命ハ埃及產品ノ英國内ニ於ケル販路擴張ニ在リト述ヘラレタルモ新聞等ニ依レハ埃及國內ニ英品ヲ普及セシムルモノナリト云フ説アリ如何

答、本問題ハ使命外ナリ唯タ英國商工當局側ヨリ埃及產品購入ノ代償トシテ英國品ヲモ充分購入セラレタシトノ要求ハアラン相互貿易發展ニ關シ考慮スルモ單ニ埃及國內ニ英品ヲ伸展セシムルカ否カハ英國工業家及其ノ代理店ノ業務ナリ

問、我等商人側ノ欲スル所ハ何レノ國ニモ特惠關稅ヲ與ヘサルコトニシテ政府ハ國內産業保護ノ爲ニ關稅引上ヲ爲スハ可ナルモ關稅自主權ヲ一外國ノ利益ノ爲ニ行使スルハ不可ニシテ關稅ハ輸入品全般ニ同等ニ課スヘキモノナリ

答、根本的的使命ニ付テハ既ニ述ヘタル通りニシテ且國產

ヲ害スルカ如キ何等ノ方法ヲモ採ラス此ノ點一行ト共ニ「タルアト、ハルブ、パシヤ」モ居ラル、ニ付安心アリタシ

(四)「アッパース、エル、リマリーイ」(邦品取扱)

英國政府ハ日本品壓迫ノ爲ニ英國品ニ對スル關稅引下ヲ爲サシメ得ルトノ說アリシモ唯今ノ「パシヤ」ノ言ニテ安心セリ

(五)「ハンナ、ロトフイ」(邦品取扱)

問、茲ニ二片ノ綿布アル処一ハ英品ニシテ碼當リ五片四分ノ三他ハ日本品ニシテ三片四分ノ三ナルカ其ノ強力ハ日本品ノ方大ナリ

答、精密ナル試験シタキニ付右綿布ヲ與ヘラレタシトテ全人ヨリ之ヲ受取りタリ

(六)「アブデル、アザーズ、ベイ、ラドワーン」

問、英國ハ現在埃及棉ノ最大顧客ナルカ日本ハ遅レ疾セ乍ラ第二ノ顧客トナレリ日本ノ紡績業ノ現狀ヨリ見テ埃及棉ノ最大顧客トナル日ノ近カラコトヲ考慮ニ容レラレタシ

答、本問題ニ付テハ充分考慮スヘキモ全様考慮セラレタ

日本製品の急速な米國進出が同國業者に不安を
与えている状況に鑑み兩國政府の協調により事態
悪化を防ぎたいとの國務省関係者の内話について

ワシントン 4月12日後発

本省 4月12日後着

第一八七號(極秘)

十一日國務省ノ求ニ應シ往訪シタル處「セーヤー」ヲモ同席セシメタル上一日ヲ爭フ問題ニモアラス又新聞紙等ノ揣摩臆說モ煩ハシキヲ以テ常例ノ會見日ナル本日態々御出ヲ煩ハシタル次第ナリト前提シタル上米國ノ通商大方針ハ既ニ再三申述ヘタル通り列國ノ狹隘ナル經濟的國家主義ヲ廢シ通商ノ障礙ヲ低下セシメントスルニアリトテ往電第九七號ノ趣旨ヲ詳細繰返ヘシタル後實ハ今朝モ佛國大使及瑞西公使ニ對シテ同様ノ説明ヲ爲シ其ノ協力ヲ求メタル次第ニテ歐洲ノ或ル諸國カ現ニ執リツツアルカ如キ經濟的國家主義カ萬一世界ニ波及スルニ至ラハ餘剩生産力ヲ有スル諸國ハ非常ナル困難ニ陷ルノミナラス世界經濟ハ之カ爲甚大ナル不利益ヲ蒙ルニ至ルヘシ幸ニシテ日米兩國ハ何レモ餘剩生産力ヲ有スル國ナルモ根本的ニ見テ兩國間ニ通商上困難

キハ日本ハ棉花栽培ノ爲ニ「アルゼンチン」「ペルー」及「エテイオピア」等ニ廣大ナル土地ヲ求メ、商況ノ如何ニ依リテハ直ニ埃及棉ニ代フルニ之等諸國棉ヲ以テスヘキコトナリ故ニ交渉ニ當リテモ埃及棉ノ最大顧客ハ現在ニ於テハ英國ナルコトヲ念頭ニ置クヘシ

右送別會席上ノ應答ハ大体前述ノ通りナルカ使節一行ノ渡英前日隨員タル商工局關稅課長「アハメッド、セリーム」ヨリ本官ニ對シ「Japan's Advance 寄贈方依頼アリタルヲ以テ全書並ニ The Secret of Japan's Trade Expansion 三部及 Japan Today & Tomorrow 1934ヲ交付ノ序ニ田村書記生ヨリ前記内ノ答ヘ中「ハーフズ、アフィフイ、パシヤ」ノ所說ノ誤謬ヲ指摘シ正鵠ナル觀察判斷ヲ下サレンコトヲ希望シ置ケリ

右御參考迄ニ報告申進ム

本信寫送付先

在英大使

298

昭和10年4月12日 在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

ナル問題ナキノミナラス日本ハ米國生産品ノ顧客トシテ重要ナル地位ヲ占メ居リ米國ノ根本義トスル通商ノ自由ニ關シ最モ容易ニ協力シ得ル國柄ナレハ此ノ上共相携ヘテ國際貿易ノ改善ヲ計リ度シト存ス

唯最近日本ノ異常ナル貿易ノ進出ハ時ニ危惧不安ノ念ヲ招來シ當國務省モ頻リニ陳情ヲ受ケタルノミナラス議會等ニ於ケル運動等トモナリ居ルニ鑑ミ早キニ及ンテ然ルヘク手段ヲ講スルニ非サレハ不測ノ難局ヲ招クノ惧アルヲ以テ是等ノ點ニ付全然虚心坦懷ニ御相談ヲ遂ケ度キ所存ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ經濟國家主義カ國際貿易ニ累ヲ及ホス事ハ日本政府トシテモ全然同感ニシテ列國トノ交渉ニ當リ常ニ其ノ點ヲ強調シツツアル次第ナルカ先日貴長官ヨリ本使ニモ協力セヨトノ御話アリタルヲ以テ最近兩三所ニ於テ右趣旨ノ講演ヲ爲シタルコトハ御承知ノ事ト存セラル此ノ點ニ付日本政府カ協力ヲ惜マサル事ハ極メテ當然ナルモ日本側ヨリ言ヘハ寧ろ貴國ニ對シ協力ヲ求メサル可カラサリシ機會アリタル事御承知ノ通

現ニ綿布ノ問題ニ付米國ニハ相當「アジテイション」アル様ナルモ日本ノ昨今ノ輸入額ハ僅ニ米國生産額ノ一厘一毛

ニ過キス然ルニ之カ問題トサルル事ハ日本カ米國棉ノ最大ノ顧客ナル點及日本ノ對米貿易カ甚シク日本ニ不利ナル片貿易トナリツツアル現狀ニ顧ミルモ日本側ノ納得シ得サル處ナリト述ヘタル處長官ハ夫等ノ點ハ充分承知致シ居ルモ今日自分等カ全力ヲ擧ケテ通商自由ノ原則ヲ出來得ル限り確立セントシツツアル矢先危惧ヲ生シ來レル製造業者等ヨリ非常ナル壓迫ヲ受ケ居ル次第ニテ右ハ努メテ排撃シツツ進ミ居ルモサレバトテ總テヲ排撃セントセハ却テ議會等ニ於ケル「ロツビイニング」盛トナリ豫見セサル急激ナル事態ノ惡化ヲ見ルヤモ計ラレス差當リ日本ニ協力ヲ御願シタキハ右ノ點ニシテ其ノ細目ニ付テハ「セ」ヨリ御聽キ相成度シト述ヘタリ

依テ「セ」ノ部屋ニ引取り更ニ「ドーマン」ヲ加ヘテ話ヲ進メタルカ「セ」ハ今國務長官ノ言ハレタル細目ノ點トハ左ノ三種ノ問題ナリトテ

(一)比島ニ於ケル日本綿布ノ進出ニ關シ最近ノ模様ニテハ略同島輸入綿布ノ半額ハ日本品ノ占ムル所トナリ居リ從テ來ル七月開會ノ筈ナル同島議會ニテ問題ヲ生スルノ氣配アルコト

(二)米國ニ對スル日本ノ陶磁器ニ付テハ最近産業復興法第三條(項)ノ調査報告提出サルル筈ナルカ未タ極秘ナルモ右報告中ニハ一方日本側ニ於テ値段鈞上策ヲ採リタルカ爲大イニ事態ノ緩和セラレタルコトヲ述ヘ居ル點ハ誠ニ好都合ナルモ他方關稅法第三三六條ニ依ル生産費ノ少キコトヲ理由トシテ關稅引上ノ要アルコトヲ述ヘ居ル點ハ懸念ニ堪ヘサル次第ナルコト

日本製日除ケ眼鏡輸入最近俄ニ増加シ問題ヲ起シツツアルコト

ヲ擧ケ是等ノ問題ニ付日米通商關係ノ根本並ニ國務長官ノ繰返シ述ヘタル米國ノ大方針ヨリ觀テ素ヨリ制限等ノ問題ヲ御相談スヘキ筋合ニ非サルモ何分「ロウビースト」ノ運動等熾烈ニシテ濫リニ角ヲ矯メントスレハ牛ヲ殺スノ惧アリ實ハ客年中モ米國ニハ何等鯨油ノ產出無キニ拘ラス油關係「ロウビースト」ノ運動ニ依リ諸威ヨリ輸入サルル鯨油ニ對シ高率關稅ヲ課スルコトナリ夫レカ爲鯨油(脱?)杜絶セラレ諸威トノ間ニ外交的紛糾ヲ來シタルカ而モ右ニ依リ米國側ニ於テ何等ノ實益ヲ得サリシ爲目下右關稅ノ低下ニ苦心シ居ルカ如キ先例モアリ日本ニ關スル右ノ諸問題

モ充分ノ注意ヲ以テ豫防的處理ヲ必要ト感スル次第ナルニ付以上ノ點ニ對シ充分同情的考慮ヲ加ヘラレタル上善處ノ策ニ付御相談致度心組ナリト述ヘタリ

尙「ドウマン」ハ昨今問題トナリ居ル綿布ノ米國輸入ニ付テモ其ノ數量ハ眞ニ貴說ノ如ク全體ヨリ觀レハ米國產額ノ一厘一毛ニ過キサルモ或ル特別ノ製品即チ「ハンカチ」用裂地ノ如キハ米國產額ノ六分ニ達シ居ル事該製造業者ニ於テ恐怖ヲ感シ他種類ノ綿布製造業者ハ日本ニ危險ヲ感シ居ル次第ニハ非サルモ之ニ附和雷同シツツアル實情ナリト説明ヲ加ヘ「セ」ハ要スルニ日本品ノ米國進出ハ其ノ數量價格ニ於テ左程多額ニ上リ居ル譯ニハ非サルモ輸入増加カ急激ニ進ミタル事カ各方面ニ恐怖心ヲ醸シツツアル次第ナレハ其ノ邊ノ考慮ヲ加ヘツツ打解ケテ御相談スルニ於テハ日本側ノ協調ニ依リ米國政府ノ立場ヲ救フノ途ヲ發見シ得ヘキカト考ヘ居ル旨申述ヘタリ

本使ハ之ニ對シ御趣旨ハ充分ニ之ヲ諒トスルモ日本政府ニ於テモ本問題ニ付同シク製造業者等ノ陳情ヲ受ケ居リ困難ノ立場ニアルコトハ充分同情的御諒解ヲ望マサルヲ得サル次第ニテ過去ノ虛心坦懷ナル兩國政府間ノ話合ニ依リ種々

ナル經濟問題ノ解決サレシ事實ニモ鑑ミ右日本政府ノ苦境ヲモ考慮ニ入レツツ何等カ兩國側ニ満足ナル解決ノ途ヲ發見シ得ルコト切望ニ堪ヘス就テハ適宜館員及商務官ヲシテ御相談致サシムル様外務大臣ノ許可ヲ仰クコトトスヘシトノ趣旨ニテ應酬シ置ケリ尙右會見直前ニ貴電第九四號ヲ接受セルヲ以テ國務長官及「セ」トノ關係ニ付充分ノ考慮ヲ拂ハレ度キコトヲ依頼スルト共ニ更ニ此ノ點ニ付館員ト「セ」トノ間ニ話ヲ進ムルコトヲ約シ置キタリ

紐育ヘ暗送セリ

299

昭和10年4月12日

在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

米國へのサングラスおよびフィリピンへの綿
布の我が方よりの輸出急増に関する我が方意
向につき國務省極東部より照会について

第一八九號(極秘)
往電第一八七號ニ關シ

ワシントン 4月12日後發
本 省 4月13日後着

本十二日「ドーマン」ヨリ求アリタル處昨日本使ト「セヤ」トノ會談ニ關シ具體的ノ御話ヲシ度シト前置シ日米通商ノ大勢ニ鑑ミ米國政府トシテハ日本品ノ輸入ヲ特ニ防遏スル意思ハ毛頭ナキ次第ナルモ日本品ノ輸入力當業者ヲ刺戟シ其ノ不平ヲ惹起スルハ

(一)日本品ノ輸入力兎角急激ニ増加スルコト
(二)日本品ノ價格力餘リニ低キニ過キルコト

ノ二點ナリトテ前記往電「セヤ」ノ所説ト同様ノコトヲ繰返シ其ノ最近ノ實例トシテ綿布ノ如キモ數字トシテハ極メテ少額ニ過キサルモ其ノ増加率力急激ナルコト及價格ノ懸隔力甚タシキ爲當業者ノ危惧ヲ招キ不當ニ輿論ヲ刺戟シ邦品抑制運動ヲ助長スル傾アリト説明シ次ニ冒頭往電後段ニ略述セル日除眼鏡及比島ニ對スル綿布輸入ノ問題ニ入り
(一)日除眼鏡ノ如キハ價格トシテハ極メテ僅少ニテ問題トスルニ足ラサルモ本品ノ本邦ヨリノ輸入ハ一九三一年ニハ僅カニ四十八「グロス」ニ過キサリシニ年々躍進シ一九三二年ニハ八千「グロス」ヲ超エ昨一九三四年ニハ約二萬「グロス」ニ激増シ國內當業者ノ不安ヲ惹起セルニ付早キニ及ンテ對策ヲ講スル要アリ

エジプト商業會議所が遣英經濟使節に提示した同国の対英貿易問題に関する覚書の内容につき同會議所関係者より聴取について

公機密第二一二號

(5月10日接受)

昭和十年四月十五日

在アレキサンドリア

總領事 天城 篤治(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

當地埃及商業會議所ノ遣英經濟使節ニ送付セル覺書ニ關スル件

遣英經濟使節ノ渡英ニ先チ同使節團長「ハーフズ、パシヤ」ヨリ當地商業會議所會頭「エヒヤ、パシヤ」ニ對シ英埃通商關係ニ付商業會議所トシテノ意見ヲ訊シタルカ會頭ハ書面ヲ以テ回答スルコトトシタル旨新聞紙ニ報セラレ居タリ仍テ本官ハ田村書記生ヲシテ豫テヨリ連絡アル同會議所書記ニシテ「アル、バラグ」紙「アレキサンドリヤ」通信員ヲ兼ヌル「イブラヒム、ゴホリ」二本問題ニ付尋ネシメタルニ同覺書ハ總テ同人之ヲ起草シ會議所評議員會ヲ經テ「エヒヤ、パシヤ」署名ノ上同會議所ノ意見トシ

右ニ付米國側トシテハ年一万五千「グロス」ヲ限度トシタク且一九三四年ノ輸入品ハ未タ消化シ切レス相當ノ在庫品アルニ付一九三四年八月一日以降本年七月迄ノ數量ヲ不取敢前記限度ニ止メタク此ノ點ニ關シ至急本邦側ノ意嚮ヲ承知シタシ

(二)比島へ輸入セラルル綿布總量中約九十三、四%ハ日米兩國ヨリノ輸入ニシテ一九三四年度ニハ日本約五十二、米國約四十%ナル處日米兩國ヨリノ輸入量ヲ大体半々ニシタシ比島へノ邦品輸入モ前記ノ實例ニ漏レス最近急激ニ増加シ其ノ價格モ亦著シク低廉ナル爲米國當業者トシテハ不安ニ堪ヘス漸次邦品輸入防遏ノ運動旺盛トナル惧アルニ付是亦速ニ輸入量ヲ協定シ當業者ノ策動ヲ豫防スル必要アリ此ノ點ニ付テモ本邦側大体ノ意嚮ヲ成ルヘク速ニ承知シタシト述ヘタリ

右ニ點先方ニ對スル回答振リ至急御回電アリタシ
紐育へ暗送セリ

300

昭和十年4月15日

在アレキサンドリア天城總領事より
広田外務大臣宛

テ使節一行ニ發送セラレシモノニシテ其ノ内容ノ主ナル点ハ

(一)英埃通商關係ニ關シテハ埃及ハ既ニ十分英國品ヲ購入シ居リ是レ以上ノ購入ハ困難ニシテ英國ハ埃及ニ於テ貿易以外ノ多大ノ利益ヲ享有シ居レリ

(二)日埃通商關係ニ付テハ日本ハ棉花其他ノ埃及産品購入ニ努力シ居リ今や埃及棉ニ取リテハ英國ニ次ク第二ノ市場トナリ來レルカ猶ホ埃及ハ輸入超過ナルニ依リ速力ニ日埃貿易ノ均衡ニ努力セサル可ラス

等ナルカ右覺書ハ當分公表セラレサル由ニシテ現在迄之カ内容ニ付述ヘタル新聞紙ナカリシ處十五日附「アハラーム」紙ハ「ア」支局十四日發トシテ本覺書ノ内容トシテ左ノ如ク報シタリ

(一)埃及産品殊ニ棉花ノ新市場ヲ求ムルコトカ埃及ノ利益ニシテ或ル國々ノ埃及棉購入増加ヲ見ツ、アルニ不拘之等ノ國々トノ交易ヲ阻碍スルカ如キ英國品輸入増加ハ埃及ノ利益トナラサルヘシ

(二)英國カ埃及ノ對英輸出超過ヲ以テ埃及カ利益ヲ得ツ、アリト云フナラハ英國ノ埃及ニ於ケル一般經濟關係ヲモ考

慮セサル可ラス即チ昨年度ノ英國ノ埃及ヨリノ輸入超過ハ約三百萬磅ナルカ英國カ埃及ニ於テ独占の利益ヲ收メ居ル英國ノ船舶保險會社銀行其他ノ大企業ノ收益及英國カ無競争ニテ輸出スル埃及政府ノ購入品等ヲモ考慮スルノ要アリ

(三)埃及カ外國ニ於テ自國產品ノ新販路ヲ開ク爲經濟的ニ強力ヲ行使シ得サル限り英埃間ノ貿易均衡制度ハ當ヲ得ス云々

右不取敢報告申進ム

本信寫送付先 在英大使

301

昭和10年4月24日

広田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

對フィリピン綿布輸出問題についてはフィリピン當局が綿布関税を増徴せぬことを条件に過去の我が方実績に基づき自制に應じる方針について

本省 4月24日発

第一一三號

往電第一〇六號ニ關シ

本電及關係貴電マニラへ轉電アリ度シ

紐育へ暗送アリ度シ

302

昭和10年4月24日

在アレキサンドリア天城總領事より
広田外務大臣宛

エジプトにおいて我が方商品に対する差別的待遇不実施に向けての同地商業會議所会頭の協力について

公機密第二三〇號

(5月17日接受)

昭和十年四月二十四日

在アレキサンドリア

總領事 天城 篤治(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

當地埃及商業會議所ノ遣英經濟使節ニ送付セル覺書ニ關シ追報ノ件

本件覺書ニ關シテハ本月十五日附公機密第二一二號ヲ以テ報告ニ及ヘル処今般右覺書「テキスト」ヲ極秘ニ寫取リタルニ付右御參考ノ爲送付ス(別紙甲號)本件ニ關シテハ曩ニ當地商業會議所ニ於テ本件覺書準備中ノ旨聞込ミタル際

「客年本邦綿布ノ對比輸出數量カ米品ヲ凌駕セルハ事實ナルモ他面日米貿易ニ於テ本邦カ莫大ナル入超過關係ナルニ鑑ミ此ノ種利己的申出ヲ直ニ應諾スルハ面白カラサル儀ナルニ付一應日本綿布ノ對比輸出ニ文句ヲ挾マサル様申入相成度シ

「去リ乍ラ米國政府カ飽ク迄日米綿布ノ對比輸出ヲ大体半タトスルコトヲ主張シ前項我方ノ提案ニ同意セサル場合ハ

(イ)綿布ニ對スル比島關稅ヲ増徴セサルコトヲ絕對條件トスルコト

(ロ)日米間ノ比率ニ依ラス一九三四年ニ於ケル本邦綿布ノ比島輸入実績ヲ基礎トシ毎年本邦側ニ於テ輸出數量ヲ自制スルコト

(ハ)右ハ今後大体二ケ年ノ期間トスルコト

(ニ)右綿布ハ品種別トセス又輸出ニハ期別ヲ設ケサルコトニテ御交渉相成差支ナシ

「尙米國側ノ割當數量ニ對スル統制實行ノ可能性ニ付本邦當業者トシテモ疑念ヲ抱ケルモノアルニ付此ノ點米國政府ニ御確メアリ度シ

本官ヨリ同商業會議所會頭「エヒヤ、パシヤ」ニ對シ英埃會商ノ結果日本品ニ對スル差別待遇ヲ爲スカキコトナキヲ要スル旨話シ置キタルカ本件覺書ヲ見ルニ大体前記往信報告ノ通りニシテ努メテ日本側ヲ擁護シ居リ「英國ノ埃及品輸入九百九十万埃及磅埃及ノ英品輸入六百四十万埃及磅ニシテ英國側ハ約三百五十万埃及磅ノ輸入超過ナルモ英國側ハ貿易ノ外種々ノ受取勘定ヲ有ス仮ニ埃及カ此際英國ノ利益ノ爲何等カノ措置ヲ執ルトシテモ日本ノ埃及棉購入力増加シツ、アリ日本カ埃及棉ノ重要市場タルノ事實ヲ忘却セサルコトヲ要ス從テ埃及棉ノ販路ヲ害スルノ虞アル措置ハ執ルヘキニ非ス但シ此ノ際日本ヲシテ埃及棉購入ニ更ニ努力セシムルハ可ナリ又日本品ノ輸入ハ埃及ニ於ケル生活費ヲ低減セルノ利益アリ云々」トノ趣旨ヲ述ヘ居レリ

委細ハ別添覺書ニ付御査閲相成度尙本件覺書ハ極秘ニ御取扱相成度

追テ「エヒヤ、パシヤ」ノ棉花會社(Egyptian Produce Company)ノ支配人本官ヲ來訪シ「日本ニ於テハ「エヒヤ、パシヤ」カ綿布關稅引上運動ヲ爲シ居ル旨ノ噂ア

ル趣ナルカ「パシヤ」從來ノ綿布關稅引上反對ノ運動ニ鑑ミ遺憾ニ堪ヘス」ト申出テタリ「パシヤ」カ從來日本側擁護ノ手段ヲ講シ吳レタルコトハ既ニ報告ノ通りニシテ又本件覺書ニ徴スルモ前記噂ノ無根ナルヲ知ルヘシ若シ斯ル噂カ流布セラレ居ルトスレハ或ハ「エヒヤ」ノ商敵ノ作爲ニ出ツルモノカト存スルカ斯ル噂ヲ以テ「エヒヤ」從來ノ日本側擁護ノ努力ニ報ユルコトアラハ日埃貿易ノ大局上不利ト思考セラル本件ニ關シテハ「エヒヤ」ヨリ阿部日埃貿易協會長ニ宛テ別紙乙號^(電報)ノ通り申送リタル由ニ付阿部氏ヨリ「エヒヤ、パシヤ」ニ對シ「パシヤ」ノ努力ヲ感謝シ居ル旨適宜返書シ然ルヘシト思考ス

本信寫送付先

在英大使

303

昭和10年5月2日 広田外務大臣より
在ブラジル沢田大使宛(電報)

ブラジルに対する通商擁護法発動説について

本省 5月7日後7時15分発

第六五號

一日伯國大使亞米利加局長ヲ來訪シ伯國新聞ニ日本外務省ノ通商審議會ハ對外通商上通商擁護法ヲ發動セシメント考量中ニテ若シ右カ實施セラルルトセハ南米ノ一部殊ニ伯國ハ之カ適用ヲ受クヘシトノ報道掲載セラレタル趣ヲ以テ本國政府ヨリ目下日本政府カ經濟使節ヲ派遣シツ、アル折カラ斯ル政策ニ出ズルコトハ了解ニ苦シムニ付真相ヲ取調ブル様電訓アリタル趣申出タルニ付亞米利加局長ヨリ本邦ニ於テハ目下巨額ノ入超國ニ對シ通商擁護法ノ適用方研究中ナルモ南米諸國殊ニ伯國ニ對シテハ右様ノ問題生シタルコトナシ寧ろ經濟使節迄モ派遣シテ相互通商關係ノ増進ニ努メツ、アル際ニテモアレバ右報道ハ全然無根ナル旨説明シ置キタルカ我方ニ於テハ右説明ノ如ク過大ノ入超國ニシテ邦品ニ對シ過酷ノ取扱ヲ爲ス向ニハ通商擁護法ニ基キ適當ノ措置方考究中ナルモ伯國產物ニ對シテハ目下ノ處何等抑壓の措置ニ出ツル考ヲ有セサル次第ニ付適宜右報道ヲ是正相成度

尙右貴地ニ於ケル報道振電報アリタシ

「サンパウロ」へ轉電アリタシ

304

昭和10年5月2日 広田外務大臣より
在滿州国南大使宛

タイ米の對滿州国輸入につき同國側の意向聴

取方訓令

亞一機密第四三三號

昭和十年五月二日

外務大臣 廣田 弘毅

在滿洲國

特命全權大使 南 次郎殿

暹羅米ノ對滿輸入ニ關スル件

一、從來我方ノ暹羅國トノ貿易ハ年額輸出入各々二千萬圓内外ニテ均衡ヲ保チ居リシ次第ナル處近時輸出ハ増加ノ傾向アルニ反シ輸入ハ本邦米穀政策ノ關係上昭和八年末農林省ニ於テ暹羅米ノ輸入ニ對シ禁止的制限ヲ加フルニ至リタル爲右制限後暹羅國ヨリノ本邦ニ對スル輸入ハ一擧ニシテ從來ノ約一割ニ激減スルニ至レリ(從來暹羅國ヨリ我國ニ對スル輸入ノ九割迄ハ米ナリシナリ)

二、暹羅國政府ハ我方ニ對シ累次解禁方ヲ強硬ニ要請シ來リ居ル處前記ノ如キ事態ハ最近急速ニ増進シツツアル日暹

親善關係ヲ阻害スルノ虞アル外暹羅國側ヲシテ通商上ノ報復的措置ニ出テシムルノ危險モアル次第ナリ(日暹間通商條約ハ本年末ヲ以テ一定ノ豫告期間ヲ附シ廢棄シ得ルコトナル)仍テ當方ニ於テハ農林省ニ對シ解禁方極力盡力シツツアル現狀ニテ遠カラス一部丈ケ解禁ノ目的ヲ達シ得ヘキヤニ認メラルモ右ハ從前ニ比シ余程少量ノ見込ニテ暹羅側ノ充分ナル満足ヲ得難カルヘシト思考セラル(本項ハ貴官限り極秘含ニ止メラレ度)

三、然ルニ過日東亞局係官他用ニテ在京暹羅國公使ヲ訪問セル際同公使ヨリ本件ニ言及シ進ンテ同公使限リノ思付ナルカト前置シタル上暹羅國人士間ニ於テハ滿洲國承認論アル處右ハ未タ充分ニ熟セス從テ實行ノ運ニハ至ラサルモ承認論ハ次第ニ其ノ力ヲ増スヘキヤニ認メラル一方滿洲國ハ相當量ノ外國米ヲ輸入スルモ暹羅國ヨリ輸入セララルモノハ殆ト皆無ナルヤニ承知スル處(別紙參照)滿洲國カ暹羅國ヨリ相當量ノ米ヲ輸入シ吳ル、ニ於テハ前記承認論ニ勢ヲ加フルコトナルヘシトノ趣旨ヲ述ヘタルニ付係官ハ在滿帝國大使館ニ於テ何等カ盡力ノ余地ナキニシモ非ルヘキヤニ思考スルニ付上局ニ經何ノ上御話

ノ趣旨ヲ自分ノ「サゼツシヨン」トシテ（即チ暹羅國公使ノ思付トセスシテ）在滿大使館ニ適當ノ方法ニ依リ「インフオーム」シ置クヘシト答ヘ置キタル趣ナリ

四、右暹羅國公使ノ「アイディア」ハ實行上種々ノ困難アルヘシトハ思考スルモ（例ヘハ滿洲國ニ對スル米ノ輸入ハ同國自身行フニ非スシテ一般輸入業者ノ行フ所ナルヘク從テ滿洲國カ前記暹羅公使ノ「アイディア」ニ賛成スルトスルモ直ニ實行ニ移スト云フ譯ニハ行カサルヘシト思考セラル又船便ノ都合等ノ關係モアリ矢張り香港中繼ヲ有利トスルヤモ知レサルヘシ）若シ我方ノ盡力ニ依リ滿洲國カ暹羅國ヨリ相當量ノ米ヲ輸入スルコトナレハ前記米問題ニ關スル我方ノ暹羅側ニ對スル立場ヲ緩和スルノ一助トナルヘク又其ノ結果暹羅國カ滿洲國ヲ承認スルコトトナレハ支那其ノ他少ク共東洋諸國諸地方ニ及ホス影響少ナカラサルヘシト思考セラル

五、就テハ本件カ仲々オイソレト運ハサルヘキコトハ充分承知シ居ルモ敍上ノ次第御含ノ上滿洲國側等ト話合ハレ實現出來得ルモノナラハ何トカ實現セシムル様御盡力相成様致度尙本件ハ前記ノ如ク仲々オイソレトハ運ハサルヘ

輸入ヲ含ミ居ルヘシ（尤モ香港ノ仲繼ニ依ルト暹羅國ヨリ直接輸入スルトニテハ其ノ暹羅側ニ與フル感シハ大イニ異ルヘシ）

(三)一九三四年バンコック外國貿易輸出（一銖ハ日本ノ一圓五十錢位）

米 九〇、二一六、七三六（銖）

チーク材 四、四四二、九五五（ㄱ）

チーク材以外ノ材木

ゴム

二九、八五一、〇八七（銖）

金地金

再輸出

其他

305 昭和10年5月4日 在ニューヨーク沢田總領事より 広田外務大臣宛（電報）

訪伯經濟使節團団長の米國滞在中の感想についで

ニューヨーク 5月4日後発
本省 5月5日前着

キモ自然暹羅公使ヨリ早晚成行問合等アルヤモ知レサルニ付滿洲國側等ト一應話合ハレタル結果ハ成ル可ク早目ニ御回報相成度

寫送付先 在暹公使

別紙通商局調査

(一)滿洲國へ暹羅ヨリノ輸入（單位滿洲國圓）

	一九三三年	一九三二年
米	暹ヨリ滿ヘ 滿ノ輸入全額 四〇七、八八九	暹ヨリ滿ヘ 滿ノ輸入全額 一、八六九、四六〇
チーク材	四三七五	一五、八八三
ゴム	一	一五、一三四
	九〇、九六二	三〇、七六八

(二)一九三三年滿洲國外國米輸入金額（單位滿洲國圓）

朝鮮ヨリ 一、七三七、〇〇〇圓
日本 六二八、〇〇〇〃
支那 六四七、〇〇〇〃
佛領印度支那 五二四、〇〇〇〃
香港 五一四、〇〇〇〃

右佛領印度支那及香港ヨリノ輸入ハ暹羅國ヨリノ輸入ニ代ヘ得ヘシ但シ香港等ヨリノ輸入ノ分ノ中ニハ暹羅米ノ仲繼

第一〇〇號

平生ヨリ

本使節團滯米中ノ感想左ノ通御參考迄

(一)出發前日本官民始メ我々一行モ米國ニ於テハ恐ラク險惡ナル空氣ヲ以テ迎ヘラルヘシト想像シ居リタル處團員手分けシテ南部地方ヲ始メ各方面ヲ視察シ夫々關係者ト懇談ヲ遂ケタルニ彼等ハ我々一行ノ使命ニ付テハ勿論相當ノ關心ヲ有スルモ之ヲ妨害スルト言フカ如キ惡意的態度ハナシト認メラレタリ

(二)日米間ノ貿易カ著シク片貿易ナルコトハ米國識者ノ認ムル所ナルモ之カ具體的調整策ニ付テハ差當リ對内問題輻輳ノ爲未タ問題トナリ居ラス一行ハ勿論米國各地ノ官民ニ付之カ深慮ヲ促シ棉花ヲ主題トシテ各種米國ヘノ輸入引合ニ付反省サルル様注意喚起ニ力メタリ

(三)日米片貿易ノ現状ニ於テ日本ヨリ僅少ノ綿布輸入ニ對シ之ヲ阻止セントスルカ如キハ當國識者間ニ於テ其ノ不當ナルコトヲ充分認識シ居ルモ問題ハ既ニ政治問題化シ居リ決シテ樂觀ヲ許サスト思ハル一行トシテハ米國當業者等ニ對シテ本件ニ付日本當業者側ハ強硬ナル態度ヲ持シ

場合ニ依リテハ互惠貿易ノ主張ニ迄導ク覺悟アルヘキコ
トヲ力説シ置ケリ

306 昭和10年5月4日

在ニューヨーク沢田総領事より
広田外務大臣宛(電報)

我が方ブラジル綿花購入に対するアメリカ側
の反響について

ニューヨーク 5月4日後発
本 省 5月5日前着

第一〇二號

往電第九九號ニ關シ

當地新聞ハ「日本ハ伯刺西爾ヨリ棉花ヲ買ハントス」トカ
「日本品ノ輸入制限ハ米國ノ輸出ヲ減少セシムヘシ」等ノ
見出ヲ附シ其ノ全文ヲ掲載シタルモ特ニ之ヲ「センセイシ
ヨナル」ニ取扱フ所ナク從テ新聞ノ關スル限り往電第九四
號「カルバートソン」暗示ノ目的ハ略達セラレタルヤニ察
セラルル處三日午餐會席上平生氏カ米國新聞記者團トノ懇
談ノ際日本ハ米國ヨリ一億五千萬弗ノ棉花ヲ購入シ居ルニ
不拘日本ハ昨年ハ僅ニ百萬弗ノ綿布ヲ米國ニ輸出シ昨今稍

日本綿製品ノ米國輸入力増加シツツアリトスルモ僅ニ二百
萬弗ニ過キサル状態ナリ然ルニ米國側ニ於テ之ヲ兎ヤ角驢
クハ unfair ナラスヤト質問セル處新聞記者側ハ之ニ對シテ
直接ノ回答ヲ避ケ間接ニ問題ハ政治問題化シ居ルヲ以テ經
濟使節ニ於テ華府ニ赴キ國務長官又ハ農務長官等ト直接話
合ハルコト效果多カルヘキ旨述ヘ又同日一行中ノ關及伊
藤兩氏カ紐育棉花取引所長「マクファアデン」ヲ往訪シテ
日本ハ米棉ノ最大顧客タルヲ以テ棉花取引所等ヨリノ日本
品輸入制限問題ニ對スル好意の援助運動望マシキ旨ヲ仄カ
シタルニ對シ「マ」ハ日本綿布ノ輸入量カ昨年ヨリ増加ス
ルカ如キハ面白カラストテ甚タ冷淡ナル態度ヲ示シ居リタ
ル趣ナリ

事情右ノ如クナルヲ以テ日本側トシテモ探算上多少ノ犠牲
ハ忍ヒテモ伯刺西爾棉ノ購買増加ヲ現實ニ考量スル必要ア
ルヤニ認メラレ然ラサレハ最近屢傳ヘラレタル「米國側ニ
於テ日本品輸入制限ヲ爲スニ於テハ日本側ニ於テモ報復手
段ヲ用フヘシ」トノ報道カ徒ニ聲ノミノ威嚇ト解セラレ結
果益々面白カラサルヤニ認ム使節團ニ於テモ此ノ意見ニ贊
成ナルカ先ツ紡績聯合會等ニ於テ伯刺西爾棉買付増加ノ腹

トナル様配慮アリ度キ旨申出アリタリ就テハ本省御裁量ニ
依リ右當方ノ意見本邦關係者側ニ對シ然ルヘク御傳達御指
導相成様致度シ
伯ニ轉電シ、米、在米各領事へ暗送セリ

307 昭和10年5月7日

在ブラジル沢田大使より
広田外務大臣宛(電報)

ブラジルへの通商擁護法発動説に対する同国
の反響について

リオデジャネイロ 5月7日後発
本 省 5月8日前着

第一〇〇號
貴電第六五號ニ關シ(伯國ニ對シ通商擁護法發動説ニ關ス
ル件)

加奈陀ニ對シ通商擁護法發動ノ内意アリ云々ノ記事先般當
地新聞ニ報道セラレタルコトアルモ伯國ニ對シ之ヲ適用セ
ントノ趣旨ノ記事見當ラス從テ一般ニ之ヲ氣ニシ居ル様子
無キモ御來示ノ御趣旨ハ其ノ筋ニ承知セシメ置クコト然ル
ヘシト認メ六日内山ヲシテ通商局長ヲ往訪セシメタル處同

局長ハ久シク旅行中ナリシ爲大臣ヨリ如何ナル訓令ヲ發シ
タルヤ確カナラサルモ日伯通商關係ハ從來日本ニノミ有利
トナリ居リタルニ付此ノ際是非日本ニ於テモ伯國品ヲ成ル
ヘク多ク輸入セラルル様盡力セラレタシト述ヘ本問題ハ一
向ニ意ニ介シ居ラサル様子ヲ示シ居リタル由ナルカ貴電ノ
御趣旨ハ充分了解セル趣ナリ
聖市へ轉電セリ

308 昭和10年5月25日

在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

対フィリピン綿布輸出問題に関する我が方提
案に対し米國側は全面的に否認したため商務
官を通じ先方に再考を要請について

ワシントン 5月25日後発
本 省 5月26日前着

第二四七號

往電第二〇六號ニ關シ(對比島輸出綿布日米比率ニ關スル
件)

貴電第一一三號ノ(一)ノ申入ハ米國側ニテ到底容認ノ模様

ナカリシカ更ニ右貴電(一)ニ基キ交渉ヲ進メ居リタル處國務省係官ノ求ニ依リ廿四日井上商務官及館員ヲシテ往訪セシメタルニ右我方申入ニ對スル對策トシテ(一)前記貴電(二)ノ條件中比率關稅ヲ廢スルコト並ニ期間ヲ二箇年トスルコトニハ異存ナキモ數量制限ハ一九三二年及一九三四年ノ輸入量ノ平均ヲ基礎トシ一年間四千萬平方米トシ且品種別ヲ採用シ bleached 二百萬、unbleached 八百八十萬、dyed 一千六百四十萬、printed 一千二百八十萬トシ各種ノ三箇月、六箇月間ノ最高輸入量ヲ夫々 bleached 七十五萬及百二十五萬、unbleached 二百三十萬及五百五十萬、dyed 六百十五萬及一千二十五萬、printed 四百八十萬及八百萬トシ以上各種ノ三箇月、六箇月ノ總輸入最高量ヲ夫々千五百萬及二千五百萬トシタリ

(二)關稅増徴ヲ爲ササルコトハ米國政府トシテモ主義上贊成ナルモ何分同政府トシテ比島ノ關稅ヲ左右シ得ルノ地位ニ非サルヲ以テ本件ニ關シ確ト保障シ得ス但シ關稅ノ引上ヲ見ルニ至ラハ本件取極ヲ廢止スルコトトシ度シトノ趣旨ヲ述ヘタリ

之ニ對シ井上ヨリ米國側ニ於テ何等日本ノ提案ノ趣旨ヲ容

テタリ

(一)期間ヲ二箇年トス但シ一年毎ニ比律實ニ於ケル經濟狀況等ヲ再吟味ノ上上年度ノ割當ニ多少増減ノ手心ヲ加フルコトトシ度シ(右ハ比島ノ經濟狀況良クナレハ日本側割當ヲ増加シ得ヘク反對ノ場合ハ減少スルコトトシ度シトノ意味ナルモ諸般ノ狀況ヨリ見テ惡クナルコトハ先ツ無カルヘシト先方係官ヨリ説明アリタリ)

(二)數量制限ニ付テハ最初ノ申出通り一年四十萬平方米トシ度ク品種別ヲ廢止スルコトニハ讓歩スヘキモ期別制ニ關シテハ唯半箇年ニ於テ年五百萬ヲ越ヘサルコトトシ尙本年五月一日ヨリ六月三十日迄ノ最大輸入量ヲ一千萬平方米ニ制限シ度シ

(三)關稅ヲ増徴セサルコトノ保障ヲ與フルコトハ米國政府ノ權限外ナルニ付日本側ノ主張ハ諒トスルモ之ニ應シ難ク矢張り増徴ノコトアリタル場合ニハ本件規定ヲ失効セシムルコトト致シ置ク外無シ

右ニ關シ我方ノ回答振御回電アリタシ

紐育商務官ヘ暗送セリ

レタル模様ナキハ遺憾ニ堪エサル所ナリトシテ先方對案中ノ不合理ナル點ヲ辯駁シ假令之ヲ本國(政府)ニ通報スルモ到底承認ヲ得サルヘキハ明瞭ナルニ付我方提案ヲ再研究ノ上回答ヲ請フ旨強ク申入レタル處先方係官ハ國務省ノ困難ナル立場ニ付種々陳辯シタル上我方主張ハ重ネテ關係當局ニ傳達シ成ルヘク速ニ何分ノ回答ヲナスヘキ旨ヲ約シタリ

紐育、在紐育商務官ニ暗送セリ

309 昭和10年6月6日 在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

對フィリピン綿布輸出問題につき同国の經濟狀態を勘案して改訂するとの米國新提案への回答
につき請訓

ワシントン 6月6日後発
本省 6月6日後着

第二六四號

往電第二四七號ニ關シ(對比島輸出綿布日米比率ニ關スル件)五日國務省係官ヨリ右往電末段我方申入ニ對シ對案トシテ左ノ通り同示シ成ルヘク速ニ日本側意嚮ヲ承知シ度旨申出

310 昭和10年6月6日 在オランダ武富公使より
広田外務大臣宛

オランダにおける海運業救済策について

普通第八〇号 (7月4日接受)

昭和十年六月六日

在蘭

特命全權公使 武富 敏彦(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

和蘭ニ於ケル海運業救済策ニ關シ報告ノ件

和蘭海運業ノ窮狀ニ関シテハ客年四月六日附普通第七七号及本年四月十五日附普通第五八号ノ往信ヲ以テ申進置タル通り政府ハ昭和七年設立セラレタル國家的海運利益擁護會社ヲ經テ從來間接ニ救済ヲナシ來レル處其ノ後諸外國ニ於ケル貨幣政策及通商擁護政策等ニヨリ益々打撃ヲ蒙ムルニ至リ就中和蘭海運ト競争的地位ニ在リ且和蘭港務業ノ盛衰ニ密接ノ關係ヲ有スル白耳義ノ金本位放棄ノ結果和蘭海運及港務業ノ窮狀更ニ深刻化セントシツ、アルニ鑑ミ政府ニ於テハ水先案内料其他港諸掛リノ引下方ニ関シ研究中ナル趣ナルカ政府ハ更ニ進ンテ積極的海運業救済ニ乗出シ經濟

省追加予算トシテ八百二十万盾ヲ計上シ海運業者ニ対シ無
利子無担保ヲ以テ之ヲ貸付クルコト、ナリ今般關係法律案
ヲ議會ニ提出セルニ付政府ノ説明書ニ基キ右要領左記ノ通
報告申進ス

記

海運業者救済資金貸付要綱

一 救済資金總額 八百二十万盾

二 貸付条件 無利子、無擔保

但シ一九三五年度決算ニ於テ利益ヲ擧ケタル海運
業者ニ対シテハ貸付金ノ全額又ハ一部返納ヲ命ス
尙海運業ノ景氣ノ変遷其他調査ノ結果其ノ必要ヲ
認メタルトキハ或ル海運業者ニ対シ定メタル貸付
金額ノ変更ヲナスコトアルヘシ

三 救済期間 今回ノ救済ハ一時的性質ヲ有スルモノニシ

テ不取敢一九三五年一ケ年トシ同年一月一日現在
ニ溯及シ貸付ヲナス

本救済法繼續ノ有無ハ一九三五年末ニ於ケル調査
ノ結果ニ基キ之ヲ決定ス

四 貸付金ノ使途 本救済ハ必要ノ海運業ノ維持及其ノ

ノニハ本救済法ヲ適用セス

定期航路船ハ主義上大型船ニ対スルト同一ノ事情
アルニ付登録總噸數一千噸以下ノ船舶ニ対シテモ
救済ヲナス

七 調査及監督機關 当該海運業者ノ調査及本法施行ニ関
スル監督ハ國家的海運利益擁護会社ニ委嘱シ政府
之ヲ監督ス

尙政府ハ本法案ノ議會提出ニ際シ海運業救済ノ必要ニ関シ
左ノ如ク説明シ居レリ

政府ハ曩ニ國家的海運利益擁護会社ノ資本ニ加入及貸付金
(利息付)ニ関スル法律案提出ニ際シ和蘭海運ノ困窮狀態
ヲ説明セル處其ノ後不況ノ益々深刻化ニ伴ヒ海運業ノ窮狀
ハ一層危險ニ陥リ多クノ海運業者ハ衰亡ノ脅威ヲ受クルニ
至レリ而シテ右脅威的情勢ノ原因ハ國際的性質ヲ有ス即チ
國際貿易ノ激減及外國ニ於ケル造船補助金ノ支給其他救済
策ニヨル世界船舶噸數ノ急激ナル増加等ニヨリ船腹需給ノ
均衡ヲ乱シ且運賃ニ多大ノ悪影響ヲ及ボスニ至レリ和蘭ノ
海運業者ハ極度ニ経費ノ節約ヲ断行シタルニモ拘ハラズ國
内物價ノ水準高ク營業費ノ大半ハ其ノ影響ヲ受ケ現下ノ不

合理化並ニ堅実ナル經濟化ヲ以テ目的トシ被貸付
者ハ右目的ヲ以テ定ムル政府ノ規定ヲ遵守スル義
務ヲ有シ之ヲ和蘭海運業者間ノ競争ヲ誘発スルカ
如キ使途ニ用フルコトヲ得ス

五 救済資格 和蘭國籍ヲ有シ且政府ニ於テ充分國家的利
益ヲ代表スルモノト認ムルモノニ限ル

追テ定ムル標準ニ基キ少クトモ一九三五年中ハ其
ノ營業ノ繼續ヲ保証スル充分ナル財政狀態ヲ有ス
ルコトヲ要ス

満足ナル狀態ノ船舶ヲ所有スルコトヲ要ス
不定期貨物船舶業者ト雖モ右条件ヲ具備スルモノ
ニ対シテハ救済ヲナスコトヲ得

沿岸海運業者ニ対シテハ之ヲ認メス

六 貸付方法 現在就航中ノ客船及貨物船ニ対シ各其ノ登
録總噸數ニ應シ且登録總噸數百噸ヲ一單位トスル一
日一定額ノ計算ヲ以テ貸付ヲナス

貨客両用船ニ対シテハ船客定員數ニ應シ貨物船ニ
対スル率ノ外ニ割増ヲナス

不定期貨物船舶ニシテ登録總噸數一千噸以下ノモ

況時勢ニ順應スルコト不可能ナル狀態トナレリ

右國際的諸原因ハ結局國際的協議ニヨルノ外之ヲ改善スル
コト不可能ナル處最近各海運國當業者トノ間ニ協議ノ行ハ
レツ、アルコトハ喜フヘキコトニシテ政府ハ之ニ対シ注意
ヲ怠ラサルト同時ニ當業者ノ「イニシエイション」ニ対シ
如何ナル程度ノ支援ヲ與フヘキヤニ付研究シツ、アリ

最近數隻ノ船舶カ外國へ讓渡セラレタルモノアル處現在ノ
窮狀ニシテ改善セラレサランカ遂ニハ海運業ノ全般的滅亡
ニ導ク懸念ナキヲ保セス若シ不幸ニシテ斯ノ如キ事態ニ立
到ラハ單ニ海運業ニ於ケル労働ノ減少ヲ來スニ止マラス國
際貿易上重大ナル結果ヲ招來スルニ至ルヘシ政府ハ本救済
法ニヨリ労働ノ増加ヲ期待スルモノニ非スシテ緊急欠クヘ
カラサル海運連絡ノ維持及同時ニ之ニヨリ貿易關係ヲ維持
シ以テ労働ノ機會ノ此ノ上更ニ激減ヲ防止スル上ニ重大ナ
ル意義ヲ有スルモノト思考ス政府ハ國家的海運利益擁護會
社設立當時既ニ海運業ノ不況ノ永續性アルコトヲ予想セル
モ當時ニ於テハ尙利息付救済資金ノ貸付ニヨリ難関ヲ切抜
ケ堅実ナル事業ヘノ復帰ヲ期待シ居タリ然ルニ其ノ後事態
ノ推移ハ右救済及民間ノ融資ニテハ到底此ノ窮狀ヲ救済ス

ルコト不可能ナルコトヲ認メ本救済法ヲ提出ニ及ヒタル次第ナリ

本信寫送付先 在バタヴィア總領事

311 昭和10年6月13日 広田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

対フィリピン綿布輸出に關する米新提案に對
しては關稅問題の保障を前提に數量は前年実績に基づき交渉すべき旨訓令

本省 6月13日後5時發

第一四九號

貴電第二六四號ニ關シ

今次ノ米側回答ハ貴官段々ノ御盡力ニヨリ期別ノ緩和及品種別ノ撤廢ニ於テ貴電第二四七號ノ案ヨリ餘程我方ニ有利ニ展開シタル次第ナルカ十日開催ノ官民協議會ニ於テハ主トシテ(一)本邦側ノ自制數量及(二)米國政府ノ比島關稅据置ノ保障問題ニ付論議ヲ重ネ

(一)ニ付テハ最近マニラ駐在貿易通信員ヨリ現状ノ儘ニテ推移セハ本年日本綿布ハ對比輸入總量ノ七割ヲ占ムルコト難

之カ實現方再應御交渉相成様致度シ

一、期間ヲ二箇年トシ但書ヲ削除スルコト

二、數量制限ニ付テハ(イ)三四年ニ於ケル本邦綿布ノ比島輸入

実績ヲ基礎トスルコト(五六、三五六、九八二平方米)(ロ)

自制數量ノ起算ハ七月一日ヨリ向フ一ケ年トスルコト(ハ)

五月一日ヨリ六月三十日迄ノ數量統制ハ事實上不可能ナル

ルニ付之ヲ撤廢スルコト(ニ)年度間ニ於ケル融通量トシテ

少クトモ總量ノ一割ヲ認ムルコト

三、期別制ニ關シ半箇年制度ハ之ヲ認ムルモ同期間中ノ輸入

數量ハ最低三千五百萬平方米ヲ下ラサルコト

四、米國側ニ於テ比島關稅ヲ増徴セサルコトニ付最善ノ努

力ヲ爲スヘキ旨ノ保障ヲ何等カノ形式ニ於テ取付クル

コト

マニラニ轉電シ紐育、及商務官へ暗送アリ度シ

312 昭和10年6月20日 在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

対フィリピン綿布輸出問題に關し我が方が前
年の実績に基づいて算出した五千六百万平方

事ニアラサルヲ以テ日本側ハ少クトモ六割ヲ主張スヘク又本件ハ單ニ米國政府側ノ意見及米國大統領對「ケソン」ノ交渉ヨリ比島關稅引上ノ機會ヲ氣遣シモノナランモ目下獨立準備政府建設ニ際シ「ケ」カ米國品擁護ヲ約束シテモ新民選議會カ之ニ從フヤ疑アルノミナラス關稅引上ハ島民ノ生活ヲ脅カシ他面稅收ヲ失フコトナルヲ以テ當分現状ヲ維持スヘシトノ報告等アリ且又米國側ハ當初日米ノ對比輸出綿布ヲ半々トスルコトヲ提議セルニ鑑ミ一九三四年ノ輸入実績カ最モ之ニ近キ事實モアリ此等ノ點ヲ考量シ當業者ハ少クトモ三四年ノ輸入実績ヲ固持シテ止マズ

(二)ニ付テハ我方ノ輸出自制ノ目的カ關稅引上阻止ニアルニ不拘米國又ハ比島政府カ右ニ關シ何等ノ保障ヲ與ヘサルニ於テハ本件協定ハ無意味ニ終ハルヘク現憲法下ニ於テハ米國大統領ハ比島關稅改正法案ヲ veto シ得ル權限サヘ附與サレ居ル次第ナレハ假令法律上ノ約束ハ出來サル迄モ米國政府ハ日本側カ斯ル自制ヲ行フ事實ヲ比島政府ニ傳ヘ右實行中ハ關稅引上ヲ行ハサル様ノ勸告ヲ爲シ之ニ付充分ノ諒解ヲ取付クルコトノ努力ハ要請ノ必要アル可シトノ議論有力ニテ結局種々討議ノ末我方對案ハ左記ニ決定シタルニ付

米は受諾困難との米國務省見解について

ワシントン 6月20日後發

本省 6月21日前着

第二八九號(極秘)

貴電第一四九號ニ關シ(對比島輸出綿布日米比率ニ關スル

件)

御來示ニ基キ更ニ國務省ト交渉中ノ處十九日「セーヤー」ノ求ニ應シ會見シタルニ(「ドーマン」同席)「セ」ハ鉛筆、「ラグラグ」等ニ對スル日本側ノ協調的態度ヲ多トシ之ニ依リ双方満足ナル協定ニ達シ得タルハ喜トスル所ナルカ比島綿布問題ニ付テモ同様日本ノ協調的態度ニ望ミ繋ギ居レリ實ハ米國側第二回ノ申出(往電第二六四號)ヲ作成スルニ當リ當業者及關係者ヲ集メテ會合ヲ開キタルカ中ニハ全然讓歩ヲ肯セサル向モアリタルモ漸クニシテ右案ニ到達シタル次第ナル處今回ノ日本ノ對案ニハ少シモ米國側ノ讓歩ヲ認メラレス中ニハ日本側當初ノ案ヨリモ却テ多クヲ要求シ居ラルル點スラアリ到底國務省ノ力ニテ當業者乃至關係者ヲシテ承諾セシメ得サル次第ナリノミナラス當業者ハ既ニ痺ヲ切ラシ上院委員間ニ請願書ヲ配布シ其ノ署名ヲ求メ

居リ「ケゾン」ヲ通シテ比島議會ニ對シ次期會期ニ於テ綿布ニ高率關稅ヲ課センコトヲ慫慂シツツアリ（此ノ運動ハ秘密裡ニ行ハレ居レリ一上院議員ヨリ内密ニ入手シタル報道ナレハ極秘トセラレタシト申添ヘタリ）

斯ル請願書ノ「ケゾン」ノ手ニ渡ルカ如キ成行トナリテハ國務省トシテ最早策ノ施ス餘地無キニ至リ日米國交上モ面白カラサル事態ト相成ルヘキカト心配シツツアル實情ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ日本側ニ於テモ政府ハ出來得ル限り當業者ヲ説得シ協調ノ態度ヲ執ランコトヲ苦心シ居ルモ何分ニモ原料ヲ多量ニ米國ヨリ買付ケ居リ其ノ結果日米間片貿易ノ趨勢ニ在ル今日生産品ヲ賣捌クニ付テ種々拘束ヲ受クルコトハ當業者ノ苦痛トシ且不合理ト感スル所ナルカ其ノ態度中々強硬ニシテ政策トシテモ米國側ノ讓歩ヲ請ハサルヘカサル立場ニ在ル點ハ御了解ヲ願ハサルヲ得ス尙最近ノ我提案力當初ノ提案ヨリモ却テ一步ヲ進メタリト云ハルハ如何ナル點ナリヤト尋ネタルニ「セ」ハ五千六百萬平方米ノ數字ハ事實ニ於テモ七割ノ要求トナル次第ナリ斯ノ如キハ到底政治的見地ヨリ見テ米國側ノ承認シ得サル所ニシテ前述ノ通り當業者力議會ニ對シ運動ヲ開始シ居ル

總領事 天城 篤治（印）
外務大臣 廣田 弘毅殿

埃及遣英經濟使節ノ報告書ニ關スル件

客月廿三日歸埃セル埃及遣英經濟使節ハ其後直チニ報告書作成ニ着手シ本月初旬之レヲ取纏メテ大藏大臣ノ許ニ提出シ同大臣ハ一應査閲シタル上之レヲ本月八日ノ閣議ニ諮ルト共ニ一般ニ公表スヘシト傳ヘラレタルモ同報告書ノ各方面特ニ本邦側ニ及ボス影響甚大ナルモノアル爲カ或同ク英人商工省技術顧問ノ着任アリ又新商工大臣詮衡中ニテ該報告書ノ査閲及ヒ之レニ伴フ各種ノ通商政策上ノ案件決定ハ當然新商工大臣及英人顧問ノ職務ニ屬スル關係上右兩名ニ諮ル必要アリタル爲カ「アラビヤ」語新聞ニ現ハレタル一般輿論ノ要望アルニ不拘今日ニ至ルモ未タ之レカ發表ヲ見ス從ツテ其ノ内容ニ關シテモ當地新聞紙ノ傳フル所ハ單ニ揣摩憶説ニ過キス尤モ大藏大臣ハ既ニ約三週間前同報告書ノ査閲ヲ了シ其後二回ニ互リ閣議ニ於テ之レヲ討議シ其ノ英譯文ヲ作成シテ一部ハ英政府ニ他ノ一部ハ「ランプソン」ノ許ニ送付セリト傳ヘラルルカ只一般ニ觀ラルル處ニ依レハ最近日中ニハ發表セサル模様ナリ

如ク今日日本側ニ於テモ米國政府ノ苦衷ヲ諒トセラレ協調的態度ニ出テラレンコトヲ切望スト述ヘタルヲ以テ本使ハ結局今回ノ日本ノ對案ハ到底受諾ノ餘地無シトノ御趣旨ナリヤト尋ネタルニ「セ」ハ全ク其ノ通りニシテ第二回ノ米國側提案ハ最後ノ讓歩ト御考ヘアリ度尙比律賓ノ關稅ニ關スル保障ノ件ニ付テハ比島ノ獨立ヲ決定セル今日米國政府ハ從來ヨリモ更ニ政治的無干涉ノ態度ヲ執ルコトニ決定シ居ル爲御申越ノ如キ御約束ハ遺憾乍ラ之ヲ爲シ得サル立場ニ在ル次第ナリト答ヘタリ

在紐育商務官ヘ暗送セリ

313 昭和10年6月21日 在アレキサンドリア天城總領事より
広田外務大臣宛

帰国したエジプト遣英經濟使節の起草した未
発表報告書の我が方への影響等につき調査中
について

公機密第三三七號 （7月22日接受）

昭和十年六月廿一日

在アレキサンドリア

右ニ關シ最モ信憑スルニ足ル報道トシテ「アハラーム」紙ノ掲クル所ニ依レハ該報告書ハ（一）遣英經濟使節力英國市場向ノ埃及產品其ノ種類及輸出増加可能ノ範圍ニ關シ調査セル結果ヲ掲ケ次ニ（二）英國製造業者ノ主張及埃及市場ニ於ケル英品ノ後退ニ關スル彼等ノ苦情並英國側ノ提案セル對策（三）經濟使節側ノ私案ノミニ分タレタリト稱シ尙同紙記者カ英國方面其他ノ關係方面ヨリ聞込ミタル處ニ依レハ現在或ル方面ニ於テ唱ヘラルルカ如キ英埃通商協定締結ハ英國側ニ於テ否認シ居リ若右報告書ニシテ埃及政府力之レニ承認ヲ與フル場合之レヲ以テ英埃通商協定ニ代フルコトヲ得兩國ノ通商親善關係ヲ緊密ニスル上ニ於テ大イニ與ツテ力アリトノ事ナリト報シ居レリ該報告書ニハ本邦輸入品モノノ如ク重要ナル題目トシテ取扱ハレ居ル事ハ疑ヒナキモノノ如ク特ニ英人顧問着任ト同時ニ先ツ右報告書ニ目ヲ通シ又今般新商工大臣任命ト共ニ直チニ之レヲ大藏大臣ヨリ同大臣ニ移牒セリトノコトニテ同報告書ハ今后ニ於ケル同省ノ對邦品問題ニ關スル政策上ニモ大イニ影響スル處アルモノト見ルコト得ヘシ本件ニ關シ當地商業會議所會頭「エヒヤ、パシヤ」ノ語レル處ハ既電ノ通りナルカ同氏息「アリ、ベイ」

カ右報告書ノ内容トシテ本官ニ語ル所左ノ通

(一)他國モ亦埃及棉花ヲ購入スルモ英國ハ從來埃及棉花ノ最モ確實ナル顧客ナル故英國綿布ノ販路ヲ擁護シ以テ英國ニ依ル埃及棉花ノ購入ヲ助長スルヲ可トス

(二)國內紡績保護ノ必要アリ然レ共英品ハ國內紡績トノ競争品ニ非ル故兩者ヲ同時ニ擁護スルコト可能ナリ之レカ爲メ爲替補償稅ヲ課スヘシ

尙「アリ」ハ現内閣ハ萬事英國ノ意ノ儘ニ動キ居ル故現内閣カ右報告書ノ提案ヲ實施スルノ虞多分ニアルモ一方右ノ措置ハ國民ノ九割ヲ占ムル農民ノ利益ニ關スルコト大ナル故(農民ニ高キ綿布ヲ押シツクルコト及日本カ埃及棉花不買ヲ行フコト)政府反對運動起ル虞アリ殊ニ父「エヒヤ」カ政府ニ對シ反對意見ヲ述ヘ若シ政府カ斯卡ル措置ヲ採ル場合ハ「エヒヤ」ノ覺書(四月廿四日附公機密第二三〇號參照)ヲ公表スヘシト威嚇シ居ルヲ以テ政府モ當分右實施ヲ躊躇スヘキカトモ思考スト語レリ

右報告ス

本信寫送付先 在英大使

~~~~~

ル意嚮カ政府部内及民間一般ニ瀾漫セルコト明白ニシテ同參議腹案ノ骨子及實施期ニ付テハ明言ヲ避ケ居ルモ相當ノ腹ハ有スルモノノ如シ唯同人ハ右ハ日本ニ對スル報復手段ニ非サルコトヲ強調セル由ナルモ動機ノ如何ニ拘ラス暹羅側ノ輸入制限力直ニ我方ニ最大ノ打擊ヲ與フルコト勿論ニシテ殊ニ暹羅側ノ制限力各國ノ過去ノ輸入成績ニ依ラスシテ暹米ヲ對象トスル「バーター」ニ依ル場合ニ於テ然リ而シテ暹米問題ニ付我方在來ノ會談ノ微溫的態度ヲ以テシテハ到底暹羅側ヲ反省セシメ得ヘカラス最近年度ニ於ケル我カ對暹輸出激增ニ鑑ミ我暹米輸入ハ少クトモ制限實施直前ノ狀況迄引戻ササルヘカラス

今ヤ愈經濟當局カ前記ノ意嚮ヲ公然言明スルニ至レル以上我方トシテハ大イニ慎重考慮スヘキ事態ニ直面セルモノニシテ事茲ニ至ルヘシトハ豫テ本使ノ累次申進メタル次第ニシテ餘リニモ當然ナル歸結ナリ何分ノ儀至急御配慮ヲ請フ

~~~~~

315 昭和10年7月3日 在ブラジル沢田大使より
広田外務大臣宛

訪伯經濟使節のブラジル到着以後における活

314 昭和10年7月3日 在タイ矢田部公使より
広田外務大臣宛(電報)

タイ米輸入制限に対するタイ側バーターによる輸入割当実施の意向について

バンコク 7月3日前発
本省 7月3日後着

第一六五號

往電第四七號ニ關シ

當國政府ハ頃日來帝國ノ暹米輸入禁止說ニ脅サレ米作偏重策改革ノ急務ヲ痛感スルト同時ニ暹米輸出促進ニ腐心セルモノノ如ク去ル二十五日松島大使ノ「ピヤパホン」ト會見ノ際ニモ「パ」ハ劈頭我方暹米輸入制限緩和方熱心ニ要望シ其ノ他同大使ノ會見シタル要人及新聞記者等皆本件ニ言及セサルモノナキ程ナリシカ最近經濟參議ハ他用ニテ往訪ノ當館員ニ對シ差詰メ窮境打開策トシテ各國ノ暹米輸入額ヲ標準(何年度ノ係數ヲ取ルヤハ言明セス)トシテ各國ヨリノ輸入割當ヲ行フノ方針ヲ以テ目下諸外國ノ「バーター」並ニ「クオータ」制度ヲ研究中ナル旨ヲ言明セル趣ナリ尤モ右ハ未タ單ニ同參議限リノ意見ナリト言ヒ居レルモ斯

動について

付記 十二月五日平生(鈞三郎)団長のご進講

「日伯貿易ニ就テ」

公機密第一二五號 (8月20日接受)

昭和十年七月三日

在伯

特命全權大使 澤田 節藏(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

訪伯經濟使節ノ伯國到着以後ニ於ケル活動其ノ他ニ關スル件

平生鈞三郎氏ヲ團長トスル訪伯經濟使節ハ五月十六日着伯以來各方面ヨリ熱誠ナル歡迎ヲ受ケ無事其ノ使命ヲ遂行シ六月十二日一應解團ノ後平生團長外代表隨員數名ハ特ニ「リオ・グランデ・ド・スール」州ヲ訪問シ二十四日同州出發陸路「ウルグアイ」共和國ニ向ヘリ就テハ使節伯國到着以後ニ於ケル活動其ノ他ニ關シ概要左ノ通り記述シ貴覽ニ供シ度ニ付御査閱相成度シ

(別紙)

訪伯經濟使節ニ關スル報告

一、「プログラム」作成

「プログラム」作成ニ就テ最も重要ナル點ハ使節一行ノ滯伯期間デアッタ最初ハ六週間ノ豫定デ計畫セラレタノデアルガ其ノ後約三週間トイフ短期間ニ限定セラレタ爲メ「プログラム」モ自然走馬燈式トナツタ傾ガアル又其ノ訪問地域ニ付テハ最初ヨリ「リオ」及「サン・パウロ」兩市ノ外ニ「ミナス」及「バイヤ」兩州ヲモ訪問セシメ度イ意嚮デアツタカラ各地方ノ訪問上交通機關トシテ飛行機ヲ必要トスルニ至ツタコトモ止ムヲ得ナイ伯國政府側ニ於テハ外務省内ニ設置セラレタ日本經濟使節接待委員會（日本課）ガ外務大臣官房ノ「ポルトガル」書記官ヲ委員長トシ外ニ外務書記官、領事等之ニ參加シ「プログラム」作成ニ就テ使節一行ノ着伯數箇月前ヨリ熱心ニ之ガ準備ニ當ツタ

尙訪伯經濟使節團構成人員ノ顔振ガ知レ視察旅行ノ範圍ガ「リオ」及「サン・パウロ」ノ外ニ「ミナス」、「バイヤ」等ニモ及ハントスル内情ガ知レルヤ委員會側ハ各州ノ希望ニモ動カサレ成ルヘク廣範圍ニ使節ヲ活動サセ度キ意嚮ヲ示スニ至ツタ尙委員會ノ日程ノ作成上態々「サン・パウロ」、

委員長「ポルトガル」氏ハ新聞ニ對シテ大要左ノ如キ聲明ヲ爲ス所ガアツタ

「日本經濟使節ハ何等外交的的使命ヲ帶ヒス或ル種新聞ノ傳フルカ如ク移民問題又ハ現行通商條約ノ改訂等全然考慮セサルモノデアル使節ハ日本商工會議所ヨリ派遣セラレタルモノニテ何等公的性質ヲ有セサルモ伯國政府トシテハ日本財界ノ有力者ヨリ成ル一行ノ重要性ニ鑑ミ之ヲ公式待遇スルコトニ決定セルモノテアル使節ノ主要目的ハ日伯通商關係ノ促進ヲ圖リ伯國ガ原料生産市場トシテ如何ナル狀態ニ在ルカラ詳細研究調査スルモノニテ日本ノ如キ原料品ノ大輸入國ニ新市場ヲ獲得スルコトハ伯國ノ最も留意スヘキ點ト思考スル勿論伯國ノ古イ華客又ハ舊市場ヲ減ラシ之レニ損害ヲ與ヘタリスルカ如キコトハ豫想シ得サル所デ伯國ノ貿易政策ハ正ニ舊市場ヲ維持シツツ更ニ新市場ヲ獲得スルニアリ吾人ハ專ラ伯國ノ經濟發展ノミ希望スルモノデアル、云々」

而シテ今回ノ經濟使節ガ聯邦及各州政府ヨリ公式待遇ヲ受クルニ至レル結果其ノ視察研究ハ勿論伯國各方面ノ人士トノ交歡ヲ行フニ多大ノ便宜ヲ得タルコトハ事實デアツテ最

「ミナス」及「バイヤ」各州ニ委員ヲ特派シ各種準備ノ打合せヲ爲シ其ノ結果作成セラレタル「プログラム」ハ出來ル丈ケ儀式的の方面ヲ避ケ實質ヲ尊フ方針ナリシニ不拘相當盛澤山ノ「プログラム」テ道順及距離ニ於テハ相當強行軍のノモノトナツタ又大使館ヨリ「プログラム」ガ餘リニ過重ナリトノ「オブジエクシヨン」ヲ出セハ委員會側ハ各州政府ノ熱意ヲ満足セシムル爲若シ實行不可能ナル場合ハ別トシ兎ニ角「プログラム」ハ其ノ儘決定通りニ致置キ度キ旨主張シ結局大体ニ於テ「プログラム」通り万事好都合ニ取運ヒタルカ「ペルナンブコ」行ヲ始メトシ「リオ・グラデ・ド・スール」行等「プログラム」以上ノ事ヲ爲シ得タノハ使節團ノ人員ガ多數ナリシコト及團員何レモ全力ヲ發揮シテ活動シ伯國側ノ歡迎亦到ル處熱誠デアツタガ爲メダト言ヘヤウ

二、使節待遇問題

使節ノ待遇問題ニ付テハ在伯大使館トシテノ考慮ハ勿論政府竝使節一行ノ希望モアリ私的訪問ノ趣旨ヲ徹底シ度キ意嚮ナリシニ不拘伯國側ノ特別ナル希望ニ依リ政府ノ賓客トシテ公式ニ待遇セラルルコトナツタガ右ニ關シ使節接待

初歡迎攻メニ會ヒ困却セルカノ如キ感ヲ懷イテ居タ使節一行モ次第ニ右ノ事實ヲ自覺スル様ニナツタコトハ團員一同ガ後ニ及ンデ告白スル所デアツタ斯クテ「マセド・ソアレ」外務大臣ガ曾テ述ベタルコトアル

「今回日本ヨリ來ル經濟使節ハ曾テ伯國ヲ訪レタル此ノ種外國使節ノ如何ナルモノヨリモ優遇セラルベシ」

トノ約言ハ如實ニ行ハレ彼我共ニ満足ノ結果ヲ得タリト謂ヒ得ベキデアル尙聯邦政府ガ議會ニ對シ使節歡迎費トシテ要求シタル額ハ六百「コントス」ニシテ「サン・パウロ」州政府ノ州議會ニ要求シタル額ハ八十「コントス」ナリトイフ從ツテ今回使節ノ爲メニ伯國政府筋ノ使用セル額ハ約八百「コントス」以上トナルベク（約二十萬圓）一行ノ爲メ特別列車ヲ仕立テ飛行機ヲ飛バシ盛大ナル祝宴ヲ開キ「ホテル」代ヲ負擔スル等伯國トシテハ眞ニ到レリ盡セリノ待遇ヲ與ヘタル次第ニテ使節團ニ於テモ各地ニ於テ宴會ヲ催シ又伯國慈善事業ノ爲メ一筆百「コントス」ノ寄付ヲ爲ス等可然之レニ應酬スル所ガアツタ

三、大統領謁見

大統領「ゼッリオ・ヴァルガス」氏ハ伯國最高政策上外

務大臣ヲ伴ヒ五月中亞國ヲ訪問スベシトノ儀ハ數箇月前ヨリ傳ヘラレテ居タカ其ノ出發日取ハ一應五月二十日ト内定セラレ居リタルモ實際上ニ於テハ出發直前迄確定シナカツタ、一方今回ノ日本經濟使節ノ訪問ニ付キ大統領及外務大臣ガ特ニ熱心ナルコト及遠來ノ使節ニ對スル精神的效果等モ考慮シ本使ニ於テモ使節着伯後成ルベク速ニ大統領ニ謁見セシメ度キ意嚮ヲ以テ万事取計ツテ居タノデアルガ偶々大統領ノ出發ガ使節到着ト同日タル五月十七日ト決定シタル爲メ殆ト謁見ハ望ミ無キコトナツタ然ルニ伯國政府ハ當方ノ希望ヲ充分考慮シタルモノノ如ク使節乗船「ノーザン・プリンス」號ニ對シ特ニ船足ヲ早クスル樣訓令シタ模様デ船ハ十六日夕刻「リオ」着トナリ即日午後六時乃至六時半ニ謁見ノ手筈ト定マツタ依テ團長以下各代表並山崎事務總長及山口醫學博士ノ計八名ハ「ノーザン・プリンス」號入港ト同時ニ伯國政府差廻シノ「ランチ」デ直ニ上陸シ不取敢外務省ヲ訪問シ次テ大統領ヲ官邸ニ訪問スルコトトナツタ然シ折角ノ努力モ船ノ入港カ既ニ六時過トナリシ爲メ豫定ノ謁見時間二間ニ合ハス當日ハ止ムヲ得ス外務大臣訪問ニテ打止メ翌十七日大統領ノ軍艦乗込ノ直前午後一時

見テモ本年初メテノ大競馬テアツタトノコトデアル

五、「サン・パウロ」州訪問

使節一行ハ「リオ」ニ於ケル各方面ヘノ挨拶並大使館トノ打合せヲ了シタル後十九日夕特別仕立ノ列車デ「サン・パウロ」ニ向ケ出發セル處伯國政府側ヨリハ接待委員會ノ大部分同行シ大使館ヨリハ三浦書記官ヲ隨行セシメ在聖市市毛總領事ト協力シテ万事遺憾ナキ樣取計ハシメタ使節一行ハ二十日朝「サン・パウロ」市着後州政府當局、「サン・パウロ」市長、商工團體並在留同胞等ヨリ熱誠ナル歡迎ヲ受ケ殊ニ數週以來同地ニ開催中既ニ閉鎖ノ豫定デアツタ棉花展覽會ヲ使節ノ爲メ特ニ閉會ヲ延期シ閱覽ニ供シタルコトハ州當局ノ一行ニ對スル非常ナル用意ト認ムヘキテアル尙使節ノ「サン・パウロ」滞在ハ大体一週間ト決定シタ爲メ奧地行ハ避クルコトトシ「カンピーナス」及「サントス」訪問ニ止メタノデアルガ「サン・パウロ」市ニ於テハ棉花取引所ヲ始メ各種工場ヲ視察見學シ「カンピーナス」市ニ於テハ東山農場ノ外製糸工場及農事試驗場等ヲ視察シ好印象ヲ得豫定ノ「プログラム」ヲ終ヘ一行ハ二十七日非常ナル満足ヲ以テ無事「リオ」ニ歸還シタ

半謁見スルコトナリ無事目的ヲ達シタノデアツタ、今度使節一行ニ關スル儀式的方面ノコトデ色々面倒ナコトガ無カツタ譯デハナイガ此ノ謁見程日伯兩方ノ係官ヲ困ラシタモノハナカツタ但シ伯國政府ガ此ノ謁見ニ關聯シテ示シタ好意的態度ハ使節滞伯中ノ總テノ空氣ヲ代表シタモノト言ヘル

四、臨時大統領ト經濟使節

平生團長ハ夫人同伴ノ處從來此ノ種ノ場合到着早々公式ニ夫人同伴謁見スルガ如キ例モナク旁々大統領ハ夫人同伴外國旅行ニ出發ノ直前トテ大統領夫人ニ對スル謁見ハ考慮ニ置カレサリシ處使節側トシテ又團長夫人ニ於テモ謁見方希望ノ内意アルヤニテ其ノ趣ガ伯國接待委員會側ニ傳ハリタル爲メ臨時大統領官房特別ノ取計ニテ團長夫妻ヲ假大統領ガ私的ニ接見スルコトナリ十九日（日曜）午前會見ヲ了シタ尙當日ハ「リオ」競馬俱樂部ニ於テ「日本デー」ヲ催シ臨時外務大臣主催ノ使節歡迎午餐會ガ同競馬場俱樂部樓上ニ於テ行ハレタノデアルガ同日午後臨時大統領ハ夫人同伴同競馬場ニ臨場シ使節一行ヲ夫々引見シタ俱樂部「日本デー」ハ日本帝國賞ノ外日本ニ因ツタ名ヲ各番組ニ附ケテノ競馬デアツテ當日ハ入場者カラ見テモ馬券ノ賣上高カラ

六、「ミナス・ゼラエス」州訪問（平生、關、伊藤、岩井）

「サン・パウロ」州公式訪問ヨリ歸着セル使節一行ハ二班ニ分レ「ミナス」及「バイヤ」兩州ヲ訪問スルコトナレル處「ミナス」州行ノ一隊ハ首府「ペロ・オリゾンテ」ニテ更ニ二班ニ分レ一隊ハ棉作地帶並ニ工場地帶視察ノ爲メ「コルヴェイロ」方面ニ、他ノ一隊ハ鑛山地帶視察ノ爲メ「ヴィクトリア」方面ニ向ヒ、尙平生團長（內山參事官同行）ハ一日遅レテ出發「ペロ・オリゾンテ」市ニテ一行ト落合ヒ州政府、州議會及商工團體等各方面トノ交歡ヲ遂ゲタル後「リオ」ニ歸還シタ

「ミナス」州ニ於テ日本在留民ノ居住スル地方ハ「サン・パウロ」州境ノ一部ニ限ラレ其ノ他ハ外務省留學生ガ「ジユイズ・デ・フォーラ」市ニ滞在セルモノアリ又首府「ペロ・オリゾンテ」市ニハ近年數家族ノ日本人力單獨若ハ州政府保護ノ下ニ蔬菜園ノ經營、養魚場ノ新設等ニ從事シ居ルノミナルカ同州訪問中使節一行ノ得タル印象ハ「ミナス」州ノ官民ハ「サン・パウロ」州ニ於ケル日本移民ノ成績ヲ充分ニ認メ可成之ヲ自州ニ誘致セントスル方針ナルト新聞其ノ他ノ報道ニ依リ得タル日本ニ關スル新智識ニ依リ日本

竝日本人ニ對シ一種ノ憧憬ヲ有スルモノナリトノ事實ナルカ一行ノ旅行中到ル處非常ナル歡迎ヲ受ケタルコトニ付テハ使節一行ハ寧ロ異様な感ヲ受ケタルモノノ如ク特ニ州統領主催ノ使節歡迎午餐會ノ席上州統領カ當州ニ關スル限り日本移民ハ喜ンデ迎ヘラルヘシト聲明セルコトハ特記スルニ値スル

尙使節團トシテハ「ミナス」州カ農業上ニ幾多研究ノ餘地アルコトハ想像ニ難カラストシテ、特ニ礦物ノ豊富ナルコトニ付テハ想像以上デ從來「ミナス」州ニ關スル限り地表ニ現ハレタル礦物ニ付テハ既ニ一般ノ注意ヲ引キタルモ深ク地中ニ埋藏セラレタル礦物ニ關シテハ殆ンド特記スヘキ研究無キモノノ如ク此ノ點ニ關シテハ日本側ニ對シ多大ノ希望ヲ殘スモノトノ印象ヲ受ケタ模様デアル事實廣大ナ「ミナス」州ノ礦物ノ利用、地下埋藏物ノ研究開發、通商上ノ地盤開拓等悉ク我國ニトリ將來ニ殘サレタ問題デアル

七、「バイヤ」及「ペルナンブコ」兩州訪問（渥美、奥野）

「バイヤ」州行ハ豫定ノ都合上往復共飛行機ニ依リ當館ヨリハ齋藤書記生ヲ同行セシメタ「バイヤ」州知事ハ一九三〇年革命後同州ノ執政官トナリ其ノ儘知事ニ選舉セラレタ

八、「リオ・グランデ・ド・スール」州訪問

「リオ・グランデ・ド・スール」州ノ現伯國ニ於ケル政治的地位ニ付テハ特別ノ考慮ヲ拂フ要アルコトハ勿論ナルガ財政經濟的見地ヨリシテ今回使節ノ訪問ヲ無理ニ同州迄延長スル程ノコトモナク又之ヲ強テ延長セシメントスルモ距離並使節ノ人員、滯伯期間ノ制限等ヨリシテ頗ル困難ナモノデアツタ爲メ最初ノ公式「プログラム」ニ組入ルルコトハ差控ヘ居リシ處使節伯國到着ノ直前外務大臣ヨリ特ニ公文ヲ以テ「リオ・グランデ・ド・スール」州統領「フロレス・ダ・クーニヤ」將軍ガ今回ノ使節ニ對シ非常ナ興味ヲ持チ同地招待方希望シ居ル旨ヲ大使館ニ照會シテ來タ依ツテ當館トシテハ可成其ノ希望ヲ達成セシメ度キ意嚮ナリシモ何分使節ノ健康其ノ他ヲ考慮シ之ヲ強要スルヲ得ス回答ヲ延期シテ居ツタノデアルガ偶々平生團長ハ最初使節團解散後ハ移住組合經營ノ各植民地ヲ歴訪シ度キ希望ナリシガ時節柄右奥地旅行ハ時機ニ適セストノ理由ノ外團長ノ健康モ之ヲ許サザルモノトシテ奥地行ヲ諫止スルコトナレル結果時間ノ餘裕ヲ生ジタルヲ以テ「リオ・グランデ・ド・スール」州訪問方ニ付キ更メテ團長ヲ勸誘シ團長モ自ら使

ル少壯有爲ノ人物ナルガ今回使節ノ訪問ニ對シテハ同州出身ノ代議士ガ昨年憲法審議會ニ於テ排日ノ急先鋒トナリタルコトアルニモ鑑ミ對日感情融和ニ付キ大イニ努力セントスルモノノ如ク曩ニ外務省接待委員ノ「プログラム」打合せノ爲メ同地ニ出張ノ當時知事ヨリ直接「サン・フランシスコ」河用汽船建造ヲ日本ニ依頼スルノ件竝日本移民二十家族ヲ試験的ニ州政府ノ手ニテ入植セシムルノ件ヲ内話シタル程ニテ使節一行ヲ歡迎セントスル態度ハ官民共ニ極メテ熱心ナルモノガアツタ尙「バイヤ」州ガ生産物ノ種類ノ多キコト竝北伯ノ一中心地タル點ニ於テ今後相當ノ考慮ヲ拂フ要アリトハ一行ノ得タ印象ノ様デアル

「ペルナンブコ」州ハ現勞働商工大臣ガ同州出身ナル事情モアリ團ノ「バイヤ」出發直前急ニ「プログラム」ヲ變更シ使節ノ旅行ヲ「ペルナンブコ」州迄延長方懸望セルモ人員並時間ノ都合ツカズ使節トシテ同地訪問ハ斷念ノ止ムナキニ至リタルガ同地ハ棉花ノ生産地トシテ相當重要性アル爲メ使節中棉花専門家ハ特ニ同州訪問ノ必要ヲ力説スルモノアリ結局隨員中吉田、中井ノ兩人ガ個人的資格ニ於テ同州ニ直行シ視察ノ目的ヲ達シタ

節團解散後「リオ・グランデ・ド・スール」州ヲ訪問スル氣ニナリ關、岩井兩代表ノ外山口博士、中井隨員（大使館ヨリハ小峰通譯官同行）等ト共ニ六月二十一日「サントス」發飛行機デ「リ」州ニ向フコトトナツタガ其ノ結果ハ今回ノ使節ガ比較的短期間ニ伯國ノ主要州全部ヲ訪問シ現政府ノ主要人物ノ殆ト全部ニ面接スル機會ヲ得タ譯デ日伯國交ノ全体カラ觀テモ頗ル善イコトデアツタ、「リオ・グランデ・ド・スール」デハ州統領ガ有力ナ人物デアリ又同州ガ「サン・パウロ」ニ對抗シテ將來伸ヒントスル野心アル丈ケニ種々ナル方面カラ平生團長ト話合ツタ模様デアルガ「リオ・グランデ・ド・スール」州ガ伯國ノ政治經濟生活上將來活躍シテ來レハ來ル程夫レ丈ケ日本トノ關係モ密接ニナツテ來ル譯デ元在神戸總領事代理デアツタ「ラウル・ボップ」領事（「リオ・グランデ・ド・スール」州出身）ガ今回特ニ大統領ノ内命ヲ受ケテ使節ノ爲メ働キ又追ツテ横濱ノ領事トシテ赴任スルコトトナツテ居ル等日本側トシテモ看過シ得サルコトデアル。一行ハ二十一日「ポルト・アレグレ」着ヨリ二十四日同地出發迄全ク豫想以上ノ歡待ヲ受ケ非常ナ満足デ二十四日陸路「ウルグワイ」ニ向ツタ

九、「イタマラチー」(伯國外務省)ニ於ケル日伯協議會

(一) 専門委員會ノ構成

使節一行到着ニ先立チ伯國外務省ニ設置セラレタル日本課ヨリ經濟使節到着後可成實績ヲ擧クル趣旨ニ於テ別紙甲號^(見当)ノ如ク日本經濟使節及伯國側接待委員並聯絡委員ノ執務基礎案トシテ小委員會構成ニ關スル建議ヲ大使館ニ内示シテ來タノデアルガ使節「リオ」到着後直ニ本件ニ關シ日伯兩委員間ニ一應意見ノ交換ヲ行ヒ大体原案ノ通り實行スルコトトナリ六月三日全体協議會ニ於テ各小委員ノ構成ヲ終リ爾後引續キ研究協議ノ結果同十一日最後ノ全体協議會ヲ以テ閉會ニ至ル迄連日「イタマラチー」ニ於テ熱心研究討議ヲ進メタ、此ノ間當館ヨリハ總會ニハ内山參事官、小委員會ニハ三浦書記官ヲ補佐役トシテ列席セシメタ

(二) 協議會ノ結果

前記「イタマラチー」ニ於ケル協議會ハ別紙乙號^(見当)ノ通りノ結果ヲ見タルガ右報告書中ニ列記セラレタル勸告若ハ決議ノ實行ハ何レモ將來ニ懸ルモノナルガ故ニ各代表者ハ歸朝後夫々其ノ實現方ニ付努力スルコトトシ當館トシテモ伯國當局者ト協議ノ上天々實行ニ移ス様盡力シ度シト存ジ居レリ

同課長ニ任命セラレタル「アツフオンソ・アルメイダ・デ・ポルトガル」氏ハ曩ニ在本邦伯國大使館ニ勤務シ最近歸國シ目下外務大臣官房ニ勤務中デアルガ使節ノ接待ニ關シ殆ト全責任ヲ負ハシメラレタルモノノ如ク最初ハ地位聊カ低キニ失スルヤノ聲アリタルニ不拘善ク課員ヲ統制シ各省トノ連絡及各方面トノ接渉ニ於テモ最善ヲ盡シタルコトハ特筆ニ値スル

一、使節ト新聞

日本ヨリ有力ナ經濟使節ガ渡伯スルトイフ報道ガ一度傳ハルヤ伯國ニ與ヘタ反響ハ相當大キイモノガアツタ、而シテ此ノ反響ヲ最モ巧ニ利用セントシタモノガ例ノ一億弗借款說デアツタ、從ツテ使節ノ來伯前當地新聞又ハ通信社ニシテ使節ニ關スル「インタヴュー」ヲ求ムルモノハ一再ニ留マラナカツタ然シ使節ノ行動ト新聞トノ關係ノ極メテ機微ナルモノアルニ鑑ミ又伯國外務省側ノ好意的態度ヲモ考慮シ新聞並通信員ニ對スル關係ハ總テ當方監視ノ下ニ伯國外務省日本課ニ一任スルコトニ決シ使節着伯當時ノ「ステートメント」及其ノ後ニ行ハレタル新聞記者共同會見ノ場合ノ外ハ使節渡伯使命ノ説明、日本商工業ニ關スル「プロ

尙平生團長ハ協議會閉會ノ當日使節一行ノ視察研究ノ結果得タル結論ナリトテ伯國棉花ニ對スル詳細ナル所見ヲ發表シ伯國棉花ガ日本ノ紡績業ニ充分利用シ得ヘキモノナルコトヲ力說シ同時ニ伯國棉ガ國際商品トシテ具備セザルベカラザル必要條件ニ付親切丁寧ナル勸告ヲ試ミ之ヲ記錄ニ止メシメタル上伯國一般生産物ノ中日本ニ輸出シ得ベキ可能性アル各種商品ニ付テモ概括の所見ヲ發表スル所アリタルガ伯國側ニ於テハ今回ノ日本經濟使節ノ渡伯ヲ以テ伯國商工業ノ發展ニ貢獻スル所尠カラストナシ會議ノ終リニ當リ臨時外務大臣特ニ會議ニ參列シ閉會ト共ニ平生團長ニ對シ伯國勳章「コメンダドール・デ・オルデン・ド・クルゼイロ・ド・スール」ヲ授與シ其ノ勞ヲ稿フ所ガアツタ

一〇、外務省日本課ノ活動

伯國外務大臣「マツセード・ソアレス」氏ガ當方ニ對シ常ニ好意的態度ヲ維持シツツアルコトハ既ニ屢報告セル通りナルガ今回ノ經濟使節ノ使命達成ニ關シ同大臣ガ特ニ意ヲ用ヒタルコトハ使節到着數箇月前既ニ省内ニ日本課ナルモノヲ特設シ使節ノ接待、研究資料ノ蒐集、新聞操縱等凡ユル方面ニ對シ專ラ準備セシメタルコトニ依テモ知り得ベク

「パガンダ」等殆ンド總テ右日本課ヲシテ之ニ當ラシメタ右ハ素ヨリ日本課長以下同課員ノ總テト當館々員トノ間ニ完全ニ意氣投合セルコト及使節一行ガ着伯後漸次伯國側接待員ニ對シ腹藏ナキ信用ヲ置クニ至ツタ結果デアツテ之ヲ其ノ結果ニ照シ考量スル場合使節滯伯期間並其ノ前後ヲ通ジ相當長キ期間ニ亘リ我が使節ノ活動ニ對シ反對派ノ活動頗ル猛烈顯著ナルモノアリタルニ不拘大体ニ於テ使節ノ目的ヲ伯國一般ニ正解セシメ得タルハ新聞ニ對スル前記ノ方針ニ基因スル處尠カラサリシヤニ思考セラレリ

日本側ノ新聞デハ使節一行ガ着伯前船内カラ出シタ電報中ニ和田某ガ「毎日」ノ通信員トシテ紐育カラ同船シテ居ル趣報告ガアツタノミガアルガ時節柄同通信員ニハ出來ル丈ケ便宜ヲ與ヘ伯國ノ事情ヲ内地ニ傳ヘシメ度イトノ考量カラシテ特ニ之ヲ使節ニ隨行セシムル様取計ツタ同時ニ從來當地ニ居テ「朝日」ニ通信ヲシテ居ル近藤某ニモ和田ニ對スルト同様ノ待遇ヲ與フルコトヲ適當ナリト認メ本人ニ照會シタル處早速東京本社トノ諒解ヲ遂ゲ相當廣範圍ノ權限ヲ得タリトテ兩人トモ使節ト同行シ自由ニ活動スル處アリ伯國ノ新聞界トモ知り合ヒニナリ相互ニ益スル所ガ多カッ

タ様デアル

一二、經濟使節ト移民問題

今回ノ日本經濟使節ガ純然タル私的經濟使節デ移民問題ニハ何等關係ノ無イモノデアルコトハ使節ノ當初ヨリノ聲明デモ明カナル通りデアルガ移民問題ニ關スル排日派ハ勿論通商上ノ日伯接近ニモ利害相反スル分子ハ盛ニ反對ノ策動ヲ試ミ伯國ノ朝野モ此ノ使節ガ全ク移民ニ關係ナイモノトハ考ヘナイ様デアツタ從ツテ初ノ内ハ使節ノ來訪ニ關シテ移民問題ト經濟問題ハ別物デアルトカ商賣ハ商賣ナリ移民ハ移民ナリトカ日本經濟使節ノ目的ノ一ハ移民問題ノ好轉ニアリトカ移民問題ハ既ニ憲法ニテ定メラレタリ敢テ改訂ヲ許サズトカ切ニ移民問題ニ關シ豫防線ヲ張ツタ模様デアルガ使節ノ顔觸ガ全ク知名ノ實業家筋ナルト使節一行ガ全然移民問題ニ觸レズ單刀直入的二日伯通商關係ニ向ツタ爲日本側ニ移民問題ノ伏線アリトノ感じハ次第第二薄ライダ様デアル然シ「サン・パウロ」州デ同地ノ官民ガ寧ロ移民問題ニ觸レルコトヲ避ケ居リシニ反シ「ミナス」ノ州統領ガ特ニ公式ノ宴會デ日本移民歡迎ノ演說ヲ爲シ「バイヤ」州知事が殊更移民二十家族誘入ノ建議ヲ爲シ「リオ・グラン

デ・ド・スール」州統領ガ日本移民ヲ「リオ・グランデ・ド・スール」州ニ誘入スルニ手段ヲ擇バズトノ申込ヲ爲ス等今回使節訪伯ニ連レ移民問題ニモ多少觸ルル所アリタリ右ハ蓋シ一部伯國人ノ腦裏ニハ伯國新憲法ノ移民制限ハ日本人ニ酷ナリトノ考ヘガアル外從來ノ行掛リ上伯國ニ於テハ日本ト移民問題トハ殆ド別々ニ考ヘラレヌ様ナ空氣ニナツテ居ルコト又地方州政府ノ立場ヨリスルモ日本人ヲ自州ニ誘入スルコトニヨリ州ノ富力ヲ増進シ又日本ノ好感ヲ迎フルコトニ依ツテ通商ノ發展ヲ期シ度イトノ思慮モ手傳ツタノデハナイカト思ハレル

一三、使節訪問ノ結果

伯國人中日本經濟使節ノ來伯ヲ以テ移民問題好轉ニ對スル外交工作ナリトカ日本帝國主義ノ先驅ナリ等ノ理由ヲ設ケテ之ヲ排撃セントセルモノアリタルハ姑ク措キ今回使節來訪ノ結果日本ガ世界ノ最大棉花消費國ニシテ又最大ノ輸入國ナリトノ事實ヲ始メ日本商品ノ良質廉價ナルハ徒ニ排斥スベキモノニアラズトノ事實ガ相當廣汎ニ知レ亘リ又近代工業國トシテノ日本ノ實狀ヲ知ルニ從テ伯國ノ生産物ニシテ日本ニ輸出シ得ベキモノ少カラズ之レガ爲メ伯國側ニ於

テモ充分努力研究ノ要アリトノ考ヘガ伯國要路者ノ間ニ強マリタルガ如ク又我が使節トシテハ排日ノ聲ハ聞キタルモ一度伯國ヲ訪レバ世界ニ珍ラシキ居心地良キ國ナリトノ一般印象ヲ始メトシテ伯國棉花ノ重要性ヲ認識シ又伯國ガ從來日本ノ爲メ殆ド移民ノミノ對照物タリシハ誤リニシテ通商經濟上充分研究ノ餘地アリトノ印象ヲ深クシタル模様デア

ラ見テ採算ノ取レヌ様ナ狀態ニアツタガ爲メデアルガ既ニ伯國棉ノ有望性ニ關シ一行ノ意見ガ決定シタ以上其ノ大量買付ハ時機ノ問題ダト思ハレル

(付記)

日伯貿易ニ就テ

(欄外記入) 我國ト**ブルジル**トノ國交ハ日伯修交通商航海條約ガ締結セラレマシタ明治二十八年ニ始マリ、四十年ノ歴史ヲ有ツテ居リマスルケレドモ彼ノ國ハ恰カモ我が對蹠地ニ當リ海路一萬二千哩ノ遠距離ニ在リマスルタメ其ノ關係ガ稍々深密ニナリマシタノハ明治四十一年ニ最初ノ我が移民ガ渡航致シマシタ以來ノコトデアリマス

爾來**ブラジル**ニ於ケル本邦移民ノ數ハ年ト共ニ増加致シマシテ昨年十月一日ノ調査ニ據リマス**ブラジル**在留本邦人ノ總數ハ十七萬ヲ超エ世界中滿洲國ニ次ギテ帝國臣民ノ在留數最モ多キ地方トナリ而カモ夫レガ僅々二十五年間ニ行ハレタノデアリマス然ルニ他方貿易關係ニ於キマシテハ遲々トシテ進展ノ見ルベキモノナク最近漸ク我國ヨリノ輸出ヲ増加スルニ至リマシタケレドモ其額僅カニ三百萬圓ニ過ギマセン彼國ヨリノ

輸入ハ依然トシテ少額ニ止マリ昨年**ブラジル**棉花ガ約一萬俵輸入セラレタメ漸ク輸出ト同額トナリマシタサレバ日伯兩國ノ關係ハ移民ニ偏スルノ憾ガアリマシタ

昨年七月制定ノ**ブラジル**合衆共和國新憲法中ニ外國移民ノ入國制限ヲ規定スル一條項ガ挿入サレマシタ最初ノ提案ハ或ル人種ノ移民ヲ限り其ノ入國數ヲ制限セントスルモノデアリマシタガ新憲法中ニ採用サレマシタ規定ハ諸外國移民ニ共通スルモノデアリ各國何レモ過去五十年間ニ**ブラジル**ニ定住シタル移民總數ノ二分ニ相當スル數マデ毎年移民ヲ入國セシメ得ルコトニナツテ居リマス併シ我國ハ**ブラジル**ヘノ移民供給國中凡テノ國ヲ凌駕シテ最近第一位ヲ占ムルニ至リ最多數ノ移民即チ年二萬人以上ヲ渡航サセテ居リマシタ爲此ノ移民制限ノ打撃ヲ最モ強く受ケネバナラヌコトニナツタノデアリマシタ

日伯兩國ノ國交關係ガ大体斯クノ如キ狀態デアルノニ鑑ミマシテ私共ハ日本商工會議所ノ委囑ニヨリ經濟使節トシテ**ブラジル**ヲ訪問致シタノデアリマスガ其ノ目的ハ勿論兩國ノ貿易ヲ進展セシメ經濟的關係ヲ密接ニスルコトヲ主眼ト致シマシタト同時ニ此ノ好機會ヲ利用シテ間接ニ憲法ノ移民制限ヲ或

ヲ開キ棉花部、輸出商品部、輸入商品部、運輸部、金融企業部ノ五部門ニ分ケテ夫々關係各省ノ要人及實業家ヲ相手トシテ自由討議ヲ致シマシタ。其ノ結果私共使節ハ第一ノ目的タル此ノ南米ノ大農業國ニシテ且絶大ナル將來ヲ有スル**ブラジル**國ヨリ如何ナル工業原料ヲ日本ヘ輸入シ得ベキカニ就キマシテ十分ナル調査ヲ遂ゲマシタ上ニ又如何ナル工業製品ヲ我國ヨリ**ブラジル**ヘ供給シ得ルヤニ就キマシテモ相當ノ調査ヲ行フコトガ出來マシタ。コレ全ク**ブラジル**官民ノ特別ナル好意ニ因ルモノトシテ深く感謝シ且満足ニ存ジ居ル次第デアリマス

由來**ブラジル**ハ我國ノ所謂有識ノ士ノ間ニ於キマシテモ唯、漠然ト珈琲ノ產地デアリ且我移民ヲ求メテ之ヲ歡迎スル南米ノ大國デアルコトヲ知ル丈ケデ、**ブラジル**產棉花ノ將來ガ如何ニ大ナルカ又其ノ栽培ガ我ガ勤勉ナル移住民ト如何ニ密接ナ關係ガアルカ等ニ就キマシテハ寧ろ認識ヲ欠クヤニ見受ケラレマシタカラ私共ハ出發前ヨリ此ノ點ニ深く留意致シマシテ使節團ノ構成ニ就キマシテモ前述ノ通り棉花關係ニ重心ヲ置クコトト致シマシタ

由來伯國ニ於キマシテハ珈琲ノ生産及輸出ヲ以テ國家經濟

ル程度マデ緩和セシムル樣努力シテ見タイトイフニアリマシタ私共經濟使節ノ一行ハ東洋紡績ノ關桂三、大阪棉花商代表伊藤竹之助、大阪商船ノ渥美育郎、三井代表岩井尊人、三菱代表ノ奥野勁ニ私ヲ加ヘマシタ六名ヲ以テ組織セラレマシテ本年四月八日横濱ヨリ解纜、北米經由デ五月十六日**ブラジル**國首府リオデジャネイロ市ニ着キマシタガ**ブラジル**政府ハ特ニ國賓ノ禮ヲ以テ私共一行ヲ待遇致シ呉レマシタ。滞在約一ヶ月有餘ノ間、中央政府ハ申スマデモナク一行ガ或ハ全團或ハ二三組ニ分レマシテサンパウロ、ミナス・ジェラエス、ベルナンブコ、バイア、リオ・グランデ・ド・スール等ノ數州ヲ訪問視察致シマスルニ當リ豫想以上ノ鄭寧親切ヲ極メタル取扱ヲ受ケ又有ラウル便宜ヲ與ヘラレマシタ尙又離國ニ際シ團長タル私ニ「コンマンドール、ド、クロア、ド、シュツド」勳章ヲ贈ツテ我々ヲ犒ヒマシタ大統領ハ私共一行到着ノ翌日隣國アルヘンチナヲ公式訪問ノ爲メ出發セラレマシタガ其ノ出發間際ニ謁見ヲ許サレ其ノ後諸大臣、州知事、州政府各部長官其他ノ官憲及實業界ノ諸名士ト到ル處ニ於テ親シク會談ヲ遂グルノ機會ヲ得マシタ殊ニ最終ノ約一週間ハ外務省ニ於キマシテ日々協議會

ノ基本ト致シ居リ大イニ其ノ生産ノ獎勵ヲ致シ又之ガ管理ヲ致シ其ノ價格ノ維持ヲ計ツテ居リマシタガ、生産増加ト共ニ價格ノ低下ヲ免レマセン爲、政府ハ年々巨額ノ珈琲ヲ買上ゲテ焼捨テテ居リマシタガ、何分珈琲ハ獨り伯國ノミナラズ他國ニ於テモ生産致シテ居リマスカラ伯國ノ焼捨政策ガ却ツテ他國ガ價格維持ヲナスニ利用セラレ却ツテ其ノ増産ヲ刺戟スル結果トナリ、爲ニ伯國珈琲市場ヲ蠶食スルコトトナリ、遂ニ伯國珈琲ノ輸出ガ減退スル結果ニナリマシタ。一面伯國ハ從來盛シニ外債募集ヲナシ又外國人ノ投資ニ依リマシテ公共事業ハ勿論、多額ノ費用ヲ要スル事業ヲ經營シテ參リマシタガ輸出ノ減退ト軍事實費ノ増加ノ爲豫算ニ缺陷ヲ生ジ、利子スラモ支拂不可能ノ狀態トナリマシタ爲、最早ヤ外資ヲ募ルノ道ガ無クナツタ次第デ御座イマス。斯ル事情ノモトニ伯國ハ其ノ打開策トシテ何カ咖啡以外ノ他ノ國產ヲ求メテ之ヲ輸出シ、國際貸借ノ調節ヲ計ラネバナラナイ狀況ニ立チ至リマシタ。茲ニ發見セラレマシタモノハ伯國南部ノ棉花栽培デ御座イマス。此ハ日本人ガ拾數萬移住致シテ居リマスル「サンパウロ」州及ビソノ隣リノ「パラナ」州デ御座イマス。伯國政府ハ數年前ヨリ此ノ棉

花ノ栽培ヲ獎勵致シ、以テ今や菅ニ咖啡ニヨリテ失ハレタ所ヲ補足スルニ止マラズ更ニ進シ棉花ノ輸出ニヨリ財政ノ整理ヲ行ハントノ意圖ガアルシク現ニサンパウロ州ニ於キマシテハ棉花ノ統制ヲ行ヒ州政府ノ配付スル種子デナケレバ播種シテハナラヌト云フ法令ヲ布キ耕作害虫驅除其他一切ノ作業ヲ州政府ニ於テ指導監督シ全力ヲ擧ゲテ盛ニ其ノ生産ヲ獎勵シテ居リマシテ之ガ爲棉花ノ生産ハ寔ニ加速度ヲ以テ増大シツツアリマス併シ棉作及取扱ニ就テブラジル官民ハ共ニ經驗淺ク之ヲ國際商品トシテ處理スル點ニツキ智識體驗トモニ不十分ナ實情デアルト認メマシタカラ私共一行ハ其ノ栽培、繅棉、荷造、運送等各般ノ事項ニツキ適切ナル勸告ヲブラジル當局ニ致シテ參リマシタ

或ル米國人ノ統計ニ依リマスルト米國ニ於ケル棉作地域ハ四千萬「エーカー」ニ過ギザルモブラジルニハ棉作ニ適スル原始林地帯ガ實ニ二億「エーカー」モアリ然カモ其ノ内僅ニ五十分ノ一即チ四百萬「エーカー」ガ現在ノ棉作地積デアルトノコトデスカラ以テブラジル棉花ノ前途如何ニ洋々タルカヲ推察スルコトガ出來マセウ

昨年度ブラジルヨリ我國ヘノ輸入總額ハ僅ニ三百萬圓ニ過ギナ

カツタノデアリマスガ此ノ貿易額ハ棉花ノ輸入ノ増大ニ伴ヒ早クモ今年度ハ七八百萬圓ヲ突破スルラシク思ハレマス私共ハ日伯兩國貿易ノ新紀元ハブラジル棉花ノ取引ニヨリ劃セラルルニ至ルベク而カモ其ノ實現ハ遠キヲ出デザルモノト確信致シマス終リニ臨ミマシテブラジル官民ノ我國及在留同胞ニ對スル態度及感情ハ私共一行ガブラジル滞在中見聞致シマシタトコロ及ブラジル官民ト接觸シテ得マシタ印象ニヨリマスレバ極メテ親愛的デアリマシテ殊ニ在留同胞ハ好感情ヲ以テ待遇サレテ居リマスブラジルニハ移民制限ハアレドモ排日トカ抗日トカ名付クベキモノハ何モ無イト申スコトガ出來マセウ又其ノ移民制限ニ致シマシテモ棉作等ガ盛ンニナルニ伴レ勞力補充ノ必要ニモ迫ラレテ徐々ニ緩和セラルルデアラウト思ハレマス旁々日伯兩國ノ親交ハ年ト共ニ益々密接ヲ加フルノ一途ヲ進ムノミト存ジマス

(欄外記入)

昭和十年十二月五日 天皇陛下ニ御進講申上ケタル平生團長御進講草案

316

昭和十年七月十三日 在オランダ武富公使より
広田外務大臣宛

オランダにおける海運業救済法案について

普通第一〇二號 (8月15日接受)

昭和十年七月十三日

在蘭

特命全權公使 武富 敏彦(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

和蘭ニ於ケル海運業救済法案ニ關シ報告ノ件

本件ニ關シ客月六日附普通第八〇號往信ヲ以テ及報告置タル處蘭印ニ於ケル爪哇支那日本汽船会社トノ關係モアリ其後ノ狀勢注意ヲ要スル次第ナルカ當國議會及一般ノ輿論ハ本案ニ賛成ニシテ寧ロ政府案ニテハ不満足ナリトシ一層広汎且積極的救済ノ必要ヲ力説シ居リ本案ハ近ク可決ヲ予想セラル尙今般政府ハ第二院ニ於テ左記ノ通り政府ノ意嚮ニ關シ答弁ヲナシ居ルニ付何等御參考迄茲ニ報告ス

記

海運界ノ窮狀中其ノ原因カ國際的關係ニ基クモノハ國際間ノ協力ニヨルニ非サレハ之カ改善困難ニシテ政府ハ之カ爲

可及的國際間ノ協調ヲ計ル方針ナリ

政府カ夙ニ本救済ヲ行ヒタランニハ少額ノ救済金ニテ目的ヲ達シ今回ノ不況モ見ス且和蘭海運業ノ國際的地位ヲ維持スルヲ得タルヘシトノ意見ニハ賛成スルヲ得ス一般ニ和蘭海運業者ハ最近損失ヲ以テ營業ヲ續ケ居ル狀態ナルヲ以テ小額ノ救済金ヲ以テ之ヲ舊狀ニ復帰セシムルコト困難ナルノミナラス既ニ整理處分セル船舶ハ何レモ老朽船ニシテ之ヲ處分セサルニ於テハ更ニ損失ヲ重ネ一層多額ノ救済金ヲ必要トスヘカリシ筈ナリ

商船屯數ノ此ノ上減少防止ニ對シ保障ヲ與フルコト困難ナリ右減少ヲ防止スル爲ニハ商船ノ廃棄乃至売却ヲ禁止セサル限り不可能ナル處政府ハ此ノ如キ手段ヲ講スル意嚮ナシ政府ノ救済ハ減收ヲ或ル程度ニ止ムル上ニ效果アリ從テ必要資金調達ノ爲船舶ノ賣却ヲ防止スルコトヲ得ヘシ勿論政府ニ於テモ本案ニ計上セル救済金力不十分ナルコトハ認メ居ルモ右ハ一時且試験的計画ニシテ本年末ニ於テ更ニ必要ノ措置ヲ考慮スルコト、シ居レリ又現在海運業者ニハ商船新造ノ資力ナキコトニ對シ政府ニ於テモ充分考慮ヲ拂ヒ居ル所ナルモ現在ノ商船ハ尙当分使用ニ堪ヘ得ルモノト認メ

居リ之ニ對シ將來如何ナル救済策ヲ講スヘキヤニ關シテハ
今茲ニ言明スルコトヲ得サルモ本救済法適用ノ經過ヲ見テ
何等對策ヲ研究スル方針ナリ

尙本救済法ニ於テハ大体貨物船ニ對シ登録總噸數一千屯
ニ付一千盾、客船ニ對シ二千盾ヲ毎月支給スル計畫ニシテ
一千屯以上ノモノニ對シテハ百屯毎ニ更ニ増加スルコト、
ナリ例ヘハ八千屯ノ船ニ對シテハ貨物船二千二百盾、客船
五千七百盾ノ救済金ヲ支給スルコト、セリ

救済スヘキ海運業者ノ決定ハ当該会社ノ資産及存続性並ニ
重要性如何ニヨリ之ヲ決定シ其ノ他ニ就テハ各場合ニ付其
ノ都度之ヲ定ムヘシ

一千屯以下ノ船舶ハ實際上小規模ノ海運ニ従事スルモノト
認ムルヲ以テ原則トシテ之ニ對シテハ救済ヲナサ、ル方針
ナリ

政府ハ「アムステルダム」ト南米間ノ貨物航路ハ維持ノ必
要ヲ認メ目下右ニ關シ研究中ナリ右ハ「アムステルダム」
ト「ロッテルダム」兩港間ノ協調上必要且重要ナリ

北米トノ間ノ客船航路ハ一九三四年以來漸次堅実化シ蘭船
ニヨル輸送漸増ノ傾向アルハ欣快ナリ尙政府ハ「ホーラン

「シリヤ」ニ於ケル本邦品ニ對スル均等待遇ヲ拒否セムト
スルモノノ如ク見受ケラレタル處斯クテハ我對「シリヤ」
貿易ハ甚大ノ打撃ヲ受クルノ惧アルヲ以テ本年二月以來佛
國側トノ間ニ本邦品ニ對スル現在ノ均等待遇繼續方ニ付交
渉中ナルカ不取敢今日迄ノ本件交渉經過概要別添ノ通茲ニ
送付ス

本信送付先 大藏及商工各次官

(別 添)

「シリヤ」ニ於ケル本邦品待遇ニ關スル日佛間交渉經過
「シリヤ」ハ大戰ノ結果土耳其ノ羈絆ヲ脱シ一九二〇年ノ
「サンレモ」會議ニ於テ佛國委任統治地域トナレルモノニ
シテ其面積約六萬平方哩人口約二百八十三萬人アリ關稅制
度ハ複稅制度ヲ採リ最高稅率ハ普通稅率ノ二倍ニシテ聯盟
國及特別ノ協定ヲ有スル國ノ產品ニ對シ普通稅率ヲ、其レ
以外ノ國ノ產品ニ對シテハ最高稅率ヲ、適用シ居レリ、本
邦品ノ「シリヤ」輸出額ハ「シリヤ」ニ於ケル輸入總額逐
年漸減ノ傾向ヲ示セルニ拘ハラス一九三一年此方千三四百
萬圓程度ヲ維持シ居リ一九三二年以來本邦ハ佛英ニ次キ對

ド・アメリカ」汽船会社トノ間ニ客船新造ニ關スル協議成
立ヲ希望シ居レリ

海上曳船業ニ關シテハ救済方請求アル場合ハ政府ハ之ヲ研
究ノ上必要ト認ムルニ於テハ救済方法ヲ講スヘシ

内國航路ハ現在行ヒ居ル積荷ノ合理的配分ニ關スル規定以
外更ニ救済ヲナス意嚮ナシ

317 昭和10年7月17日 重光外務次官より
津島大藏次官「宛
吉野商工次官」

シリア向邦品待遇に関する日仏間交渉の経過 概要送付について

通一機密合第二九八八號
昭和十年七月十七日

外務次官 重光 葵

大藏次官 津島 壽一殿
商工次官 吉野 信次殿

「シリヤ」向邦品待遇ニ關スル日佛間交渉
經過送付ノ件

本年三月本邦聯盟脫退確定ト共ニ佛國ハ其ノ委任統治地域

「シリヤ」輸出國中第三位ヲ維持シ居レリ一九三四年一月
乃至九月ニ於ケル本邦「シリヤ」貿易ハ「シリヤ」輸入總
額約一億八千六十二萬圓ニ對シ本邦品輸入額一千八十七
萬圓ナルカ「シリヤ」ノ對本邦輸出額ハ「シリヤ」ノ輸
出總額約二千九十五萬圓ニ對シ僅々二百三十餘圓ニ過キ
ス

佛國側ニテハ本邦ハ本年三月聯盟脫退ト共ニ通商均等待遇
ノ保障ヲ失フモノナリトシ本邦品ニ對シ最高稅率適用スル
ニ至ル惧大ナルモノアル處斯クテハ邦商多年ノ苦心ニヨリ
今日ノ盛況ヲ見タル我カ對「シリヤ」貿易ニ對シ一大打撃
ヲ與フルニ至ルヘキヲ以テ昨年十二月以來在佛大使ヲシテ
本問題ニ對スル佛國側ノ意向ヲ探查シ正式交渉ノ緒口ヲ求
メシメツツアリタル處「シリヤ」輸出入商ハ聯盟脫退期日
切迫ト共ニ最高稅率ノ適用ヲ見越シ新規取引ヲ差控ヘタル
ヲ以テ本邦當業者ハ極度ノ不安ニ驅ラレ放置シ難キ狀勢ト
ナレリ茲ニ於テ我方ハ取急キ聯盟脫退期日以前ニ本件解決
ヲ圖ルコトトシ二月上旬在佛大使ヲシテ佛國側ニ對シ本邦
ハ主タル同盟及聯合國ノ一トシテ「シリヤ」ニ於ケル佛國
委任統治地域設定ニ直接貢獻シタルニ鑑ミ之カ設定ニ何等

ノ權原ヲモ有セサル平聯盟國ニ劣ル待遇ヲ甘受シ難キヲ以テ從前通り均等待遇ヲ與ヘラレタキ旨申入レタル處先方ハ本邦ノ聯盟脫退確定ノ曉ハ法律上本邦品ニ對シ均等待遇ヲ與フル義務無キヲ以テ自動的ニ最高稅率適用シ得ヘシトノ解釋ヲ執ルモノナルモ政治的見地ヨリ本邦ノ希望ニ應シ主義上現在ノ待遇ヲ變更セサル意向ナルカ「シリヤ」ニ於テハ現在ノ輸入超過ヲ調整スル爲將來聯盟國產品ニ對シテモ割當制度ヲ適用シ其輸入ヲ「シリヤ」品買付額ニ比例セシメタキ意向ヲ有スル位ナレハ日本ニ對シテモ無償ニテ均等待遇ヲ與ヘ難キニ付日本側ニ於テ「シリヤ」品ヲ買付ケラレタク此目的ヲ以テ協定ヲ遂ケ片貿易ヲ調整シタキ考ナル處問題ノ性質上現地交渉ヲ適當トスルニ付「ベールート」ニ委員ヲ派遣セラレ直接「シリヤ」經濟當局ト協議セラルルコトト致度キ旨申出テ三月二十六日附ヲ以テ三月二十七日ヨリ向フ二ヶ月間現在ノ待遇ヲ延長セリ

我方ニ於テハ均等待遇ノ對償トシテ「シリヤ」品買付ヲ約スルコトハ我カ委任統治ニ關スル根本主張ト相容レサルモノニシテ絶對ニ受諾ノ餘地ナキモ日本「シリヤ」間現下ノ片貿易調整ノ爲我方ハ「シリヤ」品ノ買付方ヲ研究スヘキ

における邦品待遇に関する協定案について

通一機密第七七五號

昭和十年七月二十四日

外務次官 重光 葵

商工次官 吉野 信次殿

「シリア」ニ於ケル本邦品待遇ニ關スル日佛交渉ニ關スル件

本件交渉ノ經過ニ付テハ曩ニ通一機密合第二九八八號往信ヲ以テ報告シ置キタル通ナルカ其後巴里ニ於テ非公式ニ談合ヲ續ケタル結果佛國外務省トノ間ニ大体左記趣旨ノ實際的協定案ヲ得タルカ右協定案ニ對シテハ佛國商務省方面ニ異議アル模様ナルノミナラス佛國外務省ニテハ未タ之ヲ「シリア」側ニ内示シ居ラサル趣ナレハ本件協定成立迄ニハ尙ホ幾多ノ曲折アルモノト思考セラルル處貴省ニ於テモ本件ニ付篤ト御研究相成リ貴見御回答相成様致度シ

記

一 日本ニ對「シリア」輸出組合ヲ設立ス
二 右組合ハ「シリア」向日本商品ノ原產地證明ニ査證ヲ與ヘ手数料ヲ徴收ス

ニ付其間現在ノ待遇ヲ維持スル様申入ルルト共ニ在佛千葉書記官ヲ「ベールート」ニ派遣シ「シリヤ」當局者ト下協議ヲ爲サシムルコトトセリ

同書記官ハ五月十七日「ベールート」著以來佛國高級委員府當局者ト談合シタル結果兩者ノ間ニ左ノ試案ヲ作成セリ日本側ニ於テハ對「シリヤ」輸出ノ統制(量ノ統制ニアラス)ヲ行フコトトシ此目的ヲ以テ(イ)原產地證明書ノ査證機關ヲ設ケ(ロ)査證ナキ商品ニ對シテハ「シリヤ」側ニテ最高稅率ヲ適用スヘク(ハ)査證料金ハ「シリヤ」品買付獎勵資金ニ充當スヘク(ニ)本試案實施ノ爲日本品ニ對スル現在ノ待遇ヲ本年十二月末日迄延長スルコト等トス。

而シテ引續キ巴里ニ於テ右ヲ基礎トシテ協議ヲ進ムルコトトシ同書記官ハ六月一日「ベールート」ヲ引揚ケタリ。尙佛國側ハ本邦品ニ對スル均等待遇ヲ七月二十六日迄延長セリ。

318 昭和10年7月24日 重光外務次官より
吉野商工次官宛

仏国外務省との非公式談合の結果得たシリア

三 右手數料ヲ從價何分ト定ム

四 右證明アル日本品ハ「シリア」ニ於テ最低稅率ノ適用ヲ受ク

五 手数料ハ全部日本ノ「シリア」品購入獎勵資金ニ當フ右資金ハ(七)ノ(B)項ニ規定ノ委員會ニ依リ同項ノ規定ニ從ヒ運用セラル

六 日本諸港ニ於ケル「シリア」品C I Fノ値段カ同種他國產品ノ値段ヨリ高價ナル場合ハ「シリア」品輸入者ニ對シ右差額ヲ補償ス

七 前諸條ノ規定適用ノ爲

(A) (一)ノ組合ハ必要ト認ムル諸港ニ査證機關ヲ開設ス
(B) 日佛政府ノ各代表及兩國民間代表者ヲ以テ組織セラルル混合委員會ヲ夫々東京及「ベールート」ニ設立ス
右委員會ハ本協定ノ履行ヲ監督ス

「ベールート」委員會ハ獎勵金ヲ受クヘキ「シリア」品ノ「シリア」諸港ニ於ケルF O B價格ヲ査定シ東京ノ委員會ハ右「シリア」品ノ日本諸港ニ於ケルC I F價格ヲ査定ス

「ベールート」委員會ハ「シリア」品ニシテ後述(ハ)ニ規

定スル獎勵金ヲ受クヘキ商品ニ對シ查證ヲ與ヘ積出ノ期日ヲ確認ス

東京委員會ハ「ペイルート」委員會發給ノ查證ニ基キ獎勵金ノ支拂ヲ命令シ且速ニ「ペイルート」委員會ニ之ヲ通知ス

尙兩委員會ハ本取極ノ履行ヲ容易ニシ且日本「シリア」間ノ貿易ヲ助成スル爲意見ヲ政府ニ上申ス

ハ兩國政府ハ六ヶ月間毎ニ^(ハ)ノ獎勵金ヲ受クル「シリア」品ノ品目ヲ定メ之ヲ兩委員會ニ通告ス

九 本取極ハ署名ノ三ヶ月後ニ實施ス

取極實施前日本ヨリ積出サレ實施後「シリア」ニ到着シタル日本品ハ便宜「ペイルート」ニ於ケル組合ノ代表者^(イ)ノ無キ場合ニハ「ペイルート」委員會ヨリ^(ニ)ノ查證ヲ受ク

三 本取極ノ有効期間一ヶ年其ノ後一年毎ニ暗黙ニ更新セラル

各政府ハ六ヶ月ノ豫告ヲ以テ他方ニ對シ本取極ノ修正又ハ之ニ代ルヘキ制度研究ノ爲交渉開始ヲ申込ムコトヲ得

備考

(ニ)山羊(塩)二萬打 一打當リ六五法

319 昭和10年7月31日 在アレキサンドリア天城總領事より
広田外務大臣宛(電報)

日本綿布輸入量制限に関するエジプト大蔵大

臣の内話について

アレキサンドリア 7月31日後発
本 省 8月1日前着

第七二號

貴電第二三號ニ關シ

其ノ後主務大臣等ト意見ヲ交換シ先方ノ希望ヲ探リ居ル處埃及側ハ來週其ノ提案ヲ爲ス可シトテ其ノ内容ヲ秘シ居レルカ大蔵大臣ハ左ノ趣旨ヲ語レリ

埃及側ハ國產ト競争スル種類ノ日本綿布輸入量ヲ限定セントスルモノニシテ或物ニ付テハ四割又ハ五割位ノ數量ニ制限シ度キ意嚮ナリ而シテ日本品制限ノ結果當然起ルヘキ他ノ外國品ノ侵入ヲ防止スル目的ニテ關稅率ヲ高ムル積リナリ又新協定ノ期間ヲ三年位トシテ國內紡績ノ生産ヲ漸次二、三年ノ内ニ増大シ(之ニ應シ漸次日本品ヲ制限ス)

協定案中ノ^(ハ)ハ佛國外務省係官ニ於テ日本ヘ輸入セラル

ル「シリア」品全部ニ對シ獎勵金ヲ與フルコトハ種々ノ困難アルヘキヲ以テ日本ニテ實際需要アリト認メラルル一定品目ニ限り獎勵金ヲ與フルコト、シ度キ旨提議シタルニ依リ挿入スルコト、ナリタルモノニシテ先方ハ先ツ棉花皮類「ゴールナツツ」ノ三品ニ限ラントスル意嚮ノ如ク右三品ノ明年度輸出能力ニ關スル「シリア」官廳ノ豫想左ノ通ノ由(數量ハ輸出全能力ノ見積、價格ハ「シリア」FOB)尤モ獨逸ノ買付多大ナルヘキ見込ナル趣

(一)棉花(「テキサス」種)四千噸一打當リ四法五〇

(二)「ノア、ド、ガル」二百五十噸一打當リ

(イ)黑七法

(ロ)白五法

(ハ)綠四法二五

(三)皮類

(イ)小羊(丸剥、鞣ササルモノ)三十萬枚一枚當リ九法

(ロ)羊(塩)六萬枚重量ニテ二百三十萬疋一疋當リ二法

五〇

(ハ)小山羊(丸剥、鞣ササルモノ)八千打一打當リ四五法

先年購入ノ機械(約三十萬鎊)ヲ全部運轉シ度キ意嚮ナリ云々

埃及側案ハ生地及晒(特ニ生地)ヲ大ニ制限シ來ルモノト思考ス

尙「フイラチュール、ナシヨナル」支配人ノ黒木ニ語レル所ニ依レハ國產ハ現在四千萬碼ニシテ政府ハ數年内ニ之ヲ倍加シ度キ意嚮ト思ハルトノコトナリ

又「ミスル」紡績専務ノ談トシテ新聞ノ報道スル所ニ依レハ國內紡績増產計畫左ノ通

一九三四年 四千萬碼

一九三五年 五千五百萬碼

一九三六年 八千萬碼

右不取敢

320 昭和10年8月1日 在アレキサンドリア天城總領事より
広田外務大臣宛(電報)

エジプト側による日本綿布輸入制限に対し前年度の我が方実績に基づく二対案につき意見
具申

アレキサンドリア 8月1日後発
本 省 8月2日前着

第七四號

往電第七二號ニ關シ

本官カ商工省英人顧問ニ對シ試ミニ昨年ノ日本輸入綿布ノ五分ヲ減スレハ國產ハ二割五分ノ増產トナルヘク一割ヲ減スレハ國產ハ五割ノ増產トナルヘシ綿布及綿ノ増減ハ同一比率ヲ以テスルカ公平ナリト述ヘタル處同顧問ハ未タ問題ニ立入ルコトヲ避ケ埃及側ノ案ハ貴官ノ案ト大ナル開キアリト語レリ

埃及側ハ相當大ナル日本綿布制限案ヲ提出シ來ルモノノ如シ我方差當リノ提案トシテハ

第一案、本年一月乃至五月ノ日本綿布輸入量ハ昨年同期ニ比シ五百萬平方メートル増加シ居ルカ我綿布輸入量ヲ一九三四年ノ數量ニ留メ綿ノ購入量ヲ一九三四年ノ額トス
第二案、昨年ノ日本綿布輸入ヲ基準トシテ初年度七百五十萬平方メートル減（國產ヲ四千萬平方メートル見テ二割二分四厘増產）第二年千萬又ハ千五百萬減（國產三割又ハ四割四分八厘増產）トシ棉花購入ヲ同比率ニテ減少ス

322

昭和10年8月7日 来栖通商局長より
岸（信介）商工省工務局長
石渡（莊太郎）大藏省主稅局長宛

自動車工業法要綱案に關しては既存の通商条約との關係および対米關係の観点から問題ありとの外務省見解について

付記一 昭和九年十一月五日付、作成局課不明
「自動車工業確立方策ニ關スル件」
二 昭和九年十二月一日付、作成局課不明
「自動車工業確立方策ニ關スル件」

通一機密合第三二〇五號

昭和十年八月七日

外務省通商局長 來栖 三郎

商工省

工務局長 岸 信介殿

大藏省

主稅局長 石渡 莊太郎殿

自動車工業法要綱（案）ニ關スル件

（欄外記入）
本件ニ關シ貴省ヨリ當省側ノ意嚮御照會アリタルニ付茲ニ別紙ノ通外務省トシテノ意見申進ス

ノ如キモノヲ考ヘ得ヘシ御研究請フ埃及ノ國產ヲ二三年ノ中ニ倍加スルコトハ其ノ購入機械ノ數量ヨリ見レハ可能ト認メラレサレトモ前記ノ如キ案ハ埃及側ヲ満足セシメ得ルモノト思考シ居ラサルモ當初ヨリ埃及ノ希望ニ近キ案ヲ出ス必要ハナカルヘシ

昭和10年8月2日 在アレキサンドリア天城總領事より
広田外務大臣宛（電報）

エジプト側による日本綿布輸入制限への対案
として提示した二案の折衷案について

アレキサンドリア 8月2日後発
本 省 8月2日前着

第七六號

往電第七四號第一案ヲ第一年度トシ（本年五月迄ノ日本綿布輸入増加ノ趨勢繼續スルモノト假定スレハ本年ハ昨年ニ比シ凡ソ一千萬平方メートル輸入増加ナルヘキカ之ヲ國產ノ爲犠牲トスレハ國產ハ約三割ノ増產トナルヘシ）第二案ヲ第二年度以下トスル案モ考ヘ得ヘシ爲念

本信送付先 商工省工務局長
大藏省主稅局長

（別紙）

自動車工業法要綱（案）ニ對スル外務省意見

本案ヲ通商條約及在外邦人企業トノ關係竝對外關係ノ二點ヨリ検討セム

一 通商條約及在外邦人企業トノ關係

（イ）本案第一項及第二項ハ規模ノ大ナル自動車製造業ハ之ヲ許可營業トシ該許可ハ日本國ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ニシテ且日本臣民ノ支配權ノ下ニアル株式會社ニノミ之ヲ與ヘムトスルニアル處本案ニ最モ深キ關係アル米國ト本邦トノ通商條約ニハ米國會社ト日本會社トノ間ニ又ハ日本臣民ノ支配權下ニアル會社ト米國人ノ支配權下ニアル會社トノ間ニ待遇同一ニスルコトヲ要スル旨ノ規定ナキノミナラズ日米通商條約第七條第二項ノ規定ニ鑑ミ本案第一項及第二項ハ條約ノ文理解釋上ヨリスレバ條約違反ナリトハ云ヒ難シ。然レドモ日米通商條約其他本邦ト諸國トノ條約ニ於テハ個人ノ商業及製造業ニ關

シテハ現ニ内國民待遇ヲ相互ニ保障シ居リ而シテ現今ノ經濟活動ノ大半ハ會社組織ニ依ルモノナルニ顧レバ斯ル國ノ會社ヲ日本會社ニ比シ又ハ米國人ノ支配權下ニアル會社ヲ日本臣民ノ支配權下ニアル會社ニ比シ商業又ハ製造業ニ關シ不利ニ差別的待遇スルガ如キハ條約上ノ精神ニ扞格スルノミナラズ、本邦ニ於テ之ヲ敢行スル以上、本邦ト右ノ保障アル條約ヲ有スル諸外國ニ於テ同様ノ制限措置ヲ採ルコトアルモ本邦ヨリ抗議シ得ザルニ至ルベク在外邦人ノ權益ハ今後本制度ノ爲勢カラズ危險ヲ負フコトヲ覺悟シ置カザルベカラズ（蘭印ニ於ケル營業者ノ資格、其他米國、比律賓、加奈陀等ニ於ケル邦人企業ニ對スル制限ニ想到シ得ベシ）

(ロ) 次ニ本案ノ第三項租税ノ免除ハ本案第一項ニヨリ許可ヲ受ケタル自動車工業即チ日本臣民ノ支配權下ニアルモノニ限り之ヲ供與シ本案第五項ニヨリ方針決定當時ノ現存範圍内ニ於テ其事業遂行ヲ許容セラレタルモノ即チ現實ノ問題トシテハ「フォード」自動車會社ニハ之ヲ供與セザル趣旨ナリト解セラルル處日米通商條約第一條第二項ニ規定セル課金租税ニ關スル内國民待遇ノ保障ハ法人ニ

及バザルモノト主張シ得ザルニアラザルヲ以テ同條項ノ文理解釋トシテハ或ハ差支ナカルベキモ帝國政府ニ於テ右樣解釋ヲ主張スルトキハ米國ニ於テ營業ニ從事シツツアル日本法人例ヘバ三井物産會社日本郵船會社等ノミナラズ日本臣民ノ支配權下ニアル米國會社ニ對シ米國政府ガ租税ニ關シ不利ナル差別待遇ヲ與ヘタル場合ニ於テモ條約上ヨリ之ヲ抗議スルコトヲ得ザルニ至ルベシ

ニ、對外關係

本制度ニ依リ最モ利害關係アルハ米國ナルガ同國ニ對シテハ曩ニ石油業問題ニ關シ相當其ノ神經ヲ刺戟シ居レル關係上本制度ニ依リ再ビ其ノ資本及製品ニ抑壓ヲ加フルハ日米關係ノ大局ヨリ慎重考慮ノ要アリ特ニ本制度ヲ實行スル場合ニ於テモ外國人ノ支配權下ニアル會社ノ既得ノ利益ハ之ヲ尊重スルコト諸般ノ觀點ヨリ必要ナリ本案第五項ハ右既得ノ利益ヲ認ムルノ趣旨ナリトセバ本第五項ヲ修正シ日本臣民ノ支配權下ニアラザル會社ト雖現在範圍ニ於ケル既得ノ利益ハ之ヲ認ムルノ趣旨ヲ明確ニスルコトヲ要ス

要スルニ本案ヲ此儘實行セムトセバ在外邦人ノ企業ノ將

來ニ對シ大ナル危險ヲ伴フモノナルコト竝日米關係ニハ石油業問題同様刺戟ヲ與フベキ虞アルコトヲ覺悟シ置クヲ要スルト共ニ法律案作成ニ當リテハ日米通商條約ニ違反セザル様周到ナル注意ヲ拂フコトヲ要ス

(欄外記入)

別紙意見ハ既ニ大臣及次官ノ決裁ヲ經タルモノナリ

(付記一)

(昭九、一一、五)

自動車工業確立方策ニ關スル件

昭和九年十一月五日商工省商務局坂工政課長通商局第一課長來訪本問題ニ關シ説明セル處要旨左ノ如シ

昭和六年自動車工業確立委員會組織セラレ本問題ヲ審議シタルカ當時本邦關係工業ノ發達見ルヘキモノナク大衆車（フォード、シボレー級ノ車ヲ指ス）ノ製造ニ關スル限リ外國産ニ依存スルノ外ナシトノ意見ニシテ差當リ中級車（二屯乃至二屯半ノ車）ノ製造ノミヲ助長スヘシトノ結論ニ達シ右關係自動車及部分品ノ關稅ヲ引上クル他方其ノ製

造會社ニ對シ助成金ヲ交付スルコトナレリ然ルニ關係事業會社ノ設置計劃遲延シ又補助金モ一般豫算ノ關係上充分ニ支給スルコト能ハス其ノ事業開始ハ遲延シ助成金モ昭和八年度ヨリノ年額約十三萬圓程度ヲ支給シ居ルニ過キス現在自動車製造ニ從事シ居ル本邦會社ハ瓦斯電氣、自動車工業ノ二社ナルカ未タ其ノ製造車ニハ故障多キ等ノ缺點アリ更ニ助長策ヲ講スルニ非レハ其ノ大成ヲ期シ難シ現在本邦ニ於ケル自動車ノ需要額ハ一年ニ付約二萬五千臺見當ナルカ日本會社ノ發達ヲ計ランカ爲ニハ需要少キ中級車ノミニテハ見込ナク大衆車ノ製造ニ移ルコトヲ必要トス現在ニテハ本邦會社産ハ外國車ニ對シ其ノ「コスト」高ク又部分品ノ一部ニ付テハ外國ノ供給ニ待ツノ必要アルモ我國ニ於テモ大量製産ヲ爲スニ於テハ其ノ「コスト」ヲ切下ケ又總テノ部分品ヲ作製シ得ルニ至ルノ自信アリ自動車ハ軍事上極メテ重要ナルヲ以テ陸軍省ニ於テハ豫テヨリ其ノ確立ヲ希望シ居リタルカ本年四月下旬ヨリ陸軍省ノ希望ニ基キ陸、商、藏、鐵、内ノ諸省並資源局ノ關係官參集シ十數回ニ亘リ會議ノ結果一應別紙ノ如キ案ヲ作成スルニ至リタル處本件ニ付テハ外國會社及植民地ノ關係ニ付テモ考慮スル必要

アルヲ以テ來ル七日之等諸省ノ關係局長ノ參集ヲ求メ協議ヲ爲スコトシタルモノナリ

本案ノ内容ニ付テハ未タ關係省間全部ニ付完全ナル意見ノ一致ヲ見タリト云フ程度ニ達セサル次第ナルモ其ノ概要凡ソ左ノ如シ

一、自動車ノ組立及主要部分品ノ製造ヲ許可事業トスルコト外國會社ノ競争アル限り本邦自動車業ノ確立ヲ期シ難キニ付外國會社ニ對シテハ過去三四年間ノ平均數量即チ約一萬五千台（但シ本年ハ其ノ數量多ク八月末ニ於テ一萬八千台ニ達シ居レリ）ヲ割當テ其ノ製造ヲ許可スルコトトシ殘リノ一萬台ハ本邦會社ニ割當テントスルモノナリ現在三井（豐田トノ協同事業トスル見込）川崎車輛相川等ニ於テ本事業ヲ計畫シ居レリ尙三菱ニ於テモ内々本問題ヲ考究シ居ルモノノ如シ

本事業ハ大量生産ト爲スニ非サル限り其ノ「コスト」ヲ切下クルコト困難ナルヲ以テ政府ニ於テハ二三ノ會社ノミニ其ノ製造ヲ許シ大量生産ヲ可能ナラシムル考ナリ之カ爲大衆車ノ製造業者ニハ一定期間ヲ限り一定輛數ノ自動車ノ製造設備ヲ爲スノ義務ヲ負ハシムル考ナリ

ニ定ムル考ナリ

尙右ノ内補助金ノ支給ニ付テハ大藏省ニ於テ財政上之ニ同意シ難シト爲シ居ルヲ以テ其ノ實現性乏シク又地方税ノ免除ニ付テハ内務省側ニ於テ代リノ財源ヲ供給セサル限り之ニ同意シ難シト爲シ居ル趣ナリ然ルニ需要者側タル鐵道省ニ於テハ補助金ヲ支給シ國產車ノ價格ヲ低廉ナラシメサル限り國產車ノ使用困難ナリト爲シ居ル趣ナリ

三、其ノ他ノ施設
前記ノ外

(イ)自動車部分品又ハ素材ノ製造ヲ助成スル爲試験研究期間ヲ創設スルコトナリ居ル處右ハ本邦製部分品及素材ニ對スル一般ノ信用低キヲ以テ權威アル機關ニ依リ試験ヲ行ヒ其ノ信用ヲ嵩メ其ノ需要ヲ喚起セントスルニ在リ

(ロ)自動車及其ノ部分品ノ關稅改正ニ付テハ現在ノ三割五分ヨリ五割ニ引上クル考ナリ差當リハ從來通り相當數量ノ輸入アルヘキヲ以テ右關稅引上ニ依リ相當ノ收入ヲ上ケ得ヘク補助金ノ財源トモ成ルヘシト思考シ居レリ

(ハ)自動車ノ素材工具等ノ供給ニ關シテハ八幡製鐵所等ニ於テ多少ノ犠牲ヲ忍ヒ之ヲ製造シテ其ノ供給ヲ潤澤ナラ

ニ本邦自動車工業確立ノ爲ニハ當分ノ内補助ヲ必要ト思考ス現在外國會社ハ三千二百圓程度ニテ販賣シ居ルモ我國ニ於テハ四五千圓程度ハ掛リ居レリ助長ノ方針トシテハ

(イ)官公署其ノ他ニ於ケル國產車ノ採用強制
(ロ)助成金ノ交付
(ハ)低利資金ノ融通
(ニ)所得稅^(タリ)ハ營業稅等ノ免除
(ホ)必要ナル機械設備又ハ材料ノ輸入稅免除

等ヲ考究シ居ルカ之等ノ特點ハ日本會社又ハ日本資本金五一%以上ヲ占ムル會社ニ對シテノミ與フル考ナリ右ニ關シテハ内外會社ノ差別待遇ニシテ之ヲ不可ナリトスル理論アランモ軍部側ニ於テハ自動車製造ノ如キ重要産業ヲ外國人ノ「コントロール」ノ下ニ置クコトハ危險ナリトシ強硬ナル意見ヲ有シ居レリ形式上右差別待遇ヲ根據トスル反對ヲ避クル爲會社ノ資本ニ依ル區別ハ避ケ一定ノ規格ヲ定メ右規格ニ合致スル車ヲ製造スル會社ノミニ補助ヲ與フルコトトシ右規格ハ本邦會社製品ニハ適合スルモ外國會社ニ於テハ之ニ適合セシムルコト困難ナル様

シメントス

(ニ)尙自動車工業ハ其ノ發達日進月歩ニシテ常ニ之カ審議研究ヲ行フ必要アルヲ以テ自動車工業委員會ヲ設置シ度キ考ナリ云々

右説明後當省關係官ヨリノ質問ニ對シ左ノ如キ説明アリタリ

(イ)日本ゼネラルモータート相川ノ提携問題ハ今尙進捗中ニシテ日本側資本五一%トスル事業トシテ結局成立スル見込アリ

(ロ)自動車ノ主要部分品ニ付テハ現在未タ其ノ能率不充分ノ嫌アルモ大衆車ノ製造ヲ爲スニ至ラハ充分之ヲ改善シ其ノ供給ヲ困難ナラシメサルニ至ルモノト思考シ居レリ

(ハ)「フォード」ノ自動車工場設置計劃ニ付テハ差當リ之ヲ阻止スルコト困難ナルヘキモ本案カ法律化セラレタル場合ニハ其ノ製造數ヲ制限スルコトナルヘシ其ノ場合右製造數量中ニハ輸出用ノ分モ包含セシムル考ナリ本邦國產車ノ單價切下ノ爲大量生産ヲ必要トスルヲ以テ我會社ハ一萬臺ノ製造ヲ以テ足レリトセス更ニ大量ノ生産ヲ爲

シ輸出ニ進ムコト必要ナリ

(二)「フオード」ノ計劃ニ付テモ後藤市藏氏ヨリ合同事業ト爲ス様提議ヲシタルコトアル趣ナリ

(ホ)外國會社ニ設備ヲ爲サシメ戰時之ヲ徵發スル手段アルカ如シト雖モ自動車ノ主要部分品作製ニ付テハ外國側ニ於テ容易ニ之ヲ本邦技術者ニ洩ラササルヘク又非常時ニ際シ外國人力製造機械ノ主要部分品ヲ破損シ其ノ運轉ヲ不可能ナラシムルカ如キコトアルヘキヲ以テ是非共日本側資本ヲ二分ノ一以上トスル要アリトノ陸軍側主張ナルカ商工省技術官ニ於テモ自動車工業ニ關シテハ右意見ハ必スシモ杞憂ニ屬スルモノナラスト爲シ居レリ

(新納ノ私見)

一、自動車ニ付關係ヲ有スル國ハ米國ナルカ日米通商條約ニ於テハ會社ノ營業ハ夫々自國ノ法律ニ依ルコトナリ居レルニ付許可營業ト爲スコトニ付テハ條約論トシテハ之ヲ是認スル議論ヲ立テ得ル次第ナルモ從來營業ヲ許サレタル會社ノ既得ノ利益ニ付テハ充分之ヲ尊重スルコトヲ要スヘク又米國ノ本邦ニ對スル重要輸出品ハ棉花ヲ除ケ

ハ石油ト自動車ナルニ既ニ石油ニ關シ重大ナル制限ヲ加ヘ國際關係ニモ惡影響ヲ及ホスノ惧アル今日ニ於テ更ニ自動車工業迄モ壓迫スルニ於テハ愈々事態ヲ惡化セシムルニ付本案ニ對シテハ贊意ヲ表シ難キモノト思考ス

二、陸軍側ノ議論ノ如キハ寧ロ杞憂ニ屬スルモノニシテ外國自動車工場ノ管理ニヨリ我方ノ目的ハ之ヲ達成シ得ルモノト思考ス

三、石油業問題ニ付内外會社ノ差別待遇ハ條約上違反ナリト主張シ其ノ儘トナリ居ル處右ニ付テハ條約上違反セズトノ議論モ立テ得ル次第ナリ然レ共條約違反ニ非ズトノ議論ヲ他ノ省ニ示ストキハ一層此種ノ計劃ヲ促進スルコトナルヘク又其ノ議論ヲ外國ニ對シテ爲スノ必要ヲ生シタルカ如キ場合ニ於テハ本邦商社ノ海外活動ニモ惡影響ヲ及ホスコトナルヘキニ付テ議論ハ外部ニハ示ササルコト必要ナリト思考ス

四、自動車ニ付テ現在國定稅率從價五割又自動車部分品ニ付テハ同上四割二分ナリ居ル處佛蘭西トノ間ニ協定稅率アリ右兩品共ニ實際上ハ夫々從價三割五分ヲ課スルコトナリ居レリ補助金、戻稅等ヲ協定稅率品目ニ與フルコ

トニ付テハ大正八九年頃鐵ニ關シ英國トノ間ニ問題ヲ生シタルコトアル趣ナリ此ノ點ニ付テハ別ニ調書ヲ作成スヘシ

(付記二)

(昭和九年十二月一日)

自動車工業確立方策ニ關スル件

自動車工業確立方ニ關シ陸軍省側ノ希望ニ依リ本年四月以來陸、商、藏、鐵ノ諸省及資源局ノ關係官參集シ方策ノ研究ニ當リ十月末別紙^(省略)ノ通ノ案ヲ作成シタルカ該案ハ必スシモ前記諸省ノ意見ノ一致ヲ見居ルモノニ非サルモ外國會社及植民地ノ關係アルノ故ヲ以テ該案ヲ審議スル爲ノ十一月七日ノ前記諸省關係會議ニ初メテ外務省側及拓務省側關係官ノ參列ヲ求メ來レリ

右十一月七日ノ會議ニ於テモ關係省ノ意見容易ニ一致セザリシカ陸軍商工兩省ニ於テハ今後關係官ノ間ニ會議ヲ續行スルモ依然トシテ意見ノ相違ヲ調和セシムルコト困難ナルヘキニ鑑ミ臨時議會終了後本案ヲ陸軍大臣ヨリ閣議ニ於テ説明シ之ヲ採否ノ決定ヲ求ムルコトニ話合アリタル趣商工

省係官ヨリ通報アリタリ

仍テ外務省側^(省略)ノ見地ヨリ本案ヲ檢討スルニ左ノ如シ

本案ノ二大骨子ハ自動車製造業ヲ許可事業トセムトスルコト(案ノ一參照)及特許會社及其ノ製品ニ對シ諸種ノ便宜及特惠就中補助金ヲ附與セムトスルコト(案ノ四參照)ノ二點ニアリ

(一)通商條約上及對外關係上ノ考察

目下ノ本邦對外情勢ヨリ考察シ假リニ公正ナル條件ノ下ニ於テ外國人企業又ハ外國會社ヲ差別スルコトナク許可制度ヲ採用スルコトスルモ猶諸外國ヨリ諸種ノ憶測ヲ受クルノミナラス特ニ利害關係最モ深キ米國側ニハ極メテ不快ノ感シヲ與フヘシ若シ委員會席上陸軍側一出席員ノ説明ノ如ク本案ハ外國會社及外國資本系會社ヲ排斥スルヲ主眼トシ之カ困難ナルニ於テハ本案ヲ實行スルノ價值ナシト爲スニ於テハ斯ル排外措置ハ諸外國トノ現行通商條約ニ照シ慎重考慮ヲ加ヘザルベカラザルノミナラズ對外關係上輕視スルヲ許サズ(通商條約上ノ支障ニ關シテハ詳細別添參照^(省略))

(二)技術上ノ考察

他省關係官ノ委員會席上ニ於ケル意見ヲ綜合スルニ多少ノ補助金ヲ交附シタリトスルモ果シテ「フオード」又ハ「ゼネラル、モーターズ」ト價格ニ於テ競争シ得ルヤノ疑問アリ寧ロ「フオード」、「ゼネラル、モーターズ」等ヲシテ本邦ニ於テ日米合辦組織ノ會社設立ヲ勸奨シ大規模ニ低廉ニ製造ニ當ラシメ以テ供給ノ潤澤ヲ圖ルコトコソ本邦自動車工業ヲ發達セシムルノ捷徑ナリトスルニ傾キ居レリ若シ如上ノ情勢ヲ無視シ本案ヲ敢行シタリトスル曉外國會社又ハ外國資本系會社ガ日本ニ於ケル工場設置ヲ爲スコトナク支那ニ持行クコトノ可能性多ク其ノ際ハ本邦ニトリ極メテ不利ナルコトヲ特ニ留意スルコトヲ要ス

(三)諸國ニ於ケル狀況

チエツコ、瑞西、澳、佛、伊、獨等本業ニ對スル國家的保護方ニ關シ最モ可能性アル諸國ニ關シ本件許可制度ノ有無ヲ取調ヘタルニ伊國以外ニ許可制度ヲ採用セルモノナク且伊國ト雖モ自動車ニ對スル特別許可制度ヲ有スルニ非スシテ國防關係製造業取締ニ關スル一般的法規ノ適用アルニ過キス又極メテ間接ノ方法ニ依リ特殊自動車ニ

日蘭印間ノ海運關係ハ今後益々復雜機微トナリ問題ノ處理ヲ要スヘキモノアリト思考セラルルニ付新設南洋海運會社ハ單純ナル代理店ヲ以テセス當地ニ獨立有力ナル支店ヲ設ケ相當重要ナル人物ヲ派遣シ蘭印官憲及同業者ト緊密ナル接觸ヲ保チ我力海運業ノ地歩ノ擁護ト發展トヲ期スルコト必要ト思考セラル右卑見遞信省へ御傳ヘアリ度シ

(付記)

外發秘第三六八六號

(9月13日接受)

昭和十年九月十一日

兵庫縣知事 湯澤 三千男(印)

内務大臣 後藤 文夫殿
外務大臣 廣田 弘毅殿

指定廳府縣長官殿

新設南洋海運會社ノ營業開始ニ干スル件

昭和十年二月七日外發秘第三六九號

對号 三月七日 第六四二號

〃 七月廿日 第三〇三六號

要旨

僅少ノ保護ヲ加ヘ居ルモノ一ニアルモ補助金ヲ與ヘ居ルモノナシ

(四)結論

之ヲ要スルニ本件ニ關シ閣議ニ上程セラレタル際ハ外國トノ條約關係ノ見地ヨリ慎重考慮ヲ要シ特ニ對外關係上極メテ深慮ヲ要スルコトヲ說示セラレ之ヲ阻止スルコトトシ別ニ外國會社トノ合辦組織ニ依ル本邦内地企業計畫ヲ獎勵スルノ方針ヲ探ラルルコトト致シ度シ

323

昭和十年八月九日 在バタビヤ越田(佐二郎)總領事より
廣田外務大臣宛(電報)

日蘭印間の海運關係機微につき新設の南洋海運會社支店への重要人物派遣に關し意見具申

付記 九月十一日付兵庫縣湯澤(三千男)知事より

廣田外務大臣宛公信外發秘第三六八六號

「新設南洋海運會社ノ營業開始ニ干スル件」

バタビヤ 8月9日後発

本 省 8月9日後着

第二四〇號

日蘭海運會商不成立後ノジヤバ、チャイナ汽船會社ヘノ對抗策トシテ邦船側四社合同ノ南洋海運會社ガ新設サレタルモ其新設ニ對シ遞信省ノ措置ニ不満ヲ抱キタル南郵會社ガ脱退ヲ主張シ會社合同ノ前途ニ暗雲低迷シタルモ鐵道大臣ノ斡旋ニヨリ圓滿解決シ新設會社ノ本支店及出張所共ニ本月一日ヨリ一齊ニ營業ヲ開始シタリ

因ミニ當初ヨリ脱退ヲ強硬ニ主張シ居タル南郵ノ板谷重役ハ個人トシテ株主ノ地位ヲ脱退スルコト、ナリ持株一萬六千株ハ郵船六千、商船六千、原田四千ノ割合ニテ引受ケルコトニ決定セリ

日蘭海運會商不成立後ノジヤバ、チャイナ汽船會社ノ對抗策トシテジヤバ關係航路就航ノ石原、商船、郵船、南郵ノ邦船側四社ガ遞信省主唱ノ下ニ南洋海運株式會社ヲ新設シタルモ重役ノ割當、出資船舶ノ評價等ニ關シ南郵側ガ不満ノ意ヲ表シ脱退ヲ主張シタル爲創立ノ劈頭ヨリ暗雲低迷シ其ノ前途ニ相當波瀾ヲ豫想セラル、ニ至リシ経緯ニ就イテハ對号既報ノ通りナルモ本問題ハ蘭印ニ對スル本邦国策遂行上重大ナル影響アリトノ見地ヨリ内

田鐵相が調停ニ乗り出スコト、ナリ客月上旬ヨリ数度南郵ノ幹部ト會談ノ結果南郵側ハ必スシモ脱退ヲ希望スルモノニ非ズ唯全社ノ板谷重役ノミガ強硬ニ之ヲ主張シ居ルニ過キサルコト判明セルヲ以テ全重役ノ新設會社持株一萬六千株ヲ合同參加ノ各會社又ハ個人ニ於テ肩替り引受ケヲ爲シ全重役ノ個人的脱退ヲ認ムルコト、シ、全月二十一日右板谷重役ノ持株ヲ郵船六千株、商船六千株、原田（南郵社長）四千株ノ割當テニテ引受ケルコトヲ決定シ千係者一同調印ヲ了シ憂慮セラレタル南郵ノ脱退騒キモ茲ニ解決ヲ見ルニ至レリ

而シテ新設南洋海運株式會社ニ於テハ十月中旬迄ニハ石原四、商船四、郵船二、南郵四、ノ都合十四隻ノ船舶及船員ノ引渡ヲ各社ヨリ受ケ得ル見込立チタルヲ以テ本月一日ヨリ東京本店、神戸支店、大阪、名古屋兩出張所共一斉ニ營業ヲ開始セリ

追テ新設會社ニ踏ミ止マルコト、ナリタル南郵ニ於テハ客月廿六日株主總會ヲ開キテ「南洋海運會社ニ參加ノ件」ヲ全會一致可決セルガ所有船舶並船員ヲ新設會社ニ引渡シタル后ハ事實上ノ營業不可能ナルヲ以テ持株會社トシ

モ(イ)一ケ年ノ消費量ヲ僅カ三月又ハ六月ノ實蹟ニテ査定スルハ妥當ナラサルコト（我對比輸出綿布ノ月別ヲ見ルニ一月四百六十萬方碼四月一千百萬^{万々}碼ト各月ノ數量區々ナレハ一ケ年ノ需要ヲ査定スルニハ一ケ年ヲ通シテノ輸入ニ依リ算出セサレハ公正ナラス）及(ロ)此種協定ハ大体過去一ケ年又ハ數年ノ統計ヲ基礎トスルヲ通例トシ三ケ月又ハ六ケ月ノ如キ短期間ヲ基礎トナスコトハ本邦輸出延悩ノ今日他ノ先例トナル虞モアリ公正ナリト言ヒ難ク從テ米側カ本年四、五、六月ノ輸入數量ヲ基礎トシテ算出セル我對比輸出自制量四千三百萬方米ニハ俄ニ同意スルヲ得ス反之我方ノ五千萬平方米案ハ往電第一七四號申進ノ通過去三年ノ平均ヨリ第三國ノ分ヲ控除シ日米兩國ニ均分セルモノニテ公正妥當ト言フ可ク旁々米國當局ノ當初ヨリ主張セル日米半々主義ヲ尊重セル次第ナリ

三、本邦當業者ハ屢次往電ニテ申進ノ通難キヲ忍ビ五千萬平方米自制案ニ同意シ大体往電第一七七號ノ趣旨ニテ既ニ着々之力準備ヲ進メ近ク實行ノ運ヒトナリ居ルニ付貴官ハ一ノ理由ニ依リ今次米側申出ノ妥當ナラサルコトヲ指摘スルト共二三ノ理由ニヨリ本邦側ノ自制案カ米國綿業

テ存続スルカ、或ハ解散スルカノ二途アルノミナルガ其ノ決定ハ来月初旬ノ株主總會ニ於テナサレル筈ナリ

因ミニ前記脱退ニ決シタル板谷重役ハ北海道ニ於テ板谷汽船會社ヲ經營シ居ルモ最近不況ノ爲財政不如意ニ陥リ南郵ノ自己持株ヲ現金化スルノ必要上強硬ニ脱退ヲ主張シタルモノニ非サヤトノ噂アリ

右及申（通）報候也

324

昭和10年8月10日

広田外務大臣より
在米國齋藤大使宛（電報）

我が方綿布の対フィリピン年間輸出量を
五千平方米に自制は合理的計算に基づき米
國にも有利であるとの我が方見解について

本省 8月10日後5時30分発

第一八六號

貴電第三三七號ニ關シ

ニ米側今次ノ申出ハ比島ニ於ケル綿布消費量査定ノ基礎ヲ最近ノ統計ニ依ラシメントスル點ニ於テ一理アルカ如キ

者ニ與フル利益ヲ米國當局ニ詳述シ往電第一七七號(ニ)ノ諒解取付ト共ニ冒頭貴電末段ノ在華紡績ノ製品ニ對シテハ比島政府ニテ適宜ノ措置ヲ講セサレハ我方折角ノ努力モ水泡ニ歸スルノミナス米國品ノ範圍ニモ喰込ム次第ナルニ付米國政府ヨリ在華紡績製品ノ取扱ニ付善處方比島政府ニ申入ルル様御交渉相成度シ

三、我方輸出數量自制案ハ(イ)現狀ニ放任セハ比島輸入本邦綿布ハ遙ニ米品ヲ凌駕スル趨勢ニアルニ不拘我方ハ米國綿業保護ノ爲進ンテ自制セントスルモノナルコト(ロ)今後比島景氣好轉セル場合ニ於テモ我方ハ最高五千萬方米ノ制限ヲ受クルニ反シ米國ハ何等制限ナク自由ニ如何程ニテモ輸出シ得ル立場ニアルコト及(ハ)本邦側ハ七月一日ニ溯及シテ自制スル次第ナレハ今後ハ從來ノ如ク本邦品激增ノ憂ナキコトニ於テ米側ニ著シク有利ナル次第ナリ

「マニラ」へ轉電セリ、紐育及商務官へ暗送アリ度シ

325

昭和10年8月14日

岸商工省工務局長より
米栖通商局長宛

自動車工業確立に関する閣議案の決定について

一〇工第七四七四號

(8月15日接受)

昭和十年八月十四日

商工省工務局長 岸 信介(印)

外務省通商局長 來栖 三郎殿

自動車工業確立ニ關スル閣議決定ノ件

豫テ調査研究中ナリシ本邦自動車工業確立ノ案件ニ關シ八月八日附十閣商第二七號ヲ以テ別紙甲號ノ通閣議決定方及請議候處八月十日附内閣商甲第一四號ヲ以テ別紙乙號ノ通内閣ヨリ指令有之タルニ付不敢取別紙相添此段依命及移牒候也

追テ具体案ノ作成等ニ關シテハ別途協議可致ニ付何卒御協力相成度及依頼候

甲號

昭和十年八月八日

商工大臣 町田 忠治

陸軍大臣 林 銑十郎

内閣總理大臣 岡田 啓介殿

自動車工業確立ニ關スル件

ノ事情ニ大ナル變化ヲ生ジ現在ノ情勢ニ於テハ一般ニ最需要ノ多キ「フォード」、「シボレー」級ノ所謂大衆車ノ製造事業ノ確立ガ最必要トセラルルニ至レリ而シテ右ノ如キ自動車工業ノ確立ノ要點ハ單ニ自動車ノ組立ノミナラズ重要ナル原料、材料及部分品ノ製造工業ヨリ自動車ノ組立工業ニ至ル迄之ヲ我國内ニ確立スルコトヲ目標トスベキモノニシテ、之ガ確立ニ當リテハ國民經濟ニ重大ナル負擔ヲ負ハシムルコトナク然モ最短ノ期間内ニ其ノ實現ヲ圖ルコトヲ要諦トセザルベカラズ然ルニ自動車工業ハ其ノ本質上如上ノ産業的見地ノ外ニ國防上ノ要求ヲ加味シテ斯業確立ニ關スル國策ヲ樹立スルコトヲ必要トスルモノニシテ、其ノ資本ヨリ技術ニ至ルマデ悉ク國內ノモノノミニ依リ之ヲ確立スルコトノ最望マシキコトハ言フ俟タザル所ナリト雖モ我國今日ノ工業發達ノ程度ヲ以テスレバ尙之ガ爲ニハ相當ノ長年月ヲ要シ更ニ國民經濟ニモ尠カラザル負擔ヲ爲サシムルコトヲ覺悟セザルベカラズ、故ニ充分發達セル製造及販賣ニ關スル外國ノ技術竝ニ便益ヲ利用スルコトモ亦大ニ考慮ヲ拂フノ要アリ即産業上國防上ノ要求、内外ノ情勢ヲ較量按畫シ現狀ニ即シテ

自動車工業確立ニ關シ別紙ノ通閣議決定相成様致度此段及請議候也

(別 紙)

自動車工業確立ニ關スル件

自動車工業ハ單ニ機械工業ノミナラズ一般工業ノ基礎ヲ爲ス工業ニシテ交通上並ニ産業上最重要ナル地位ヲ占メ、之ガ發達ノ如何ハ我國工業ノ振興上極メテ重大ナル影響ヲ有スルモノナルガ、其ノ反面ニ於テ斯業ハ又軍備ノ機械化ノ必要ニ伴ヒ益々其ノ緊要度ヲ増大シ國防上最重要ナル意義ヲ有シ須臾モ之ヲ忽ニスルコトヲ許サザルモノニシテ我國自動車工業ノ確立ハ刻下ノ急務ナリトス

然ルニ本邦ニ於ケル自動車工業ノ現狀ハ未ダ頗ル幼稚ニシテ諸外國ノ夫レニ比シ著シク遜色アルコトハ産業上並ニ國防上最遺憾トスル所ナリ

政府ニ於テハ夙ニ茲ニ鑑ミル處アリ大正ノ中葉以來軍用車ヲ中心トシテ斯業ノ發達ヲ圖リ、特ニ昭和六年以降ニ於テハ所謂一屯半乃至二屯級ノ中級車ノ製造助成ニ努メ斯業ノ確立ニ關シ種々畫策シ來レルモ、其ノ後經濟上並ニ國防上

最堅實妥當ナル方策ヲ以テ本工業ヲ指導スルコトヲ要ス更ニ所謂大衆車ノ製作ニ從事スル自動車工業ノ本格的確立ハ大量生産ヲ基礎トスルコトヲ絕對ニ必要トスルモノナルガ我國ニ於ケル大衆車ノ需要數ハ目下ノ處年約二、三萬臺ノ程度ナルヲ以テ大量生産ノ基礎ヲ維持シ斯業ノ健全ナル進歩發達ヲ期スルガ爲ニハ徒ニ多數企業ノ亂立スルコトヲ嚴ニ防止シ斯業ノ安定ヲ圖ルノ要アリ

竊テ我國ノ現狀ヲ見ルニ一面ニ於テハ最有カナル外國會社系ノ自動車組立工業ガ存在シ我國大衆車ノ殆ド全部ヲ供給シ居ルノ實狀ナルガ他面ニ於テ相當大規模ニ大衆車ノ製造計畫ヲ有シ現ニ之ヲ進メツツアル者ニ現在ノ處日産自動車株式會社及株式會社豐田自働機製作所ノ二者アリ而シテ其ノ計畫ハ何レモ未ダ完成ノ域ニ達シ居ラズ更ニ數段ノ努力ヲ犧牲トフ必要トスルノ現狀ニ在リ若シ外國系會社ノ事業ヲ自由ニ放任シ其ノ擴大強化ヲ默視スルニ於テハ我國產自動車工業ハ其ノ壓迫ヲ受ケテ事業ノ成立不可能トナルベキハ火ヲ賭ルヨリモ明ナルヲ以テ之ガ對策ヲモ併セ考究スルト共ニ前二會社ノ計畫ニ係ルモノノ如キ幼稚ナル國產自動車工業ニ對シテモ其ノ計畫ニシテ適切妥當ナルニ於テハ

指導助成ノ方策ヲ講ズルノ要アリ 而シテ我國斯業ガ資本又ハ技術ノ關係ニ於テ外國會社ト提携スルガ如キ場合ニ在リテモ企業ノ支配權ヲ日本側ニ掌握スル限リニ於テハ外國會社ト提携セザルモノト同様ニ之ヲ國產自動車工業トシテ兩者共ニ健全ナル發達ヲ遂ゲ得ル様指導及助成ヲ爲スベキモノトス依テ自動車工業確立ノ爲ニハ速ニ左記要綱ノ立法ヲ爲シ以テ斯業ノ新設乃至ハ擴張ニ關シ許可制度ヲ設ケテ之ガ統制ヲ圖リ併セテ斯業育成ノ爲ニ租税ノ減免、國產車ノ使用獎勵、金融上ノ便宜、關稅ノ引上等適當ナル助成策ヲ講ズルノ要アリト認ム

自動車工業法要綱

一普通自動車ノ組立又ハ主要部分品ノ製造事業ハ之ヲ許可事業トスルコト但シ其ノ數量ガ一定數量ニ達セザル事業ニ付テハ許可ヲ要セザルモノトスルコト
許可ノ方針ハ自動車ノ需要數量ヲ考慮シテ一社又ハ數社ニノミ事業ノ許可ヲ爲シ其ノ他ノモノニハ之ヲ許可セザルコト

三前項ノ許可ヲ受ケ得ル者ハ株數ノ過半數ガ日本臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニシテ議決權ノ過半數ガ

326

昭和10年8月21日 在シドニー村井總領事より
広田外務大臣宛

オーストラリア通商担当大臣の英国および欧

州諸国での動静について

機密第一九七號

(9月10日接受)

昭和十年八月二十一日

在「シドニー」

總領事 村井 倉松(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

英濠間ノ肉協定及濠洲首相及通商大臣ノ動靜ニ關スル件

本年二月英國皇帝ノ即位二十五年祭參列旁々豫テヨリ懸案トナリ居リタル英濠間肉問題ニ關シ協定ヲ締結スルノ目的ヲ以テ首相「ライオンズ」通商商議大臣「サー、ヘンリー、ガレット」其ノ他力渡英シタル次第ハ御承知ノ通ナル處英本國力國內農牧業保護ノ政策ヲ採リ居ルニ對シ濠洲側ハ成ルヘク多量ノ肉類ヲ英本國ニ輸出セントスルモノナルヲ以テ兩者ノ利害關係一致セス又肉供給國トシテハ濠洲以外新西蘭及「アルゼンチン」アル處英本國トシテハ右兩者ニ對

日本臣民ニ屬スルモノニ屬スル株式會社ニ限ルコト

三第一項ノ許可ヲ受ケタル事業ニ關シテハ産業上、國防上必要ナル監督規定ヲ設クルコト

四現ニ存スル自動車工業ニシテ第一項ニ該當スルモノニ付テハ本方針決定當時ニ於ケル現存範圍内ニ於テノミ既得ノ權益ヲ認メテ其ノ事業ノ遂行ヲ許容シ其ノ後ニ於ケル新設又ハ擴張ニ付テハ法律施行ノ際遡リテ其ノ權益ヲ容認セザルコト

乙號

内閣商甲第一四號

昭和十年八月十日

内閣總理大臣 岡田 啓介印

陸軍大臣 林 銑十郎殿

商工大臣 町田 忠治殿

指令

昭和十年八月八日十閣商第二七號

自動車工業確立ニ關スル件請議ノ通

シテモ相當ノ考慮ヲ拂フノ必要アリ殊ニ「アルゼンチン」ニ對シテハ英亞協定ノ拘束アル爲問題複雑ニシテ容易ニ適當ナル解決策ヲ發見スルコト能ハス濠洲側當初ノ豫想ニ反シ交渉ハ意外ニ手間取り一時ハ交渉決裂ヲ見ルニ至ルヘシト迄傳ヘラレ居リタル處七月中旬ニ至リ暫定的取極成立シタリ

右取極ハ羊肉ニ付テハ一九三六年末迄ノ輸入割當量ヲ又牛肉ニ付テハ一九三五年末迄ノ輸入量割當ヲ定メタルモノニシテ長期ニ亘ル取極ハ之ヲ後日ニ延期シタルモノナルカ濠洲側ニ對シ從來ノ實績以上ノ割當量ヲ與ヘタルモノニシテ現存ノ濠洲ノ供給能力ヲ以テシテハ果シテ其ノ全量ヲ輸出シ得ヘキヤ否ヤサハ疑問ナル程ナル趣ニシテ濠洲ノ一般輿論ハ之ヲ濠洲側ノ成功ナリトシ歡迎シ居レリ今其ノ内容ヲ見ルニ羊肉 (mutton and lamb) ニ付テハ一九三五年十二月三十日ニ終ル六ヶ月間ノ割當量ヲ濠洲九五〇、〇〇〇「ハンドレッド、ウェイト」新西蘭一、五七八、〇〇〇「ハンドレッド、ウェイト」又一九三六年ノ割當量ヲ濠洲一、七五〇、〇〇〇「ハンドレッド、ウェイト」新西蘭三、九〇〇、〇〇〇「ハンドレッド、ウェイト」ト定メ居ル所「オ

タワ」協定以来濠洲ヨリ英國ニ輸入セラレタル羊肉ハ左表ノ通ニシテ右ハ濠洲ニ取り有利ナル割當量ナリ

年度	数量	備考
一九三二年	一、一五六、〇〇〇	(單位「ハンドレッド、ウェート」)
一九三三年	一、三〇四、三五七	
一九三四年	一、六二七、八八六	
一九三五年	一、六五〇、〇〇〇	後半期割當量九五〇、〇〇〇ナ ルモ前半期ノ輸入額ノモノヲ加 フルトキハ上記数量トナル
一九三六年	一、七五〇、〇〇〇	豫定割當量

但シ英國内ニ於ケル生産及市場ノ狀況ヲ見テ將來調整スルコトアルヘキ旨ノ留保アル趣ナリ

又牛肉 (beef and veal) ニ付テハ一九三五年十二月三十一日ニ終ル六ヶ月間ノ割當量ヲ濠洲一、一五〇、〇〇〇「ハンドレッド、ウェート」新西蘭四七八、〇〇〇「ハンドレッド、ウェート」ト決定シタルカ濠洲ハ前記割當量中一六〇、〇〇〇「ハンドレッド、ウェート」ハ冷藏肉 (Chilled beef) ヲ以テ供給スルコトヲ許サレ又本年第一「クオーター」ニ於ケル濠洲肉ノ輸入カ少ナカリシ事情ヲ考慮シ第二「クオーター」分ヨリ七〇、〇〇〇「ハンドレッド、ウェート」ヲ第三「クオーター」ニ繰越シ之ヲ前記数量ニ

追加スルコトヲ認メラレタリ

今之ヲ「オタワ」協定以来濠洲ヨリ英國ニ輸入セラレタル牛肉ニ比較スルトキハ左表ノ通ニシテ濠洲ニ取り有利ナル取極ナリト云フコトヲ得ヘシ

年度	牛肉總數量	單位「ハンドレッド、ウェート」
一九三二年	九五六、二六一	〇
一九三三年	一、一六四、四六八	少量ノ具体的商品ノ輸出アリタルニ過キス
一九三四年	一、五七一、二四六	五六、〇〇〇
一九三五年	一、六八〇、〇〇〇	二六〇、〇〇〇

(後半期割當量一、一五〇、〇〇〇ニ前半期ノ輸入額及前半期ヨリ繰越量ヲ加ヘタル數字)

(後半期割當量「六〇、〇〇〇」ニ前半期分ヲ加ヘタル數字)

冷藏肉ハ濠洲ニ於テ近年輸出ヲ開始シタルモノナルカ冷凍肉ト異リ其ノ風味良好ニシテ其ノ將來有望視セラレ濠洲側ニ於テ重要視シ居ルモノニシテ其ノ數量ニ付キ増加ノ認めラレタルコトハ濠洲朝野ノ最も満足シ居ル点ナリ

諸濠洲首相「ライオンズ」ハ英國即位二十五年祭終了後モ暫ク英國ニ滞在シ同國內各地ヲ逃避シ其ノ間肉問題ノ交渉ニ付テモ關與シ居リタル模様ナリシカ同問題ノ解決時日ヲ要スルニ鑑ミ同問題ニ關スル商議ハ「ガレット」ニ一任シ六月十七日頃歐洲大陸ニ渡リ同月末歐洲發米國ニ向ヒ米國

及加奈陀ニ於テ夫々首腦者ト會談意見ヲ交換シタル上七月十七日晚香港ニ於テ「ナイアガラ」ニ乗船帰濠ノ途ニ就キタルカ同船ハ出帆后他ノ船舶ト衝突故障ヲ生シ晚香港ニ引返シタルヲ以テ同月二十三日桑港出帆ノ「マリポザ」号ニ乗船八月十二日「シドニー」ニ歸着セリ同首相ハ米國及加奈陀ニ滞在在此等兩國ト濠洲トノ間ノ貿易カ濠洲ニ取り不利ナル片貿易ナル点ヲ指摘シ濠洲品優遇方ヲ要請シタル趣ナリ尚同首相ハ米國及加奈陀ニ對シ親善使節ヲ派遣スルノ案ヲ有シ帰濠后之ヲ提議シタルカ閣僚ノ大部分ハ右使節ヲ派遣スルモ實効少ナカルヘク右使節派遣ノ爲經費ヲ支出スルハ妥當ナラストノ意見ナル爲右使節派遣ハ取止メトナルヘシト傳ヘラル首相ハ帰濠后直ニ「カンベラ」及「メルボルン」ニ趣キ閣僚ト意見交換后故郷ノ「タスマニア」ニ帰省目下休養中ナルカ九月二ハ「カンベラ」ニ歸リ我出淵大使ト會見スル豫定ナリ

他方「ガレット」一行ハ前記肉協定ノ妥結后モ倫敦ニ滞在長期協定ノ妥結方ニ關シ意見ヲ交換シ居リタル模様ナルカ同問題ノ妥結容易ナラス其ノ見込付カサル爲長期協定未解決ノ儘八月上旬「モーア」ヲ從ヘ歐洲ニ渡リ白耳義独逸波

蘭ノ諸國ヲ歴訪通商問題ニ關シ意見ノ交換ヲ爲シ居レリ未タ伊太利ヘハ赴カサルモ伊太利モ濠洲ニ對シ著シク輸入超過ノ關係ニアリ夙ニ片貿易調整ノ見地ヨリ要求ヲ提出シ居ル趣ナルニ付帰濠前同國ヲモ訪問意見ノ交換ヲ爲スモノト想像セラル

右商議ノ内容ニ付テハ之ヲ確知シ難キモ白耳義トノ商議ニ於テハ從來ノ交換公文ノ如キ特殊商品ニ限定セル取極ト異リ一般的通商条約締結ノ方針ヲ以テ商議シ居ル模様ナリ又独逸トノ商議ニ當リテハ獨逸側ヨリ独逸品ノ輸入ヲ容易ニスル爲課税評價査定額ノ決定ニ當リ實際ノ爲替相場即チ十二「マーク」ヲ一磅トスル相場ニテ計算セス二十「マーク」ヲ一磅トシテ計算センコトヲ要求シタルカ「ガレット」ハ之ヲ拒否シタル趣傳ヘラレ居レリ尚波蘭トノ交渉ニ當リテハ主トシテ羊毛ニ付キ意見ノ交換行ハレタルカ波蘭側ノ要求ハ比較的少カリシモノ、如シ

(三個月間賜暇帰朝ヲ爲シタル上本月中旬本國ヨリ帰濠シタル波蘭總領事「ノスコウスキイ」ノ談トシテ新聞ニ傳ヘラル、所ニ依レハ同人ハ波蘭ハ濠洲及其ノ他ノ英帝國ノ產品ト競争關係ニ立タサル商品ノ輸出増進ヲ希望スルモノナ

リト語レル趣ナリ同人波蘭滞在中右方針ニテ要求案ヲ立テラレタルモノト推測セラル

「ガレット」ノ歐洲諸国歴訪ハ必スシモ條約ノ最終的締結ヲ目的トセス親善使節ノ意味ヲ兼ネツ、通商條約ニ關スル一般的豫備商議ヲ爲シ居ルモノナルニ付此ノ上其ノ帰濠カ甚シク遅延スルコトナカルヘシト思考セラル、モ出淵大使カ近ク「カンベラ」ヲ訪問セラル、際ヲ利用シ我方立場ヲ篤ト説明シ成ル可ク速ニ「ガレット」ヲ帰濠セシムルカ又ハ其ノ帰濠カ更ニ著シク遅延スル見込ナルニ於テハ既ニ首相モ帰濠シ居ル次第ナルニ付他人ヲシテ条約交渉ヲ擔任セシムルコト、スル様懇談致度キ考ナリ其ノ結果何分ノ儀追報スヘキモ右不取敢御參考迄報告申進ス

327

昭和10年8月24日

広田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

対フィリピン綿布輸出問題に關し我が方當業者は自制実施中であるので米國当局に同自制的効果を静観ありたい旨申入れ方訓令

本省 8月24日午後4時30分發

ニ尙五千萬方米案ニ至ル迄ノ經緯トシテハ曩ニ對米輸出晒綿布ノ自制ハ本邦綿業者ノ猛烈ナル反對アリタルニ不拘米國側ノ感情ヲ刺戟スルコトヲ避ケン爲無理ヲ忍ンテ敢行セシメタル所ナルカ又々比島向綿布ニ關シ米國綿業者ノ爲ニ我輸出自制ヲ慫慂シ而モ其目的トスル比島關稅引上阻止ニ對シテハ何等協力ノ保障モ取付ケ得ス只一方のニ我綿業者ノミヲ拘束スルコトナリ居ル關係上至大ノ困難アリタルヲ無理ニ押切り數量モ當初五千六百萬方米ヲ固持シタルヲ五千萬方米ニ減少セシメタリ然ルニ對米輸出晒綿布ノ自制ノ結果ヲ見ルニ三月ニ於テハ約五百萬碼ナリシカ爾來各月約百萬碼宛ヲ減シ七月ニ於テハ百萬碼ニ激減シ夫レ丈ケ米國側ニ有利ニ展開シ之ト反對ニ我綿業者ノ失望ハ増加セル次第ニテ斯ル狀態ノ下ニ未タ自制ノ效果ヲ見ス更ニ米國側ノ主張通數量削減ヲ強要スルコトハ對内關係上又面白カラサル義ナリ

三、我方ノ自制數量ニ對スル日米案ノ差違ハ七百萬平方米ニ稍寄セ來リ金額ニシテ僅ニ四十萬弗ニ過キス米國側トシテハ斯ル僅少ノ問題ニテイラ立ツ程ノコトモナカルヘク我方トシテハ以上ノ困難ヲ押切り茲迄來リタル次第ニテ

第一九八號

貴電第三五六號ニ關シ

「本件ハ素々比島ニ於ケル綿布關稅引上阻止カ唯一ノ目的タルニ不拘米國ハ當初ヨリ比島關稅引上阻止ニ關シ何等協力スルコトスラ欲セス關稅引上アリタル場合ハ協定廢棄ノ一點張ニテ進ミ來リ居ル處此條件ニテ進マンカ協定ニ從ヒ我方ハ眞面目ニ輸出ヲ制限シ其後ニ至リ比島ニ於テ綿布關稅引上ヲ行フコトモナラハ我方ハ先ツ輸出ヲ制限セラレタル上ニ關稅引上ニテ輸入ヲ阻止サレ協定ハ廢棄トナル憂目ヲ見ル次第ニテ本件カ當初ヨリ行キ惱ミノ狀態ニアリシハ之カ主ナル原因タリシ次第ナリ。然レトモ比島ノ狀勢ヨリ見レハ別ニ綿布關稅引上ヲ考慮シ居ル譯ニモ無之只米國側ヨリノ關稅引上ノ勸獎ナキ限り問題ハ起ラサル可ク從テ我方トシテ日米間ニ了解成ラハ米國政府トシテモ「モーラリー」ニ「バイインド」サレ國內綿業者ノ請願ニ基キ比島側ニ關稅引上ヲ慫慂スルカ如キコトナカルヘシトノ信念ノ下ニ本邦當業者ヲ説服シ其ノ強硬ナル主張ヲ矯メテ五千萬方米案迄漕キツケタル次第ナリ

328

昭和10年9月20日

在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

対フィリピン綿布輸出問題につき我が方訓令に基づき國務省担当者と協議の上作成の文案につき請訓

別電

九月二十日發在米國齋藤大使より広田外務大臣宛第四〇〇號

右文案

他方我對比輸出綿布モ最近既ニ減少セルコトナレハ米國側カ懸念スル如ク比島市況先行不振ナルトキハ今後輸出増加ノ見込モ立タサルコトハ曩ニ對米晒輸出自制ノ例ニ徴スルモ明ナリ。本邦當業者ハ來ル廿七日ニハ對比島日本綿織物輸出組合ヲ設立シ着々自制ノ歩ヲ進メ來リ居ル際ナレハ貴官ハ本件今日迄ノ經緯ヲ詳細米當局ニ説明シ暫ク本邦當業者ノ自制ノ效果ヲ靜觀スル様申入レ置カレ度シ

「マニラ」へ轉電セリ、在紐育商務官へ暗送アリ度シ

ワシントン 9月20日後発
本省 9月21日後着

第三九八號(至急)

貴電第二一三號ニ關シ

當方申入ニ先立チ「セーヤー」ヨリ面談ヲ求メ來レルヲ以テ二十日往訪シタルニ「セ」ハ當業者ヨリ來週會見ヲ申込ミ居リ一方比島議會モ來週再開スヘク議案協議會ハ明二十一日ノ筈ナレハ長ラクノ件案ニ何トカ覺ヲ付ケサル可カラサル羽目トナリタル次第ナルカ日本政府ノ意嚮ニ付御伺ヒ出來間數キヤト切出シタルニ依リ貴電第一九八號御再訓ノ次第ヲ述ヘタル處直ニ自制ノ限度ヲ反問シタルニ付其ノ點ハ何等訓令ニ言及シアラサルモ對米晒綿布輸出自制ノ實績ニ徴スルモ決シテ米國當業者ニ不安ヲ與フルカ如キコトアラサルヘシト信ストテ往電第三五九號ノ數字ヲ披露シタルニ「セ」ハ興味ヲ以テ本使ノ説明ヲ聞キタル後今日貴大使御來談ノ次第ハ之ヲ公表シテ差支ヘナキヤト問ヘルニ付訓令ハ之ヲ豫想シ居ラサル様察セラルルモ其ノ方米國政府ニ取り都合好シトノコトナラハ一應政府ニ問合ハスヘシト述ヘ同席ノ吉澤及「ドーマン」協議ノ上作成ノ文案ヲ本

使及「セ」ニ於テ手ヲ入レテ得タル別電第四〇〇號ニ付諸訓スルコトヲ約シタリ

自制ノ限度ヲ假令抽象的乍ラ日米輸出總量ノ半分迄ト付スルコトハ米國側ノ關稅引上阻止ノ問題「ドロップ」サレタル今日政府ニ於テ御注意アルヘキヤニ付懸念アリ吉澤ヨリ此ノ點ニ付先方ニ念ヲ押シ居タルカ本件公文ハ協定ニアラス又其ノ用語ハ and so long as ... not raised ト條件ヲ附シ will endeavor to limit トナリ居リ且ツ冒頭引用貴電四ノ如キ事情アルニ於テハ此ノ程度ノ制限ヲ附スルモ差支無カルヘシト思考シテ政府ニ取次クコトヲ引受ケタル次第ナルニ付右ノ事情及米國側力急キ居ル事情御諒察ノ上二十二日中ニ到着スル様何分ノ儀御回示ヲ仰ク
馬尼刺ヘ轉電シ紐育商務官ヘ暗送セリ

(別電)

ワシントン 9月20日後発
本省 9月21日後着

第四〇〇號

The American Government has been informed

御來示ノ文案ハ

(一)我方當初ヨリ避ケ來リシ日米對比島輸出綿布ノ比率主義ヲ承認スルコト、ナリ將來米國綿布ノ輸入減退ニ伴ヒ我綿布ノ輸入モ減少セシメラレ或ハ第三國ヲシテ漁夫ノ利ヲ占メシムル、危險アルノミナラス

(二)何等數字ノ基礎ヲ示シ居ラサル爲我方力輸出ヲ自制スル場合ニモ何ヲ根據トスルヤノ標準ナク極メテ不便ナリ

依テ貴電第四〇〇號ノ最後即 Island ノ次ニ in 1934 ヲ附加スルコトニ修正致度シ

右ノ結果我方ハ一九三四年日米兩國綿布ノ比島輸入量ノ半分ヲ超エテ輸出セサルコト、ナル次第ナルカ之ヲ實績ニ徴スレハ同年ノ我綿布ノ輸入ハ五六、三五六、九八二方米米國綿布ハ四三、三一〇、六〇三兩者ノ平均ハ四九、八三三、七九二トナリ我方カ右平均ヲ最高輸出額トスレハ我方自制案ハ一九三四年ニ比較シテ六百五十二萬方米ノ讓歩トナリ(米國側ハ同額丈ノ進出トナル)旁々右最高量ハ我方從來主張シ來リシ五千萬方米ニモ接近シ輸出組合説得ニ好都合ナリ
「マニラ」ヘ轉電セリ

by the Japanese Government that there has been recently organized in Japan an association of exporters to the Philippine Islands of cotton textiles, and that the association, with a view to stabilizing cotton textile market conditions in the Philippine Islands, and so long as existing duties on cotton textiles are not raised, will endeavor to limit exports from Japan to an amount not greater than one-half the combined exports of the United States and Japan to the Philippine Island.⁽⁷⁴⁾

329 昭和10年9月22日 広田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

対フィリピン綿布輸出問題に関する國務省および我が方大使館作成新案につき輸出量の上
限を前年の両國実績の平均とすべき旨訓令

第二一六號
貴電第三九八號及第四〇〇號ニ關シ

本省 9月22日後3時25分発

商務官ニ暗送アリ度シ

330 昭和10年9月24日 在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

対フィリピン綿布輸出問題に関する我が方譲歩案
を米國國務次官補に示すも先方は難色を示し我が
方外務大臣の裁量を仰ぎたいとの意向について

ワシントン 9月24日前発
本 省 9月25日前着

第四〇四號

貴電第二一六號ニ關シ(對比島輸出綿布問題)

二十三日吉澤ヲシテ「セーヤー」ニ申入レシメタル處「セ」ハ頗ル困惑ノ色ヲ示シ in 1934 ナルニ語ノ附加ニ依リ事態ハ逆戻リトナルヲ以テ國務省トシテハ公表文ヲ發表スルトセハ立場上日本側ノ提議カ「アナクセブタブル」ナルコトヲ表明セサルヲ得サルコトナリ斯デハ「グルー」大使ヲ通シテ承知シ居ル日本政府ノ希望(貴電第一八九號中二ノ點)ハ米國政府ニ於テモ同感ナルヲ以テ之ヲ尊重シテ今日迄續ケ來レル努力ハ水泡ニ歸シ閣員委員會報告中ニ言及

澤同伴往訪シタルニ「セ」ハ昨日承リタル所カ日本政府ノ「ラスト、ウワード」ナリトセハ到底受諾シ難ク而シテ其ノ影響ニ想到スルトキハ米國政府ニ於テ從來執リ來レル對日通商問題處理方針ニ鑑ミ如何ニモ殘念ナルヲ以テ今一應廣田大臣ノ御裁量ヲ仰キ度ク昨日在東京代理大使ニ對シテ訓令ヲ發シタリトテ電文寫ヲ讀上ケタルニ依リ本使ハ此ノ上當地ニ於テハ盡スヘキ途モ無キニ依リ右訓令執行ノ結果ヲ待ツコトトスヘシト述ヘ置キタリ

尙右訓令中ニ「二十日本使申入ニ依リ「エセンシャル、アグリーメント」ニ到達シ得ルモノト思考シタリ云々」ノ趣旨アリタルヲ以テ本使ヨリ聞キ咎メタルニ「セ」ハ右ハ從來交渉ノ結果ノ「アグリーメント」ト云フ意ニアラスト答ヘタルカ爲念吉澤ヨリ「ドーマン」ニ對シ二十日本使申入ノ趣旨ハ協定ニ達シ得サルヲ以テ日本側カ一方的ニ自制シ其ノ結果ヲ米國側ニ於テ靜觀センコトヲ希望スルノ趣旨ナリシカ結局基礎トナルヘキ數字ニ付折合付カサル以上「アグリーメント」ト言ヒ得ルカ疑ハシキ旨念ヲ押シ置キタル趣ナリ馬尼刺ヘ轉電シ、在紐育商務官ヘ暗送セリ

セル日米通商關係調整方針(往電第三五九號)ノ破綻ヲ示スコトトモナリ其ノ影響ハ他ノ兩國間通商懸案ニモ及フヘキコトヲ俱ル又實際問題トシテ萬一日本側ニ五千萬前後ヲ讓ルコトトナレハ米國側ノ輸出ハ今年度ノ實績及比島ノ消費力減退ノ實狀ヨリ見テ恐ラク其ノ三、四十%以上ニ出テサル結果トナルヘシト述ヘタルヲ以テ吉澤ハ將來ニ對スル御懸念ハ尤モノコトナルカ米國政府カ當業者ノ陳情ヲ考慮セサルヘカラサルト同様ニ日本政府モ之レ以下ノ條件ヲ以テシテハ當業者說得不可能ナル事情ヲ了解セラレタク又比島ヘノ輸入ニ付テハ米國側ハ常ニ日本側ト同量迄ハ輸入シ得ル譯ニテ又消費力減退ノ點ニ付テハ最近ノ情報ニ依レハ種々ノ特殊事情ヲ考慮ニ入ルルモ尙八月分ノ數字ハ異常ノ増加ヲ示シ居レリトテ馬尼刺發貴大臣宛電報第一四五號ノ數字ヲ披露シタルモ「セ」ハ本件ハ其ノ影響スル所鮮カラサルニ顧ミ交渉打切迄ニハ慎重考慮ノ必要アルヲ以テ尙最近ノ數字ニ付テハ關稅當局ノ意見ヲモ徵シテ研究ノ要アリ同日夕刻重ネテ會談シ度キ旨希望シタルカ後刻ニ至リ右會談ヲ一兩日延期シ度キ旨電話シ來レル趣ナリ

然ルニ「セ」ハ廿四日朝本使ニ會見ヲ求メ來レルヲ以テ吉

331 昭和10年9月26日 在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

対フィリピン綿布輸出問題につき協定の期間、有効期間の起算点および在華紡問題に關し米國國務次官補より照會について

ワシントン 9月26日後発
本 省 9月27日後着

第四〇七號

貴電第二一八號御來示ノ趣二十六日吉澤ヲシテ「セーヤー」ニ申入レシメタル處恰モ明二十七日開會ノ通商審議會ニ附議シテ何分ノ回答ヲ爲スヘキ旨約シタル趣ナルカ其ノ節先方ヨリ提起シタル左ノ諸點ニ付當方應酬振成ルヘク明日午前十一時(東京時間二十八日午前一時)審議會開會迄ニハ御回電ヲ得度シ

「協定ノ期間ニ關シ「セ」ハ米國政府ハ比島議會今會期中ハ從憑ヲ爲ササルヘシトノ了解ヲ與フルコトハ可能ナルヘキモ若シ期間カ從來ノ交渉經緯ニ鑑ミ二年間ナリトスレハ其ノ期間ニ亘リテ斯ノ如キ了解ヲ與フルコト困難ナリト述ヘタルニ依リ吉澤ハ御訓令ニ明記ナキヲ以テ一應

二年間ト想像セラルルモ元來本件協定成立ノ曉ニ於テモ日本側ハ其ノ自制ニ付比島側ノ關稅引上ヲ又米國側ハ了解ヲ與フルニ付日本側ノ自制數量超過ヲ夫々解除條件トスルモノナルヲ以テ何レカノ條件ノ成就ニ依リテ効力ヲ失フコトナルヘク從テ期間ノ問題ハ米國ノ與ヘントスル了解ニハ餘リ關係ナカルヘシト思考スル旨ヲ指摘シ置キタル由ナリ

二(2) 次ニ協定成立ノ場合有効期間ノ起算點ハ從來ノ經緯ニ顧ミ七月一日トナルヘキヤト質問アリタルニ對シ吉澤ハ從來ノ豫想ニ反シテ交渉意外ニ永引き之ニ痺ヲ切ラシテ我方ノ一方的措置トシテ組合ヲ組織シ自制ヲ課スルコトトナリタル時期カ八月二十七日ナルノ事實ニ顧ミ果シテ七月一日ニ遡及セシメ得ルヤ否ヤハ當業者說得ノ都合モアルヘク問合ノ必要アリト述ヘタルニ「セ」ハ遡及セシムルコトトセハ夫レ丈ケ協定ノ成立ヲ容易ナラシムルヲ得ヘシト思考スト述ヘタル趣ナリ

三「セ」ハ協定成立ノ場合在華紡製品ノ問題（往電第三三七號末尾參照）ト同様之ヲ明記スルノ必要無シト思考シ居ルコトナルカト前置シ日本ヨリ一旦香港其ノ他ノ

本省 9月28日後6時50分發

第二二二號

貴電第四〇七號ニ關シ

往電第二二二號ノ協議案ニ於テ討議ノ結果漸ク左記ニ取纏メタルニ付出來得ル限り我方ニ有利ニ至急妥結方御配慮アリ度シ

一 本件ハ協定ノ形式ニ係ラス本邦側ニ於ケル自制ノ形式ニ依ルコト

二 米國側ノ比島綿布關稅引上不承認ニ付何等カノ形式ニ於テ諒解ヲ取付クルコト

三 自制最高量ヲ一ヶ年四千六百五十万方米（往電第二一八號參照）トシ實施期ヲ八月二十七日ニ溯及セシムルコト右溯及ヲ認メシムル爲ニハ自制最高量ヲ四千五百万方米（萬已ムヲ得サレハ四千三百万）ニ削減セシムル用意アリ（七月一日ニ遡及セシムルトキハ年内輸出殆ト不可能トナル次第ナリ）

四 自制期間ハ二ヶ年トシ各半期及年度間ニ於テ夫々其ノ該當量ノ少クトモ一割ノ融通性ヲ認ムルコト

五 冒頭貴電三ノ在華紡製品問題ハ差當り銀高ノ爲輸入激増

支那市場ニ輸入サレタル綿製品カ比島ニ於ケル現行「パリティー、アクト」適用ノ結果日本ヨリ直接輸入スルモノヨリモ課稅ノ際有利ノ立場ニ立ツコトヲ説明シ其ノ事情ヲ利用シテ右經路ヲ經テ輸入セラルルモノ既ニ鮮カラサル處此ノ種輸入力全ク自制ノ範圍外ニ置カルルニ於テハ協定ノ效力ヲ減殺スルコトナルヲ以テ此ノ點日本政府ノ配意ヲ得度シト述ヘタルニ依リ吉澤ハ右ハ自分トシテ初耳ナルカ日本ニ於テ果シテ此ノ種輸出ヲ統制スルノ方法アリタルヲ知ラス右ハ寧ロ比島稅關ニ於テ輸入ノ際ニ確ムルノ外方法無カルヘキヤニ思ハルルモ兎ニ角本省ニ報告スルコトスヘシト答ヘ尙右「アクト」ノ「テキスト」送付ヲ希望シ置キタル趣ナリ

馬尼刺ヘ轉電シ紐育商務官ヘ暗送セリ

332 昭和10年9月28日 広田外務大臣より
在米國齋藤大使宛（電報）

對フィリピン綿布輸出問題については我が方
輸出量を四千五百万平米まで妥協を認めるに
つき早急妥結方訓令

ノ見込薄ク又邦品ノ支那市場ヨリ再輸入ハ積換、倉敷、運賃等ノ諸費用ノ關係上著シキ例外的ノ場合ニノミ起リ得可ク假令之アリトスルモ問題トスルニ至ラサル少額ナルベシト觀測セラレ度シ此際本件ニ言及スルハ事態ヲ紛糾セシムル虞アルニ付之ヲ避クルコト

「マニラ」ニ轉電セリ商務官ニ暗送アリ度シ

333 昭和10年9月30日 在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛（電報）

對フィリピン綿布輸出問題に関し米國側は我
が方案をほぼ了承したので有効期間起算日を
先方主張の八月一日に改めることにつき請訓

ワシントン 9月30日後發
本省 10月1日後着

第四一五號

往電第四一三號及貴電第二二四號ニ關シ

三十日「セーヤー」ノ求ニ應ジ往訪シタルニ「セ」ハ米國政府ハ當初ヨリ本件ニ關スル協定成立ヲ希望シ段々ノ努力ヲ續ケ來レルカ今回日本政府御申出ノ四千五百萬ノ數量ハ

米國側從來ノ主張タル日米半々ノ主義ニ略合致スルヲ以テ此ノ基礎ノ上ニ左ノ要項ニ依ル協定ヲ遂ケ度シ

「協定ノ形式ハ各輸出自制及關稅引上不從憑ノ一方的聲明トスルコト但シ米國側聲明ハ公表セス又其ノ拘束力ハ現「アドミニストレーション」ノ期限即チ一九三七年一月迄タルコトトシ又此ノ間ト雖比島政府カ自發的ニ引上ヲ爲スコトハ之ヲ阻止シ得サルコトハ了承アリタシ

ニ協定期間ハ二ケ年トス

(右「及」ニ關シ「セ」ハ來年開催ノ運トナルヘキ米比通商協議會(本年四月十二日附普通第二二五號拙信及同七月二十二日附往電第三三三號參照)ニ於ケル米國側代表ニハ何等束縛ヲ加ヘス自由ニ交渉セシメ度キ意嚮ナルカ右協議會ハ獨立完成迄ノ米比間通商關係ヲ規成スヘキ協定ノ成立ヲ目的トスルモノナル處如何ナル協定ノ成立ヲ見ルトモ本件協定カ二年ノ期間内ニ何等カノ影響ヲ蒙ルコトナカルヘキ見込ナル旨内話セリ)

三、在華紡製品ハ理論上此ノ協定ノ範圍ナルヘキモ其ノ對比輸出ニ依ル協定ノ實效ヲ失ハシメサル様日本政府ノ配慮ヲ得度ク又本協定ハ支那ノ市場ヲ經由スルト否トヲ問ハ

馬尼刺ヘ轉電シ紐育商務官ヘ暗送セリ

334 昭和10年10月5日 広田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

対フィリピン綿布輸出問題につき協定の円満
運行に対する米國側努力を要請の上受諾すべ
き旨訓令

本省 10月5日後3時発

第二三一號

貴電第四二〇號ニ關シ

米國側ノ説明ニ對シ意見ナキニアラサルモ此際彼我ノ主張ヲ繰返シ事態ヲ紛糾セシムルモ本意ナキ次第ナルニ付米國當局ノ説明ヲ全幅的ニ信賴シ御來示ノ通受諾セラレ差支ナシ

累次ノ往電ニテ申越ノ通我方ノ危惧スルカ如キ事態カ協定成立後發生スルニ於テハ政府モ極メテ困難ナル立場ニ陥リ累ヲ將來ニ及ボス可キニ付此點ニ關シ米國當局ノ注意ヲ喚起シ協定ノ圓滿運行ニ關シ特別ノ御配慮ヲ煩度ク御如才モナキ儀トテ爲念

ス總テ日本ヨリ比島ニ輸出セラルル綿布ニ適用アルヘキモノト了解ス(此ノ二點ハ協定中ニ言及セサルコト累次往電ノ通)

四三三ノ次第モアリ協定實行ノ標據ハ之ヲ比島輸入統計ニ求ムルコトト述ヘ今日迄ノ交渉ニテ同意ニ達セサル點ニ話ヲ進メ協定實行起算日ハ八月一日トシ度キ旨主張シタルニ依リ(初メハ七月一日ト切出シタリ)本使試ミニ八月一日ニ讓ル場合ハ四千六百五十萬ヲ主張スヘシトノ訓令ヲ受ケ居レリト述ヘタルニ「セ」及同席ノ「ド」ハ當業者說得困難ヲ理由トシテ頗ル當惑ノ面持ヲ示シタルニ依リ話頭ヲ融通性ノ問題ニ轉シタルニ年度内ノ融通ヲ澁ル模様ヲ見セタルヲ以テ然ラハ年度内ノ融通ニ同意セラルルニ於テハ今一應八月一日四千五百萬ニテ差支ナキヤ本省ニ問合ノ上御返事スヘシト取繕ヒテ引取りタリ前記「ノ我方聲明ハ大体往電第四〇〇號文案ニ自制數量、期間及八月一日ノ實施期日其ノ他所要ノ修正ヲ加ヘタルモノヲ以テ適當ナリト思考シ居ル處右ニテ御差支ナクハ至急國務省ト協議ノ上文案ヲ作成シ米國側了解文案ト共ニ電報スヘキニ付何分ノ儀折返シ御回示ヲ仰ク

「マニラ」ニ轉電セリ、紐育商務官ニ暗送アリ度シ

335 昭和10年10月8日 在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

対フィリピン綿布輸出に関する協定は内容を
記載した書付に署名の上交換するとの意見に
ついて

別電一 十月八日発在米國齋藤大使より広田外務大臣宛

第四三〇号

右日本側書付案

二 十月八日発在米國齋藤大使より広田外務大臣宛
第四三一号
右米國側書付案

ワシントン 10月8日後発
本省 10月9日前着

第四二九號

貴電第三三一號御來示ノ次第ハ早速國務省ニ通告シ七日吉澤「ドーマン」ノ間ニ協定ノ形式文案等ニ關スル協議ヲ爲シタルカ其ノ要領左ノ通

「國務省ハ對議會關係上協定取極乃至公文交換等ノ形式ヲ執ルコトヲ極力避ケントシ米國側ニ於テハ協定内容ヲ記載シタル書付「甲」ヲ作成シ之ニ本使「イニシアル」シ其ノ寫ヲ當方ニ交付シ當方ニ於テハ右協定實施ノ條件トシテ米國政府ハ比島關稅引上不懲慫ノ保障ヲ與フルモノト了解スル旨ノ書付「乙」ヲ作成シ之ニ次官又ハ次官補ノ「イニシアル」ヲ取付ケ其ノ寫ヲ先方ニ交付スルノ形式ヲ提議シタルカ一應右ニテ差支無シト認メ案文ノ協議ニ入レリ

「右「甲」ニ付「ド」ノ原案ヲ基礎トシテ協議ノ末吉澤ニ於テ別電第四三〇號ニ付請訓スルコトヲ約シタルカ融通性ノ問題ニ付 with the proviso 以下 in any one semester 迄ノ公文ニ落着キタル經緯左ノ通

最初「ド」ヨリ年割當量四千五百萬從テ半年割當量二千二百五十萬ト明記シ其ノ各ニ付相互間一割迄融通シ得ル趣旨ヲ記載スルコトヲ提議シタルニ對シ吉澤ハ假リニ第一年度上半年期二千二百五十萬迄輸出量ヲ増サントスル場合年度間融通ノ原則ヨリ云フトキハ第二年度ヨリ一割即チ四百五十萬ヲ此ノ下半年期ニ繰上ケ二千七百萬迄輸出シ得ヘキ筈ナルニ右ノ如ク半年割當量ヲ明記スルトキハ如上假定

後半第一段ノ趣旨ノ表明ヲ希望シタルニ依ル從テ解除條件主義ヲ鮮明スルコトトナリタル次第ナリ以上話合ノ結果ニ付「ド」ハ「セーヤー」其ノ他上局ノ承認ヲ必要トスル旨保留シ居タル趣ナルカ本使トシテハ前記二ノ點ノ如キハ却テ從來ヨリ有利トナリタルコトニモアリ右形式及案文ヲ採用シテ本件妥結ヲ計ルコト然ルヘシト思考シ居ル次第ナル處米國側ニ於テ急キ居ル事情モアリ何分ノ儀至急御回示仰ク、尙別電公文ハ取急キ作成シタルモノニテ殊ニ「ド」ニ於テハ萬一議會ヨリ提示ヲ迫ラルル場合ヲ惧レテ出來得ル限リ「オブリゲーシヨン」ヲ意味スル字句ヲ避ケタル結果多少ノ無理ヲ免レサル點アルニ付字句御修正ノ際此ノ點御諒察相成度シ又國務省側ヨリモ修正意見出ツルコトアルヘキモ實質上ノ變更ヲ來ササル限リ文書ノ性質ニモ鑑ミ本使ノ裁量ニ依リ「イニシアル」スルコトト致スヘキニ付テハ右豫メ御含置ヲ請フ

本電別電ト共ニ馬尼刺^(編)ヘ轉電シ紐育商務官ヘ暗送セリ

(別電一)

ノ場合ノ下半年ハ二千四百七十五萬以上ハ輸出出來得サルヤノ解釋ヲ爲シ得ルノ餘地ヲ生シ年度内一割融通ノ趣旨ハ沒却セラルルニ至ル無キヲ保セサル旨指摘シタルニ

⁽²⁾「ド」及同席ノ同省通商係官ハ右ノ如キ場合ニハ下半年ノ融通ニ依リ超過量ハ上半年割當量ノ二割トナリ半年割當量一割融通ノ原則破壞セラルルコトナリ且ツ又或半年ノ期間ニ輸出カ片寄りテ多量トナルコトハ市場安定ノ趣旨ニモ反ストテ議論ヲ重ネタル末先方ハ半年割當量一割融通性ヲ明記スルコトヲ止メ其ノ代リトシテ或半年ノ期間内ニ輸出シ得ル最高限度ヲ表示スルコトヲ提議シ右通商係官ノ試案一割五分案即チ二千五百八十七萬五千ト前期二千七百萬トヲ折衷シテ二千六百萬ヲ持出シタルカ右ニ依レハ茲ニ假定セルカ如キ極端ノ場合ニハ百萬ノ開キヲ生スルコトナルモ二年間ヲ通シテ見ルトキハ左シテ問題トスルニモ足ラサルヘク一方半年間融通ノ限度ニ付後日紛議ヲ生スルノ惧ヲ除去スル點ニ於テ却テ我方ニ取りテ有利ナリト思考シタルヲ以テ右數字ヲ請訓案中ニ記載スルコトニ同意シタル

「書附「乙」ニ付テハ當方トシテハ別電第四三一號前半ノミニテ足ル譯ナルモ先方ハ累次ノ往電報告ノ事情ヨリ

ワシントン 10月8日後発
本 省 10月9日前着
第四三〇號
October 7, 1935

It is the understanding of the American Government that the recently formed Association of Japanese exporters of cotton piece goods to the Philippine Islands will, for a period of two years beginning as of August 1, 1935, and so long as there is no increase in the Philippine tariff on cotton piece goods, voluntarily limit imports of cotton piece goods into the Philippine Islands from Japan to a figure not to exceed 45,000,000 square meters annually; with the proviso that 10 per cent of such annual figure should be flexible, the figure for the second year being adjustable in the light of any excess over 45,000,000 square meters or of any unused balance thereof during the fiscal year, and further that the semi-annual volume of imports will not exceed 26,000,000 square

meters in any one semester. It is further understood that the statistics of imports compiled by the Philippine Customs will be used to determine the volume of imports of cotton piece goods from Japan.

(別冊1)

ロンドン 10月2日後発
本 省 10月6日前着

第四三三號

It is the understanding of the Japanese Government that, so long as imports into the Philippine Islands from Japan of cotton piece goods do not exceed a figure mutually satisfactory to the Japanese and American governments, the American Government will take no action vis-à-vis the Philippine Government looking toward any increase of Philippine tariff rates on cotton piece goods. It is recognized, however, that this understanding does not entail a commitment of succeeding administrations of the

American Government, and it is also recognized that, in the event that the next administration of the American Government should deem it necessary to approach the Philippine Government with a view to there being an increase of Philippine tariff rates on cotton piece goods, Japanese exporters would expect to determine in the light of the then existing circumstances, whether or not they would continue to regulate their shipments to the Philippine Islands.

336 昭和10年10月8日

広田外務大臣より
在仏国佐藤大使宛

シリアにおける邦品待遇に關し在來の輸出組
合の業務区域を拡張するなどの商工省意見を
參酌の上交渉方訓令

通一機密第一六三號

昭和十年十月八日

外務大臣 廣田 弘毅

在佛國

特命全權大使 佐藤 尙武殿

「シリヤ」ニ於ケル本邦品待遇ニ關スル日佛交渉ニ關スル件

曩ニ貴電第二四四號實際の協定案ヲ關係省ヘ移報シ其ノ意見ヲ求メ置キタル處今般商工省ヨリ關係省業者トモ協議ヲ遂ケタル結果トシテ別添同省來信一〇貿第六〇〇〇號寫ノ「ライン」ニテ交渉方回報アリタルカ御承知ノ通「シリヤ」ニ於ケル本邦品均等待遇問題ハ本年中ニ妥結ノ要モアルニ付委曲右ニテ御了承ノ上至急佛國側ト御交渉ノ上結果何分ノ儀御回電相成度

尙ホ交渉上何等御參考迄左記申添フ

一商工省ニテハ新各輸出組合ヲ設立セシタルコトハ統制及監督上ノ見地ヨリ成ルヘク之ヲ避ケ在來ノ輸出組合ノ業務區域ヲ擴張セシメテ之ニ當ラレムル方針ナルヲ以テ此際「シリヤ」ニ關シテモ特ニ輸出組合ヲ設立セシムルコトナク日本綿糸布阿弗利加近東組合及日本絹人造絹織物組合聯合會ヲシテ試案第一ノ組合トシテ查證機關タラシメムトスルモノニシテ同省ニテハ速急ニ對「シリヤ」輸出關係者全体ノ意嚮ヲ纏ムルコト至難ナルニ鑑ミ差當リ對「シリヤ」

輸出額ノ約四分ノ三ヲ占ムル右兩組合ヲシテ之ニ當ラシムルコト、セル次第ナリ尙ホ當方ニテハ特ニ試案第七(B)ノ東京混合委員會設置ノ要ヲ認メサルヲ以テ右兩組合ヲシテ委員會ノ職務ニ當ラシメタキ意嚮ナリ

三前記兩組合ヲ查證機關トスル結果綿糸布及絹、人絹織物以外ノ對「シリヤ」輸出本邦品ニ對シテハ查證實行困難ナル次第ナルヲ以テ試案第四ヲ「日本品ハ總テ「シリヤ」ニ於テ最惠國待遇ヲ受ク」ト變更スル必要アリ蓋シ總テノ本邦品ニ對シ最惠國品待遇ヲ許與スル諒解ノ下ニ本件實際的協定ヲ爲サントスル次第ナルノミナラス買付比率等ニ關スル規定ナキヲ以テ最低稅率適用ニハ原產地證明ノ添附ヲ以テ足り查證ノ有無ハ之カ條件ト認メラレス查證ハ單ニ「シリヤ」物產買付獎勵資金ニ充ツヘキ收入確保ノ手段ニ過キス(此點佛國側モ同意嚮ナル筈)

三佛國側ニテ前掲兩組合關係商品以外ノモノニ對シ查證セサルニ於テハ手數料收入其レ丈減少スルヲ以テ佛國側ニ取リ不利ナリト難色ヲ示シ來ル場合ヲ慮リ先ツ從價三分位ヲ切出シ(千葉書記官ハ「シリヤ」當局ニ對シ從價一分ヲ切出シ先方少キニ過クト不滿ヲ洩セル由)一應先方納得ニ努

メ先方ヨリ無査證商品ニ關スル不利益ニ言及スルニ於テハ
査證セラルヘキ商品カ對「シリヤ」輸出總額ノ四分ノ三ヲ
占ムル點ヲ指摘シ當方ヨリ從價五分迄手数料率引上ヲ承諾
シ之カ代償トシテ先方ノ云ヒ分ヲ引込マシムルモ一案カト
思考ス

(一〇) 第六六〇〇〇號寫取リ添附ノコト)

337 昭和10年10月9日 在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

對フィリピン綿布輸出に關する協定は同一の
覚書ニ通作成しそれぞれに双方が署名すべき
との米國國務次官補案について

別電 十月九日發在米國齋藤大使より広田外務大臣宛
第四三五號
右覺書案

ワシントン 10月9日後發
本 省 10月10日後着
第四三四號(至急)
往電第四二九號ニ關シ

「ル」トスル爲ニ必要ナル形式ノ變更及字句ノ修正ニシテ
殊ニ三ノ如キハ舊案ニ比スレハ改善ト認メラルヘク唯六ハ
全ク新タニ附加セラレタル事項ニシテ恐ラク比島側ヨリ萬
一横槍ヲ入レラレタル場合ニ對スル用意ナリト察セラルル
處往電第四二〇號ニ、來年ノ通商協議會ニ關スル「セ」ノ
説明ヲ容認信賴スル以上別段差支ナキヤニ存セラル而シテ
新舊兩案ノ得失ヲ考フルニ双務的協定ナル以上同一文書ニ
双方「イニシアル」スル方體裁トシテ優レタルヤニ思考セ
ラルルヲ以テ「セ」ノ希望ニ應シテ差支無シト存セラルル
處何分ノ儀至急御回示ヲ仰ク

本電別電ト共ニ馬尼刺^(マニラ)へ轉電シ紐育商務官へ暗送セリ

(別電)

ワシントン 10月9日前發
本 省 10月10日後着

第四三五號(至急)

^(イ) 往電第四三〇號 It is the understanding ヲ削リ其ノ
代リニ The Japanese Ambassador, accompanied by
Mr. Yoshizawa, counselor of the Embassy, called on

九日「ドーマン」吉澤ヲ來訪七日作成ノ二種ノ案文ヲ八日
「セーヤー」ニ示シタル處「セ」ハ極メテ慎重ノ考慮ヲ加
ヘ法律顧問ノ意見ヲモ徵シタル後協議會關係ヨリ言フモ日
米兩側カ各異リタル書附ヲ作りテ互ニ「イニシアル」スル
方法ヨリモ二ツノ書附ノ内容ヲ包含シタル「メモランダム」
オブ、カンバーセーション」ヲ二通作成シ其ノ各ニ双方カ
「イニシアル」シテ各一通ヲ保管スルコトスル方可ナリ
トノ結論ニ到達シ尙ニ「三字句ノ修正及新ニ追加スルコト
然ルヘシト認メラルル點モアリテ新案ヲ作成持參シタルト
テ別電第四三五號ノ通り修正シタルモノヲ示シ改メテ此ノ
案ニ付日本政府ノ意嚮御問合セアリタシト希望シ尙國務省
トシテハ十二日迄ニ發表ノコトニ相運ヒ得レハ誠ニ好都合
ト思考シ居ル旨述ヘタルヲ以テ吉澤ハ實質的變更無キ限り
大シタ困難ハ無カルヘシトハ思考スルモ兎ニ角七日作成ノ
兩案文ハ早速東京ヘ電報シ或ハ明朝ニモ回訓アルヘキカト
期待シ居ル際ノコトナレハ本使トシテハ新案ヲ取次クコト
迷惑ナルヘシト思ハルルモ「セ」ノ希望トアラハ本使ト相
談スヘシト答ヘ置キタル趣ナリ

新案ヲ舊案ト比較スルニ別電一乃至二ハ單一ノ「プロトコ

October, 1935, on Mr. Sayre, Assistant Secretary of
State.

The Japanese Ambassador stated that he was
authorized to inform ヲ加フ

「And so long as 〃 and provided 〃」

「The figure for the second year 〃 during the first
year 迄」ハ削除(シ) that is to say, if the imoportations
during the first year exceed or are less than the
amount of 45,000,000 square meters such excess
or balance (in no case to exceed 4,500,000 square
meters) shall be subtracted from or added to the
allotment for the second year ヲ挿入ス

「It is further understood 〃」 the Ambassador
further stated that it was the understanding of his
Government that the statistics of imports compiled
by the Philippine Customs will be used as the basis
of determining the volume of imports of Japanese
cotton piece goods 〃」

^(五) 次ニ新章ヲシテ往電第四三二一號ヲ左ノ通り修正シタルモ

ノヲ加フ

The assistant secretary of States stated that he was gratified to receive the information from the Ambassador that association of Japanese exporters of cotton piece goods to the Philippine Islands was prepared to regulate exports of Japanese cotton piece goods to the Philippine Islands. Mr. Sayre stated on the behalf of the secretary of State that so long as annual imports into the Philippine Islands of Japanese cotton piece goods do not exceed 45,000,000 square meters, the American Government will take no initiative directed toward securing an increase on the Philippine tariff rate on cotton piece goods to take effect prior to August 1, 1937, provided, however, that this statement does not entail a commitment of succeeding administrations of the American Government. The Japanese Ambassador stated that, in the event that the next administration of the American Government

should deem it necessary to approach the Philippine Government with a view to an increase of Philippine tariff rates on cotton piece goods, Japanese exporters would expect to determine, in the light of the then existing circumstances, whether or not they would continue to regulate their shipments to the Philippine Islands.

※最後に新章ナニナ

Mr. Sayre stated in the course of their conversation, in which statement the Japanese Ambassador concurred, that nothing said by them was intended to or could preclude in any way full liberty of action on the part of the Philippine Government. ヲ附加ス

~~~~~

338 昭和10年10月11日 広田外務大臣より  
在米國齋藤大使宛(電報)

対フィリピン綿布輸出問題に関する米國側覚書案に若干の修正を加え署名実施方訓令

本省 10月11日後8時10分発

第二三五號(至急)

貴電第四三四號ニ關シ

一、我方ハ舊案ヲ希望スルモ若シ不可能ナレハ新案中貴電第四三五號ヲ左記ニ修正ノ上承諾セラレ差支ナシ

(一) 同電一ノ authorized ヲ glad トシ

(二) 同電四ノ it was the understanding of his Government that ヲ削除シ

(三) 同電五ノ initiative 〽 action トシ

(四) 同電六ノ新ニ追加セル一節ヲ全部削除スルコト

二、右修正ノ理由トシテハ(一)及(二)ハ成ル丈ケ國際約束トナルカ如キ字句ヲ避ケ度キ見地ヨリ(三)ハ偶々舊案ニ action トアリ之カ initiative ニ比シ範圍モ廣ク且意味モ強キ爲(四)ハ當初ヨリ日米兩國政府間ニ議論濟ノコトナレハ之ヲ追加記載スル必要毫モ無之反テ之ヲ記載セル爲(殊ニ比島政府ノ「フール、リバティ」云ハク)比島側力獨自ノ立場ヨリ關稅引上ヲ招來スル危險多分ニアリ(在「マニラ」總領事發本大臣宛電報第一六〇號及第一六一號參照)折角成立セル協定ヲ破壞スルコトトモナリ右ハ米國政府トシテモ好マサル所ナルコトヲ確信スレハナリ

三、冒頭貴電ハ十二日迄ニ發表云々トアリ「メモランダム、

オブ、コンバーセーション」ノ形式ニテ新案全部ヲ其儘公表スルヤニ見受ケラルル處右ハ貴電第四一六號ト矛盾スル次第ナルカ其邊ノ事情折返シ電報アリ度シ我方トシテハ從來ノ諒解通公表ハ差控ヘ度キ所存ナリ

「マニラ」ニ轉電セリ 紐育商務官ニ暗送アリ度シ

~~~~~

339 昭和10年10月11日 在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

対フィリピン綿布輸出問題に関する我が方修正要求米國側承認につき同覚書に署名について

別電 十月十一日発在米國齋藤大使より広田外務大臣

宛第四三八号

米國側作成本件公表案

付記 十月十一日付

右覚書

ワシントン 10月11日後発
本省 10月12日後着

第四三七號(大至急)

貴電第二三五號ニ關シ（對比島綿布輸出問題）

御來示ノ次第吉澤ヨリ「ドーマン」ニ申入レシメタル處「セーヤー」及國務長官ト協議ノ上同意ノ旨回答アリタルヲ以テ午後四時國務省ニ於テ本使及「セ」ニ於テ「イニシアル」ヲ了シタリ「デキスト」郵送ス

冒頭貴電三ニ關シ前電ニ發表云々トアルハ協定成立ノ事實ヲ發表スルノ意ニシテ勿論「メモランダム、オブ、カンバーセーシヨン」ノ形式ニテ其ノ儘ヲ發表スルモノニアラス唯國務省トシテハ今迄交渉ノ内容ニ付外間種々ノ臆測行ハレ居ルヲ以テ此ノ際誤解ヲ避クル爲書物ニシタルモノヲ公表シ度キ意嚮ヲ有シ其ノ案ノ内示ヲ受ケタルカ其ノ内容ハ大要別電第四三八號ノ通ニシテ其ノ内四ノ前半ハ當方カ「メモランダム」ヨリ削除ヲ希望シタル點ナルモ後半ノ書方ニ依リ緩和セラレ居リ又全体ヲ通シテ當業者ノ反對ヲ惧レテ本協定ノ米國側ニ不利ナラサルコトヲ強調シ居ルモ國務省ノ立場トシテハ已ムヲ得サルヘク殊ニ五ノ點ハ豫メ貴電第一八九號ノ精神ニモ合致シ居ルモノト認メタルヲ以テ速ニ同意ヲ表シ置ケリ若シ萬一何等御意見アルニ於テハ國務省ハ日曜ノ朝刊ニ掲載セシメ得ル

様手配シ居ルヲ以テ土曜朝迄ニ電報相成度ク尙國務省當局ハ東京ニ於ケル發表カ右以前ニ行ハレ其ノ「ニュース」カ當方ニ電報セラルコトヲ懸念シ居ルニ付右御含置ヲ請フ

本電別電ト共ニ馬尼刺ヘ轉電シ紐育商務官ヘ暗送セリ

（別電）

ワシントン 10月11日後発
本省 10月12日後着

第四三八號（大至急）

「「メモランダム」最初ノ部分 to a figure not to exceed 45,000,000 square meters annually」迄ノ趣旨ヲ絞ス

ニ日本側ノ自制措置ハ日本品ノ比島輸入ヲ減スルコトトナルヲ以テ米國綿業ノ比島ニ於ケル立場ヲ著シク有利ナラシムヘシトテ今年九月迄ノ十二ヶ月間ノ日本品輸入量カ五千九百七十九萬ニ上リ又一九三四年ノ數字カ五千六百三十五萬ナリシニ比シ協定期間内ハ毎年四千五百（萬）ナルヘキコトヲ指摘ス

三、新協定（agreement）ニ依リ數量ニ於テ米國ハ日本ト

同量ヲ輸出シ得ヘキ處（比島現在ノ數量九千五百萬ニシ

テ第三國ヨリノ分五%ナルニ依リ）價格ニ於テ遙ニ日本品ヲ凌駕スヘク約二倍ニ達スルモノト觀測セラル

四、輓近國內及比島ニ於テ綿布關稅引上運動行ハレツツアル處比島政府ハ本協定ノ當事者ニアラス從テ之ニ拘束セラレサルモ而モ具ニ考フレハ本協定ハ比島及其ノ住民ノ利益ニ合スルモノニシテ又市場ノ安定ヲ招來スルコトニ依リ米日兩國綿業ニ利スル所アルコトヲ知ルヲ得ヘシ

五、米日兩國ハ商業上ノ利害ノ衝突ノ惧アル場合斯ノ如キ方法ニ依リ解決ヲ計ルコトニ於テ全ク意見ヲ同フスルモノニシテ兩國ハ双方ニ取り満足ナル調整方法ヲ確保セントスル其ノ努力ニ依リ種々兩國間ノ經濟問題ヲ各ノ正當ナル利益ヲ維持保障スルカ如キ方法ニ依リ解決スルノ能力アルコトヲ宣示スルモノナリ

（六）⁽²⁾日本當業者ハ比島市況ノ變化ニ應ジテ各年度割當量ノ一割迄相互ニ融通スルノ權利ヲ留保ストテ with the proviso 以下 in any one semester 迄ノ趣旨ヲ掲ケ月別輸入量ハ變化ヲ免レサルヘキモ平均ニ於テハ本年九月迄ノ十二月間八月五百萬ナリシモノカ日本側自制ノ結果三百七十五萬ト

ナルヘシ

（七）⁽²⁾一九三四年度日本品及米國品ノ輸入量ハ夫々全輸入量ノ五二、七%及四〇、五%ニシテ今年度ハ全體ノ輸入減退シタルニ拘ラス八月迄ニ於ケル兩者ノ比率ハ夫々五七、七%及三七、七%トナレリ米國製綿布ノ無稅ナルコト及消費者ノ嗜好其ノ他ノ理由ニ依リ價格ヨリ言フトキハ米國品ノ方多額ニシテ之ヲ本年度七月迄ノ數字ニ徴スルニ米國品ノ一平方米當リ價格ハ日本品ノ二倍ニ達シ數量ヨリ言フトキハ前者二千二百萬餘後者三千五十萬餘ナルニ價格ハ夫々二百九十萬八千弗及百九十八萬四千弗ナリ

（八）⁽²⁾一九三四年以前ニ於ケル日本ノ綿布ノ對比輸入ハ米國ニ比シ遙ニ少ク一九三〇年乃至三三年ノ四年間ニ於テハ米ノ五七%ニ比シ二七%ニ過キス故ニ今回ノ協定ハ比島市場ニ於テ日本カ最近二年間ニ占ムルニ至リタル地位ト夫レヨリ以前ニ占メ居タル地位トノ「アジャストメント」ヲ示スモノナリ

（付記）

October 11, 1935.

CONVERSATION:

The Japanese Ambassador.

Mr. Seijiro Yoshizawa,

Counselor of the Japanese Embassy.

Mr. Sayre.

Mr. Veatch.

Mr. Dooman.

Subject: Imports into the Philippine Islands of
Japanese Cotton Textiles.

The Japanese Ambassador, accompanied by Mr. Yoshizawa, Counselor of the Embassy, called on October 11, 1935, on Mr. Sayre, Assistant Secretary of State.

The Japanese Ambassador stated that he was glad to inform the American Government that the recently formed Association of Japanese Exporters of Cotton Piece Goods to the Philippine Islands will, for a period of two years beginning as of August 1, 1935, and provided there is no increase in the Philippine

tariff on cotton piece goods, voluntarily limit imports of Japanese cotton piece goods into the Philippine Islands to a figure not to exceed 45,000,000 square meters annually; with the proviso that 10 percent of such annual figure should be flexible, that is to say, if the importations during the first year exceed or are less than the amount of 45,000,000 square meters such excess or balance (in no case to exceed 4,500,000 square meters) shall be subtracted from or added to the allotment for the second year, and further that the semi-annual volume of imports will not exceed 26,000,000 square meters in any one semester.

The Ambassador further stated that the statistics of imports compiled by the Philippine Customs will be used as the basis of determining the volume of imports of Japanese cotton piece goods.

The Assistant Secretary of State stated that he was gratified to receive the information from the Ambassador that the Association of Japanese

Exporters of Cotton Piece Goods to the Philippine Islands was prepared to regulate exports of Japanese cotton piece goods to the Philippine Islands. Mr. Sayre stated on behalf of the Secretary of State that so long as annual imports into the Philippine Islands of Japanese cotton piece goods do not exceed 45,000,000 square meters, the American Government will take no action directed toward securing an increase in the Philippine tariff rates on cotton piece goods to take effect prior to August 1, 1937, provided, however, that this statement does not entail a commitment of succeeding administrations of the American Government. The Japanese Ambassador then stated that, in the event that the next administration of the American Government should deem it necessary to approach the Philippine Government with a view to an increase of Philippine tariff rates on cotton piece goods, Japanese exporters would expect to determine, in the light of the then existing circumstances, whether

or not they would continue to regulate their shipments to the Philippine Islands.

340 昭和10年11月20日 在バタヴィア越田総領事より
広田外務大臣宛

蘭印における開港規則および沿岸貿易に関する規則等の改正について

普通第二六九號 (12月21日接受)

昭和十年十一月廿日

在バタヴィア

總領事 越田 佐一郎(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

蘭領印度に於ケル開港規則、沿岸貿易ニ關スル規則等

改正ノ件

本件ニ關シテハ累次電報ノ通八月十七日附總督書翰ヲ以テ三法律案國民參議會ニ提出セラレタル處(蘭印構成法第七一條ノ手續)參議會ハ九月六日ニ至リ之ヲ制定ニ贊成ノ旨ヲ回答シタルニ付同法案ハ總テ和蘭本國議會ノ議ヲ經テ制定ノ運ニ至ルモノト思考セラル右三法案ノ内容並附屬

政府説明書ニ顯ハレタル法案ノ趣旨何等御參考迄ニ別紙ノ
通報告ス

本信寫送付先 在蘭公使、在ス、メ各領事及台灣總督府

(別 紙)

法案A (蘭領印度構成法中船舶ノ出入ニ關スル部分改正ノ
件)

第一條

一九二五年和蘭竝蘭印法令公報夫々三二七及四四七
號ヲ以テ公布シタル蘭領印度構成法 (Wet op de
Staatsinrichting van Ned-Indie)

第一八四條ヲ左ノ通改正ス

(一)政府令ヲ以テ海港トシテ指定シタル地點ヲ外國通商ニ開
放シ和蘭王國ト友好關係ニ在ル外國ノ船舶ニ對シ相互主
義ノ條件ノ下ニ且一般的竝地方的法規ノ遵守ヲ條件トシ
テ之カ入港ヲ許ス

(二)其ノ他通商船舶ノ蘭領印度寄港ニ關シテハ別ニ法律ヲ以
テ定ム

第二條

テ沿岸航海ヲ禁止スル事アルヘシ

第二條

本法施行ノ期日ハ追テ之ヲ定ム

法案C (法案 第一條第二項施行規則)

第一條

本法ニ於テ

「海港」(Zeehaven) トハ航海船舶ノ寄港シ得ヘキ、政

府令ヲ以テ指定スル蘭領印度ノ地點ヲ謂フ

「沿海地點」(Kustplaats) トハ航海船舶ノ寄港シ得ヘ

キ蘭領印度其他ノ地點ヲ謂フ

「沿岸貿易」(Kustvaart) トハ如何ナル航路ニ依ルヲ問

ハス航海船舶ヲ以テ或海港又ハ沿岸地點ニ於テ

貨物ヲ積込ミ(又ハ船客ヲ乗船セシメテ之ヲ荷

卸(又ハ)下船地タル他ノ海港又ハ沿岸地點ニ

運送スル行爲ヲ謂フ

第二條

(一)海港ハ和蘭國旗ヲ掲クル船舶及相互主義ノ原則ニ依リ並
一般的、地方的法規遵守ノ條件ノ下ニ和蘭國ト友好關係

本法施行ノ期日ハ追テ之ヲ定ム

法案B (二八五〇年八月八日ノ和蘭海運擁護法中改正ノ件)

第一條

一八五五年七月十四日(和蘭法令公報第一〇五號)
一八六二年八月十五日(和蘭法令公報第一七〇號)及
一九一二年六月二十九日(法令公報和蘭第二〇八號蘭
領印度第四七七號)附法律ヲ以テ改正後ノ一八五〇年
八月八日ノ和蘭海運擁護法 (de Wet van 8 Augustus
1850 tot regeling van de belangen der Nederlandsche
Scheepvaart (法令公報和蘭第四七號蘭領印度第四二二號)
中更ニ左ノ通改正ス

一、第六條ヲ左ノ通改正ス

本法第一條ノ條件ニ該當スル國ノ國旗ハ「スリナム」及
「キュラサオ」ニ於テ和蘭國旗ニ準ス

二、第八條ヲ左ノ通改正ス

和蘭國旗ヲ掲クル船舶ニ對シ沿岸航海ヲ禁止スル國、植
民地、屬領、保護領、委任統治地域及其他ノ非獨立地域
ニ船籍ヲ有スル船舶ニ對シ和蘭國ノ歐洲ニ在ル領域ニ於

ニ在ル國ノ國旗ヲ掲揚スル船舶ニ對シ之ヲ外國通商ノ爲
ニ開放ス

(二)政府令ヲ以テ前項規定ノ船舶中特定ノ種類又ハ大キサノ
モノニ限り外國通商ヲ許ス沿岸地點ヲ指定スル事ヲ得

(三)總督又ハ其ノ代理官ハ特別ノ場合又ハ特殊ノ貨物ニ付必
要ニ應シ一定ノ條件ノ下ニ沿岸地點ヲ第一項規定ノ船舶
ニ對シ外國通商ノ爲ニ開放スル事ヲ得

第三條

(一)和蘭國旗ヲ掲揚スル船舶ハ次項規定ノ場合ヲ除キ沿岸貿
易ニ從事スルコトヲ得

但シ一般的並地方的法規ニ遵ハサル場合ハ此ノ限ニ非ス
(二)政府令ヲ以テ沿岸貿易ニ從事スルカ爲ニ總督ノ認可ヲ必
要トスル場合ヲ指定スルコトヲ得

右認可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

(三)總督又ハ其代理官ハ特別ノ場合又ハ特定ノ航路若ハ特殊
貨物ノ運送ニ付必要ニ應シ一定ノ條件ノ下ニ第一項ノ國
旗ニ關スル規定ノ適用ヲ免スルコトヲ得

第四條

(一)和蘭國旗ヲ掲クル船舶ハ海港又ハ沿岸地點ニ於テ第二條

及第三條ニ依ル行爲以外ノ行爲ヲ爲スコトヲ得
但シ一般的並地方的法規ヲ遵守セサル場合ハ此ノ限りニ
非ス

(二)和蘭國ト友好關係ニ在ル國ノ國旗ヲ掲クル船舶ハ相互主
義ノ條件ノ下ニ左ノ場所ニ於テ前項ノ行爲ヲ爲スコトヲ
得

a、海港

b、第二條第二項又ハ第三項ニ依リ當該船舶ノ外國通商
ヲ許シタル沿岸地點

c、第三條第三項ニ依リ當該船舶ノ沿岸貿易ヲ許シタル
沿岸地點

d、政府令ヲ以テ指定スル沿岸地點

但シ一般的並地方的法規ヲ遵守セサルトキハ此ノ限り
ニ非ス

第五條

(一)左ニ掲クル者ハ一萬盾以下ノ罰金ニ處ス

a、第四條第二項ニ基キ同條規定ノ行爲ヲ爲スヲ許サレ
居ラサル沿岸地點ニ於テ陸上トノ連絡ヲ目的トスル行
爲ヲ爲シタル和蘭國旗ヲ掲ケサル船舶ノ船長

令ニ違反シテ或行爲ノ行ハルヲ妨害シ之カ行ハレタル
トキハ其回復ヲ爲サシメ且或行爲ノ行ハレサルトキハ之
ヲ爲サシムルコトヲ得

但シ可能ニシテ且適當トスルトキハ豫メ警告ヲ與フ

(六)政府令ヲ以テ指定スル權限者ハ第一項ノ罪ニ對スル訴追
省略ノ爲嫌疑者ト和議ヲ結フ事ヲ得

第六條

(一)港務長 (haven meesters) 及輸出入税及消費税局官吏
ハ本法規定ノ遵守ヲ監督ス

(二)第五條ノ罪ニ關シテハ一般犯罪ノ搜查ヲ擔當スル官公吏
ノ外前項ノ官吏及政府令ヲ以テ指定スル者之カ搜查ヲ爲
スノ權限ヲ有ス

第七條

本法ハ之ヲ左ニ適用セス

a、軍艦及和蘭國旗ヲ掲クル公用船舶

b、海難及危急ノ場合

第八條

本法施行ニ關スル細則ハ政府令ヲ以テ定ム

第九條

b、第二條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依ル權利無クシテ
或沿岸地點ニ於テ蘭領印度外ニ於テ積込ミ又ハ乗船シ
タル貨物又ハ乗客ヲ離船セシメ或ハ蘭領印度外ニ於テ
荷卸又ハ下船セシムルノ目的ヲ以テ貨物ヲ積込ミ又ハ
乗客ヲ乗船セシムル船舶ノ船長

c、第三條第三項規定ニ依ル權利無クシテ沿岸航海ノ爲
貨物ノ積込ヲ爲シ又ハ乗客ヲ乗船セシメ或ハ沿岸航海
ノ後、貨物ヲ卸シ又ハ乗客ヲ下船セシムル和蘭國旗ヲ
掲ケサル船舶ノ船長

d、第三條第二項規定ノ場合ニ於テ所要ノ認可無ク又ハ
認可ノ條件ニ違反シテ沿岸航海ノ爲貨物ヲ積込ミ若ハ船
客ヲ下船セシムル和蘭國旗ヲ掲ケサル船舶ノ船長

(二)前項ノ罪ハ之ヲ輕罪ト看做ス

(三)犯罪ニ供シタル船舶及之ヲ組成シタル貨物ハ之ヲ沒收ス
ルコトヲ得

(四)前項ノ船舶及貨物ハ罰金及訴訟費用支拂ノ擔保トシテ之
ヲ處分スルコトヲ得

(五)政府令ヲ以テ指定スル權限者ハ違反者ノ計算ト危險ニ於
テ必要ニ應シ強力ヲ使用シテ本法、本法ニ基ク法規、命

本法並本法施行ノ爲ノ政府令ハ土人裁判官ノ管轄ニ屬スル
直接行政地域内ノ土人ニ對シテモ亦之ヲ適用ス

第十條

(一)本法施行ノ期日ハ追テ之ヲ定ム

(二)本法施行ノ日ヨリ一九一二年九月二十日ノ條例(蘭印法
令公報第四七九號)ハ之ヲ廢止ス

(三)本法ハ之ヲ蘭印法令公報ヲ以テ公布セラレタル年度ノ
「蘭領印度航海法」(Indische Scheepvaart-wet) ト稱
ス

附屬説明書内容

一、概説、蘭領印度ニ關スル現行ノ航海法規ニ依レハ
(一)直接行政地域内ニ於テハ

a 一般通商ノ爲ニ開放セラレタル港ニ於テハ和蘭王國
ト友好關係ニ在ル諸外國ノ船舶ハ通商ノ爲ニ蘭領印
度諸港間ノ沿岸航海及外國トノ間ノ航海ヲ爲ス場合
並給水、石炭ノ搭載等貿易以外ノ目的ヲ以テ無制限
ニ入港スルヲ許サル(蘭領印度構成法第一八四條第
一項)

b 其ノ他ノ港ニ於テハ

(イ)和蘭船舶並外國船舶ハ通商以外ノ目的ノ爲ニ入港ヲ許サル(蘭領印度構成法第一八四條第二項)

(ロ)沿岸貿易ノ場合ハ和蘭船舶ニ限ル(緊急ノ場合ニ於テ特定ノ航海又ハ特定ノ貨物ノ運送ニ付外國船舶ノ入港ヲ許ス事アリ(一八五〇年ノ航海法第六條第二、三項))

(ハ)外國航海ノ場合ハ特殊ノ場合ヲ除キ蘭領印度ニ船籍ヲ有スル土人船舶(關稅條例(Rechtenordonantie) 第一條第二、四項)(蘭印法令公報一九三一年第四七一號)ニ限ル

(ニ)右原則ハ單ニ直接行政地域ニ關スルモノニシテ土人自治領ニ付テハ

a 政治協定ニ依リ作成セラレタル港表ニ記載セラレタル港 (Inlandsche havens) ハ總テノ船舶ニ對シ差別ナク開放サル(事實上直接行政地域ノ一般通商ニ開カレタル港ニ等シ)

b 「港」ニ非サル其他ノ地點ニ於テハ和蘭船舶ハ州長官 (Het Hoofd van gewestelijk bestuur) ノ許可ヲ以テ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得

然シテ簡明ヲ期スルカ爲メ蘭領印度ニ於ケル船舶入港及沿岸航海ニ關スル規定ヲ全蘭領印度ニ適用スヘキ一個ノ法律ニ取纏ムルコトトシ茲ニ法案Cヲ作成シタルモノナルカ從テ蘭領印度ノ沿岸航海ニ關スル規定ヲ一八五〇年八月八日ノ和蘭海運擁護法ヨリ分離セシムルノ必要生シテ法案トナリ蘭領印度構成法第一八四條ノ改正ハ之ヲ法案Aヲ以テセリ

三 法案A (外國船舶ノ蘭領印度海港入港ニ關スル規則)
現行ノ蘭印構成法第一八四號ハ左ノ通

(一)一般通商ニ開放セラレタル蘭領印度ノ港ニ於テハ和蘭王國ト友好關係ニ在ル外國船舶ノ入港ヲ許ス但シ一般並地方的法規ニ遵ハサル場合ハ此ノ限りニ非ス

(二)其他ノ港ニ於テハ沿岸貿易並輸出入稅徵收ニ關スル法令ニ牴觸セサル限り右船舶ノ入港ヲ許ス但シ一般並地方的法規ニ遵ハサル場合ハ此ノ限りニ非ス

第一項ハ一九二三年十二月九日ノ「海港ノ國際制度ニ關スル條約ニ關聯スルモノニシテ右條約加入ニ依リ蘭領印度ハ第一項記載ノ港ニ於テ總テノ締約國ノ船舶、貨物及船客ニ對シ其入港及使用ニ付同條約附屬規程ノ制限ヲ除

但シ外國船舶ハ總督ノ特別ノ認可ヲ要ス

上敍ノ如ク現行ノ法規ハ二元的性質ヲ帶ヒ之カ單一化ハ國益ニ反セサル限り行動ノ自由ヲ保證スルノ開港、航海法規ニ關スル根本原則確保ノ爲ニ必要ナル處時節柄行政機構ノ緊縮ヲ必要トスル折柄長キ海岸線ニ亘ル輸出入稅ノ徵收、移民ノ入國取締、密輸入防止等ヲ容易簡便ナラシメ且ハ沿岸貿易ヲ和蘭國旗ノミニ留保スルコトハ經濟不況時ニ於テ島嶼國ノ缺キ得サル領内ノ規則的連絡ヲ保證スルモノナルノ見地ヨリ茲ニ現行法規ノ改正ヲ爲サントスルモノナリ

斯クテ今次ノ三法案ノ趣旨トスル所ハ

a 直接行政地域ニ關スル海港及航海法規ヲ土人自治領ニ迄及ホシ以テ法規ノ一元ヲ期ス

b 外國船舶ノ出入ヲ原則トシテ政府令ヲ以テ指定スル外國通關ニ開放セラレタル海港ニ限ル

c 原則トシテ沿岸貿易ヲ和蘭國旗ニ留保ス(外國通商ニ開放セラレタル海港間ノ航海ニ關シテモ亦同シ)

ノ三ニシテ同時ニ例外的待遇ヲ可能ナラシメ以テ商工業、農栽培業ノ利益ノ損セラルルコトナキヲ保セントス

キ自國船舶ト均等ノ待遇ヲ與フルノ義務ヲ負フ(但シ此ノ均等待遇ハ沿岸貿易ノ爲ノ出入ニ之ヲ及ホサス)

第二項ハ一九二二年六月二十九日ノ法律(法令公報和蘭第二〇七號蘭領印度第四七六號)ニ基キ一般通商ノ爲

ニ開カレ居ラサル外國船舶ノ立入ヲ制限スルモノナル處給水、食糧ノ積込等ノ通商以外ノ目的ノ爲ニハ總テノ地點ニ立寄ルヲ得ル事トナリ居リ監督、取締容易ナラス

茲ニ新第一項ハ「海港」ト指定シタル地點ニ於テノミ外國通商ヲ許スノ原則ヲ定ムルモノニシテ從來ノ「一般通商」ヲ「外國通商」ニ代ヘタルハ意味ノ闡明ヲ期スルカ爲ト「外國通商」ナル方前記國際條約ノ規程第一項ノ意味ニ適スルカ爲ナリ

三 法案B (沿岸航海ヲ和蘭國旗ニ留保)

一八五〇年八月八日ノ法律第六條ハ

「本法第一條ノ條件ニ該當スル國ノ國旗ニ對シテハ和蘭國ノ植民地及屬領ニ於テ和蘭國旗ト均等ノ待遇ヲ與フ但シ右均等待遇ハ蘭領印度ノ沿岸航海ニ及ハス

和蘭船舶蘭領印度ニ船籍ヲ有スル船舶及此種船舶ニ準スル土人船舶ニ限り現行ノ法令ニ從ヒ蘭領印度ニ於テ沿岸

貿易ニ從事スルコトヲ得

(註)「本法第一條ノ條件ニ該當スル國」トハ

一、沿岸貿易及漁業ヲ除キ自國港ノ出入ニ關シ和蘭國旗ニ對シ自國旗ニ均等ナル待遇ヲ許與シ

二、植民地ヲ有スル場合植民地ニ於テ航海ニ關シ和蘭國旗ニ對シ自國旗ニ均等ナル待遇ヲ許與シ

三、和蘭植民地ノ生産物又ハ和蘭港ヨリノ貨物ノ運送ニ付不利ナル差別稅ヲ課セサル(自國植民地ノ生産物及之ヲ運送ノ爲ノ特惠待遇ハ此ノ限リニ非ス)

國ヲ謂フ)

トアリタル處一九一二年六月二十九日ノ法律ヲ以テ第二項以下ハ左ノ通改正セラレタリ

「右均等待遇ハ蘭領印度ニ於ケル沿岸航海ニ關スル限リ一般通商ノ爲ニ開放セラレタル港間ノ航海以外ニ及ハサルモノトス和蘭船及蘭領印度ニ船籍ヲ有スル船舶ニ限リ蘭領印度ニ於テ一般通商ノ爲ニ開放セラレタル港外ニ於テモ沿岸航海ニ從事スルコトヲ得

總督ハ緊急ノ場合ニ於テ一般通商ノ爲ニ開放セラレタル港間ニ於テノミ沿岸航海ニ從事シ得ル船舶ニ對シ特

期船及土人ノ艇船ノ外小モーター船ニ依ル運送發達シ茲ニ蘭領印度ノ沿岸航海ヲ和蘭國旗ニ留保スルヲ必要ト認ムルモノナリ

四 法案c (蘭領印度航海法規)

法案cハ蘭領印度ノ海港及航海ニ關スル新原則ヲ定ムルモノニシテ

(一)政府令ヲ以テ指定スル海港 (Zeelhavens) ト海港ニ非スシテ航海船ノ出入シ得ヘキ沿岸地點 (Kustplaatsen) ノ間ニ區別ヲ設ク沿岸地點ナル觀念ハ固定的ノモノニ非スシテ事情ニ應シテ沿岸ニ在ル任意ノ地點ヲ「沿岸地點」ト定ムルコトヲ得ルモノナリ
(二)次イテ外國貿易 (海港ノ國際制度ニ關スル規程第一條及第二條參照)

沿岸航海 (蘭領印度ノ地相互間ノ海運) 及海港又ハ沿岸地點ニ於ケル通商以外ノ目的ヲ以テスル寄港ノ三者間ニ區別ヲ設ク

然シテ

A海港ニ於テハ外國國旗ヲ掲クル船舶ハ和蘭國旗ヲ掲クル船舶ト同様出入ヲ許サル (法案第二條第一項) 貿

定ノ航海又ハ特定貨物ノ運送ノ爲ニ右範圍以外ノ沿岸航海ヲ許スコトヲ得

其他蘭領印度ニ於ケル沿岸航海ニ付テハ條例ヲ以テ定ム

一九一二年ノ改正ノ意義ハ蘭領印度ノ直接行政地域ニ於ケル沿岸航海カ一般通商ノ爲ノ港ノ間ニ於テ外國國旗ノ爲ニ開放セラレタルニ在リ其理由ハ當時外國船舶カ爪哇、マドラ、スマトラ西海岸、タバヌリ、ベンクーレン、ラムボン地方、パレムバン、ジャムビー、バンカ・ピリトン等ニ於テ沿岸航海ヲ禁セラレ其他ノ地方ニテハ之ヲ許サレ居タルノ狀態カ無意義ナルモノト判定セラレタル一方和蘭船ノミニテハ當時沿岸航海ノ需要ヲ滿タスニ充分ナラサリ事情アリタルニ依ルモノニシテ直接行政地域ニ於テモ行政機關ノ整備シ居ル一般通商ニ開カレタル港ノ間ニ於テ之ヲ許容スルコトトシタルナリ然ルニ今ヤ一九一二年ニ於テ自由ナル方針ヲ採ラシメタル當時ノ情勢ハ全ク變更スルニ至リ海運界不況ノ結果和蘭海運ハ困難ヲ嘗メツツアル一方島嶼間ノ交通ハ著シキ發達ヲ來タシK. P. M. ノ定

易以外ノ目的ヲ有スル場合亦同シ (第四條)

但シ沿岸貿易ニ關スル限リ和蘭國旗ヲ掲クル船舶ニ限リ出入ヲ許ス但シ之ニ認可制ヲ採用スルコトアルヘシ

(第三條一、二項)

尙特別ノ場合又ハ特定ノ航路或ハ特殊商品ノ運送ニ付外國船舶ニ對シ沿岸航海ヲ許スコトアルヘシ (第三條第三項)

B沿岸地點ニ於テハ原則トシテ外國船ノ入港ヲ禁シ和蘭國旗ヲ掲クル船舶ハ沿岸航海ノ場合及貿易以外ノ目的ヲ以テスル場合ニ限リ入港ヲ許ス (第三條第一項及第四條第一項)

但シ左ノ例外ヲ設ク

a 特定ノ大キサ又ハ種類ノ船舶ノ爲ニ外國貿易ヲ許スヘキ沿岸地點ヲ指定ス (第二條第二項)

從來蘭領印度ニ船籍ヲ有スル土人船舶ハ關稅條令 (Rechtenordonnantie) 第一條第二項ニ依リ一般通商ノ爲ニ開放セラレタル港以外ノ地ニ於テモ外國向貨物ヲ積ミ或ハ外國ヨリ來ル貨物ヲ卸ス事ヲ得タル處斯卡ル特權ハ海港ノ國際制度ニ關スル規程第一

條、第二條ノ主義ニ鑑ミ面白カラス茲ニ「海港」ノ數ヲ不必要ニ擴張スルコトナクシテ土人船類ノ貿易ノ自由ヲ保證セントスルモノナリ

b 必要ニ應ジ特定商品ニ付外國貿易ヲ許スヘキ沿岸地ヲ指定ス（第二條第三項）

c 外國々旗ヲ掲揚スル船舶カ貿易以外ノ目的ヲ以テ出入シ得ヘキ沿岸地ヲ指定スルコトアルヘシ（第四條第二項）

d 外國旗ヲ掲揚スル船舶ニ對シ特定ノ航路又ハ特定商品ノ運送ニ付沿岸航海ヲ許シ且特別ノ場合沿岸貿易及外國航海ヲ許スコトアルヘシ

341 昭和10年11月28日 広田外務大臣より
在仏国佐藤大使宛（電報）

シリアにおける邦品待遇に関する交渉促進を

仏国側に申入れ方訓令

本省 11月28日発

本件交渉ニ關シテハ本邦側ノ努力ニ拘ラス解決遷延シ居リ年内妥結ハ現状ヨリ觀テ至難カト氣遣ハル、處今一息ニテ

妥結ニ到達シ得ルモノト認メラレ且又本邦當業者ニ於テハ

本件交渉ノ成否ニ付テ不安ノ念ニ驅ラレ商談ヲ躊躇シ居ル者モ有ル實狀ナルニ付此ノ際本件ヲ一氣ニ解決シ以テ本邦品ニ對シ最惠國待遇ヲ確保致度ク就テハ佛國側ニ對シ至急交渉ヲ促進セラル、ト共ニ遷延ノ責カ先方ニ在ル點ヲ指摘シ交渉力若シ年内ニ妥結ヲ見サル場合ハ明年ニ亘リテ之ヲ繼續スルコト、シ交渉繼續中邦品ニ對シ引續キ最惠國品待遇ヲ供與スル様（先方カ期限ヲ主張スルニ於テハ差當リ六ヶ月位）佛國側ノ諒解ヲ取付ケラレ結果回電有リ度シ

編注 本電報は、原本が見当たらないので、写しを採録したため、電報番号が欠落している。

342 昭和10年11月29日 在タイ矢田部公使より
広田外務大臣宛（電報）

タイ米の輸入許可継続につき意見具申

バンコク 11月29日前発
本省 11月29日前着

來通り繼續セラレ度ク萬一輸入數量ヲ減スルコト是非トモ必要ナル場合ニハ全然打切トセス少量ツツ繼續許可アル様手心ヲ用ヒラレ度ク御配慮ヲ請フ

343 昭和10年12月3日 広田外務大臣より
在タイ矢田部公使宛（電報）

来年のタイ米輸入許可數量を本年程度とする

旨通報

本省 12月3日後5時40分発

第一七九號（極秘）

貴電第二七〇號ニ關シ

（一）本年碎米ノ許可輸入濟ノ量ハ約二十五萬石（合計約三萬五千噸）ナルガ猶數萬石ノ輸入促進方手配中ナリ

又來年ニ於テモ本邦米穀事情ニ大ナル變化無キ限り本年ト略同量ノ輸入許可ヲナスヘキ旨農林省事務當局ノ諒解取付ケ濟ミナルニ付キ今後トモ當業者ニ於テ必要トスル限り大體輸入ヲ繼續シ得ヘキ見込ナリ

（二）尙シヤム米ノ滿洲ヘノ輸入ニ關シテハ何トカ之ヲ實現セシメ度ク右方途ニ關シテハ目下考究準備中ナルヲ以テ具

第二七〇號

本年暹羅米ノ對本邦輸出ハ本月迄ノ所略三萬五千噸ニ達スル見込ナル處（其ノ内六月以前ニ係ルモノノ極僅少ナルハ御承知ノ通り）最近本邦ヨリノ引合全ク杜絶エタル由ニテ右ニ付三井ヨリ内聞セル所ニ依レハ本邦當局ニ於テハ暹羅米輸入許可ハ此ノ邊ニテ打切ノ意嚮ラシキ趣ナルカ右意嚮果シテ事實ナリヤ本邦本年ノ作柄ハ大體平年作ニシテ加フルニ政府手持米減少シ居リ目下新米出廻期ニ拘ラス左シテ米價下落ノ徴アルニアラスト承知シ居レル處一方先般來ノ軍艦建造引受ニ當リテモ（我方引受八隻兵器ヲ含ミ總金額約二千萬圓）暹羅側カ日本ノ暹羅米買付ノ條件ヲ提出スルコトナキカヲ最惧レ居タル次第ニシテ幸ニ其ノ事無キヲ得タルハ今夏以來相當數量ノ買付ヲ繼續シ來レルカ爲ト存セラル

然ルニ軍艦入札終了ト時ヲ同フシテ暹羅米ノ買付ヲ打切ラルルトキハ今後ノ對政府取引上非常ニ我立場ヲ不利ニ陷ルルコト必然ナルノミナス如何ニモ我方ノ肚ヲ見透サルルカ如クニテ政府及國民一般ノ感情ヲ惡化スルノ結果トナリ大局上甚タ面白カラスト思考ス就テハ暹羅米輸入許可ハ從

體案成立ヲ待チ更ニ申進スヘシ

344 昭和10年12月(7)日 在仏国佐藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

シリアにおける邦品待遇に関する交渉促進を
仏国外務次官などに申入れについて

パ リ 発
本省 12月7日着

〔編註〕
本件交渉ニ關シ六日「レジエ」(外務次官)ト會見ノ上日
本側ニ於テハ能フ限りノ好意ヲ以テ「シリヤ」側ノ困難緩
和ニ努メ双方ニ取り満足ナル解決ニ到達セムカ爲メ態々千
葉ヲ同地ニ派遣シタル結果得タル妥協案ニ就テハ「マルテ
ル」(「シリヤ」高級委員)ハ素ヨリ佛國外務省ノ協賛サヘ
得タル過去ノ成行ニモ拘ラス其ノ后交渉停頓シ本使トシテ
モ該案ヲ本國政府ニ推奨シタル行懸上今更佛國側ノ故障ニ
遭フ様ニテハ本國政府ニ對シ申譯ナキ次第ナリト交渉遷延
ヲ難シタル處「レジエ」ハ本使ト前回會見后直ニ取調ヘタ
ルニ本件ハ商工省側ノ苦情ニ遭ヒ停頓ノ事情昨日漸ク判明
セルニ依リ商工省ト急速交渉解決方取計フヘキ旨述ヘタリ

右ノ通り佛側遷延ノ理由ハ本使等モ懸念セル委任統治委員
會ニモ亦英國トノ共同動作ニモ非サルカ如ク此ノ點安心ヲ
得タルカ協定成立迄ニハ日時ヲ要スヘキヲ以テ當業者ニハ
相當戒心スル様御勸告アリ度シ

編 注 本電報は、原本が見当たらないので、写しを採録した
ため、電報番号、発電日などが欠落している。

345 昭和10年12月21日 在バタビア越田總領事より
広田外務大臣宛(電報)

オランダ政府による蘭印各船会社に対する補
助金下付に関する調査結果報告

バタビア 12月21日後発
本省 12月21日夜着

第三三五號
貴電第一七六號ニ關シ(蘭印各船會社ニ對スル補助金額問
合方ノ件)先ツ管船局長ニ照會セル處和蘭及蘭印諸船會社
ニ對シ現在迄何等ノ補助金ヲ下付シ居ラサル旨回答セルニ
付諸方面内探ノ要ヲ生シ手間取リタルカ補助金又ハ之ニ類

仍テ更ニ本使ヨリ本年内ニ我方ト交渉纏マラサル場合ト雖
モ「シリヤ」側ニ於テ明年早々突如最高稅率適用等ノ行動
ヲ執ラサルハ勿論當業者側ノ實質的損失ヲ避クルタメ數ヶ
月前ノ豫告ナシニ現狀ヲ破棄スルカ如キコト無カルヘキ様
懇談シ先方ノ諒解ヲ取付ケタリ

同日夕刻外務省係官ニ面談ノ際同官ハ先刻御話ノ商工省
側ノ困難ハ何トカ片付ケ得ル見込ナリ即チ商工省側ニ於テ
ハ日本妥協案ニ依レハ「シリヤ」產品ノ日本向輸出ハ獎勵
セラルヘキモ日本品ノ輸入ハ制限セラレサルカ爲メ佛本國
ノ對「シリヤ」輸出ニ依然大影響ヲ及ボスヲ以テ日本案ハ
此ノ儘ニテハ受諾シ難シト主張スルモ何トカ説得シ得ヘク
此ノ點ニ關シテハ外務省ニ於テ最后ノ決定權ヲ有スト述ヘ
更ニ但シ日本側ニ於テハ輸出許可ノ査証ニ際シ價額ノ一分
(此點在佛大使ヘ照會中)ヲ徵收スルコトナリ居ル處餘
リ少額ナル爲メ商務省ニ對シ右協定力單ニ形式的ノモノニ
非サル所以ヲ説明スル上ニモ必要ニ付佛側ヨリ増額方申出
ツルコトアルヘシト附言セルニ付本使ヨリ徵收手数料ノ率
ハ妥協案交渉ノ折好意ヲ以テ話合ニ應スヘシト述ヘ置キタ
リ

スト認メラル收入概略左ノ通(單位盾)

一 J、C、J、L

本年中頃七十五萬ノ補助ヲ請願セルカ最近蘭本國ノ例ニ
倣ヒ之ヲ無利子ノ融資トシ利益アラハ國庫ニ返納スル條
件デモ宜シキ旨申出テ目下經濟省ニ於テ審議中ノ模様

二 K、P、M(一箇年當リ)

(イ) 蘭印内命令航路及郵便物運輸契約ニ基ク報酬二十萬

(ロ) 蘭印ニ於ケル文官旅費ノ中 K、P、Mノ收入見積

三百二十萬

(ハ) 海軍軍人同上七萬

(ニ) 陸軍軍人同上百萬

計約四百四十七萬

三「ロツテルダム、ロイド」及「ネーザーランド」(一箇年
當リ)

(イ) 文官ノ蘭印渡航費蘭本國ニ於ケル支出九十五萬

(ロ) 文官ノ蘭印ト本國間旅費蘭印ニ於ケル支出二百七十萬

(ハ) 海陸軍軍人同上本國及蘭印ニ於ケル支出計二百萬

合計約五百六十五萬尤モ其ノ一社當リ約二百八十二萬
五千

尙、「ロ」及「ネ」社ハ右以外ニ政府ノ生産スル諸物産其ノ輸入諸物資ノ運輸ニ依リ相當多額ノ収入アル模様ナルモ詳細ハ目下不明ナリ

四⁽²⁾

和蘭議會ハ過般海運保護ノ爲八百萬盾ノ支出豫算ニ協賛ヲ與ヘタルカ右ハ和蘭船會社ニシテ同國ト外國間ニ航路ヲ有スルモノニ對シ無利子ノ融資ヲ爲スモノニシテ其ノ適用ヲ受ケ居ルハ目下「オランダ アメリカライン」ノミニシテJ、C、J、Lハ之ニ均霑セサル趣ナリ

五、尙J、C、J、Lニ關シ政府ハ蘭商及華商ニ對シ極力同社船ヲ利用スル様内密ニ命令的勸告ヲ爲シ居ル模様ニシテ假令補助金ハ交付セストモ他ノ總ユル手段ヲ以テ之ヲ

保護スル方針ト認メラル

六、追テ當領管船局長ヨリ本電冒頭ノ回答ト共ニ同局カ日本政府及臺灣總督府ノ下付スル海運補助金ニ關シ諸方面ヨリ集メタル資料區々ナル趣ヲ以テ正確ナル數字ノ供給方依頼越セルカ同局長トシテハ上記ノ内少クトモ(二)ノ(イ)ニ付テハ本官ニ之ヲ通報スヘカリシニ拘ラス不親切ナル回答ヲ爲セルハ不都合ニシテ我方モ默殺シテモ可ナルヘキモ今後ノ爲紳士的態度ヲ教示スルト同時ニ本官參考トシ度キニ付右數字御回電アリタシ

蘭、「スラバヤ」、「メダン」、臺灣外事課長ヘ暗送セリ

付 カナダに対する通商擁護法発動問題

346

昭和10年3月8日 広田外務大臣より
在カナダ後藤(鑑尾)臨時代理公使宛電報

対カナダ貿易が著しく日本側に不利である原因は
同国側の極端な為替ダンピング税および公定相場
制によるとして改善のための交渉開始方訓令

本省 3月8日後6時発

第三號

晚香坡宛往電第二號ニ關シ

一、本邦對加輸出改善方ニ關シテハ關係廳トモ充分打合せ且當方對原案(二月廿六日附通二機密第一〇號 貴地到着ノ上折衝開始ノ意嚮ナリシモ在京「マラー」公使ハ目下頻ニ本國政府ヲツ、キツ、アル趣ニテ巧機會ニ於テ話ヲ切出スコト有利ナリト思考セラル、ニ付テハ貴官ハ加奈陀當局ニ對シ客年往電第四〇號前半ノ本邦側立前ヲ述ヘラル、ト共ニ日加間貿易カ今日ノ如キ顯著ナル片貿易トナリタルハ全ク加奈陀カ本邦物價乃至貿易ノ實狀ニ關係ナク制度全体トシテ理論ニ偏スルノ嫌アル「ダンピン

グ」税及公定相場制度ヲ我方ニ極端迄實行シツ、アルカ爲ニ外ナラサルヲ以テ日加貿易改善ハ是非共我輸出障礙ノ根本原因ヲナス右諸制度ニ觸ルルノ要アル所以ヲ數衍力説セラレ左記ニ及ニ理由ト合セ先ツ「ダンピング」税及四十九弗八十五仙ノ公定相場廢止方御申入相成度シニ「ダンピング」税廢止理由

一、爲替ノ關係上邦品ノ價格低廉ナリトセバ從量税ハ右ニ對シ極メテ大ナル負擔トナルノミナラス從價從量税共累次ノ引上ニ依リ極メテ高率トナリ居リ之以上猶「ダンピング」税ヲ賦課スルハ過酷ノ措置ト云ハサルヲ得ス
二、本邦ハ原料輸入ノ爲高キ爲替ヲ支拂居リ且金輸出禁止以來内地物價モ非常ニ騰貴シ居レリ

三、公定相場制ニ關シテハ加奈陀モ金輸出禁止ヲナシ居リ現實ノ爲替相場存スルニ不拘課税評價額算定ノ爲實在セサル相場ヲ基礎トスルハ了解シ難シ

晚香坡ヘ暗送アリタシ

編注 『日本外交文書』昭和期Ⅱ第二部第三卷410文書。